机上配布資料

志賀原子力発電所2号炉
地下構造評価について

データ集

2023年10月20日
北陸電力株式会社

Copyright 2023 Hokuriku Electric Power Co., Inc. All Rights Reserved.

北陸電力株式会社

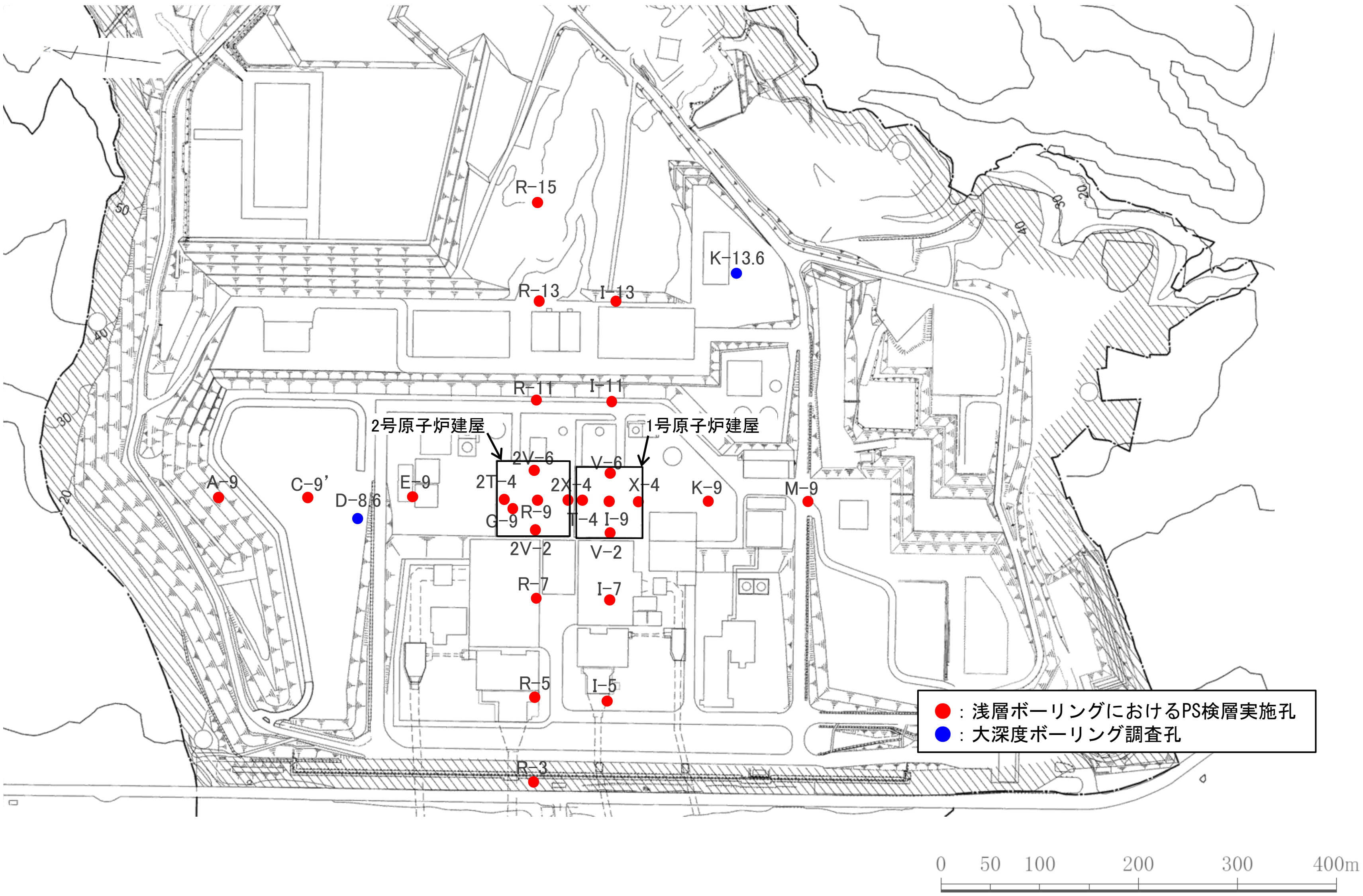
余白

目　次

1. 敷地地盤の調査結果 ・・・・・・・・・・ 4
1.1 浅層ボーリング孔を用いた調査結果 ・・・・・・・・ 6
1.2 大深度ボーリング孔(K-13.6孔)を用いた調査結果 ・・・・・・・・ 18
1.3 大深度ボーリング孔(D-8.6孔)を用いた調査結果 ・・・・・・・・ 127
2. 微動探査の評価結果 ・・・・・・・・・・ 139
2.1 広域微動探査における相互相関関数の評価結果 ・・・・・・・・ 140
2.2 単点微動探査における各観測点の微動H/Vスペクトル比の評価結果 ・・・・・・・・ 150
2.3 単点微動探査における各観測点の微動H/Vスペクトル比の逆解析結果 ・・・・・・・・ 156
3. 観測記録による地下構造の検討に用いた地震観測記録及び応答スペクトル比 ・・・・・・・・・・ 165
3.1 水平アレー地震観測記録(地表)を用いた検討 ・・・・・・・・ 166
3.1.1 水平アレー地震観測記録(地表) ・・・・・・・・ 167
3.1.2 水平アレー地震観測記録(地表)を用いた検討における到来方向ごとの全地震の応答スペクトル比 ・・・・・・・・ 246
3.2 水平アレー地震観測記録(地中)を用いた検討 ・・・・・・・・ 261
3.2.1 水平アレー地震観測記録(地中) ・・・・・・・・ 262
3.2.2 水平アレー地震観測記録(地中)を用いた検討における到来方向ごとの全地震の応答スペクトル比 ・・・・・・・・ 318
3.3 鉛直アレー地震観測記録を用いた検討 ・・・・・・・・ 323
3.3.1 鉛直アレー地震観測記録 ・・・・・・・・ 324
3.3.2 鉛直アレー地震観測記録を用いた検討における到来方向ごとの全地震の応答スペクトル比 ・・・・・・・・ 408

1. 敷地地盤の調査結果

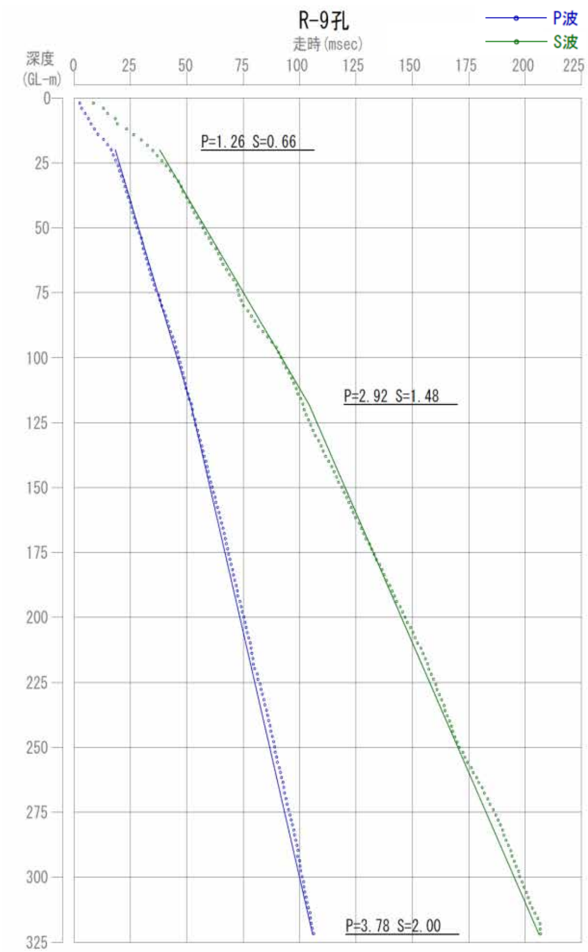
調査位置図

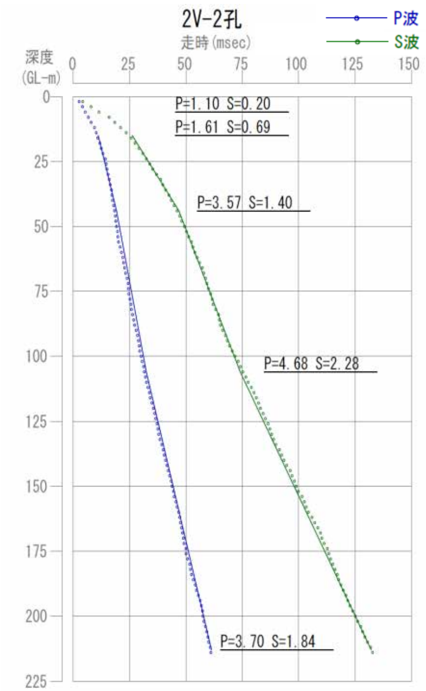

R-15
K-13.6
R-13
I-13
R-11
I-11
2号原子炉建屋
1号原子炉建屋
2V-6
V-6
A-9
C-9'
D-8.6
E-9
2T-4
2X-4
X-4
K-9
M-9
G-9
R-9
T-4
I-9
2V-2
V-2
R-7
I-7
R-5
I-5
R-3
50
40
30
20
●：浅層ボーリングにおけるPS検層実施孔
●：大深度ボーリング調査孔
0 50 100 200 300 400m

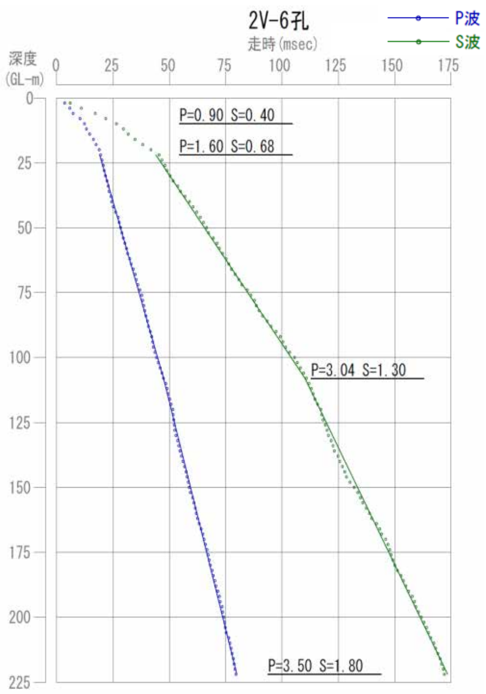
1.1　浅層ボーリング孔を用いた調査結果

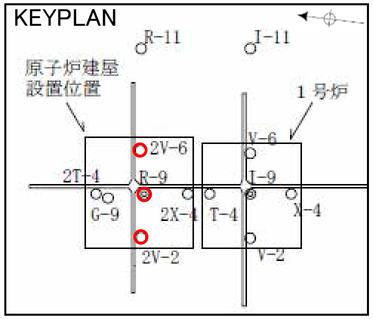
PS検層等の走時曲線（1/11）

■走時曲線(1/11)



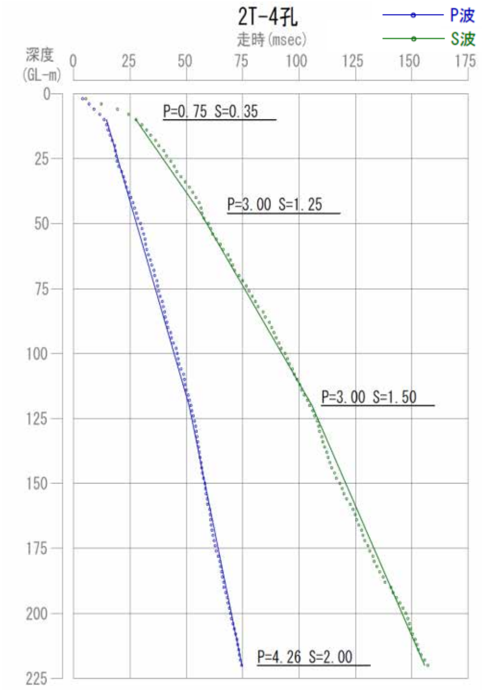


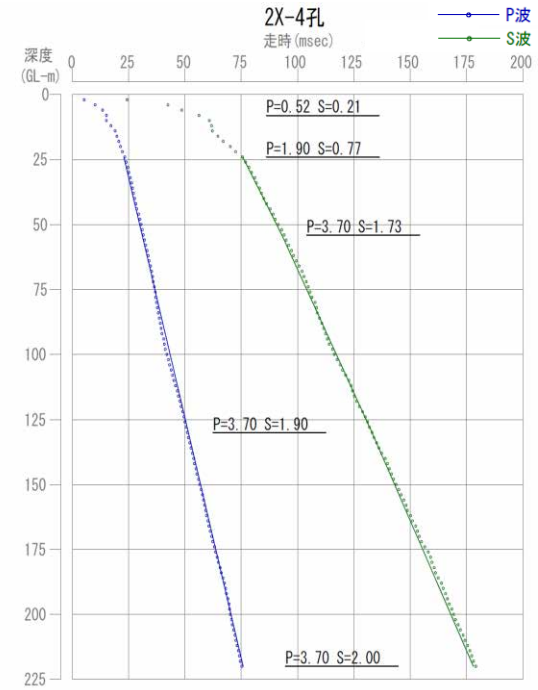


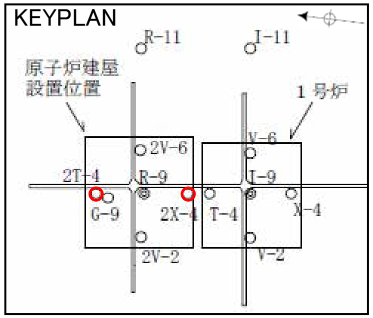


PS検層等の走時曲線(2/11)

■走時曲線(2/11)

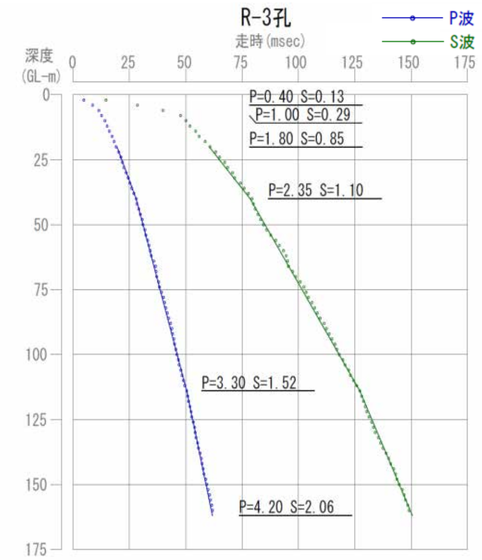


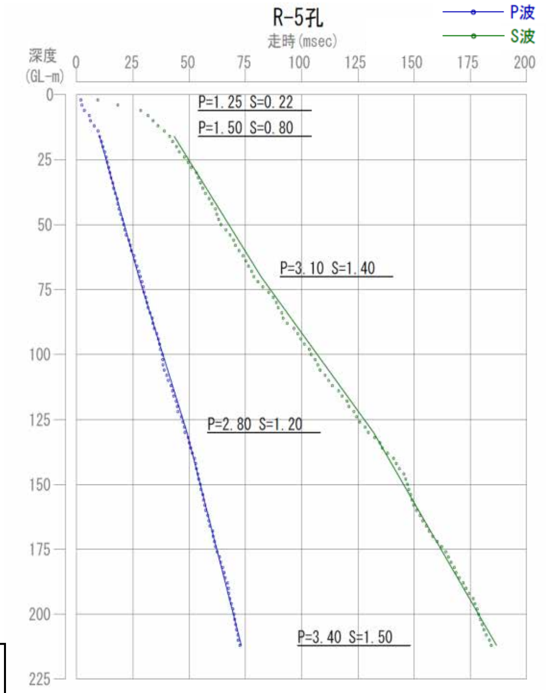


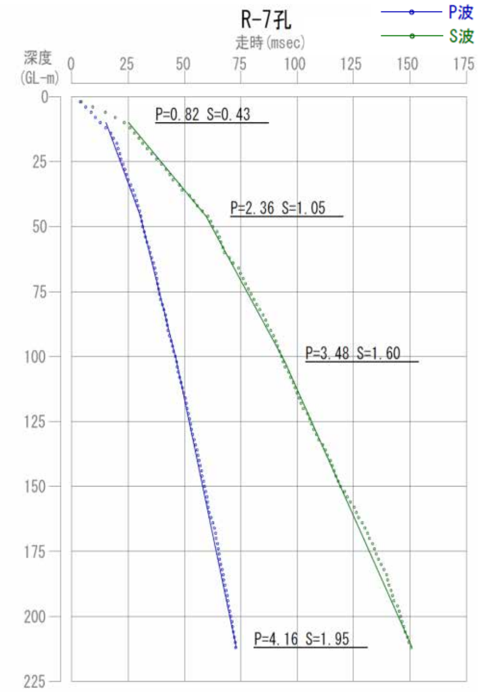


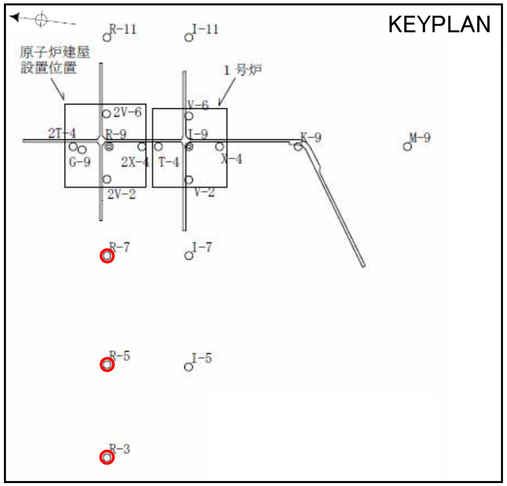
PS検層等の走時曲線(3/11)

■走時曲線(3/11)



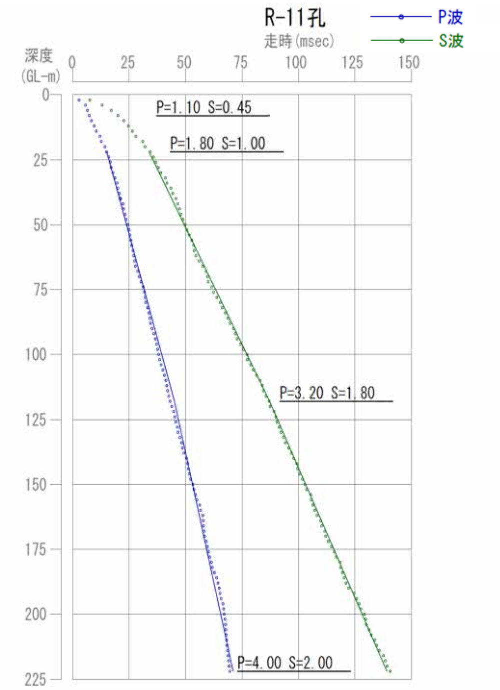


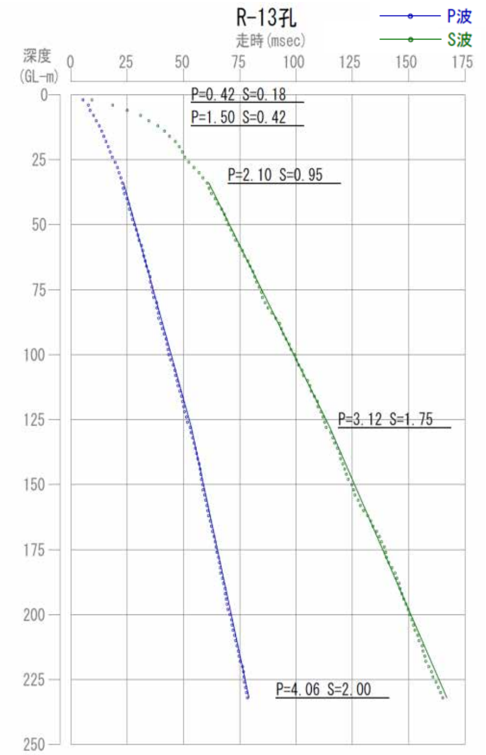


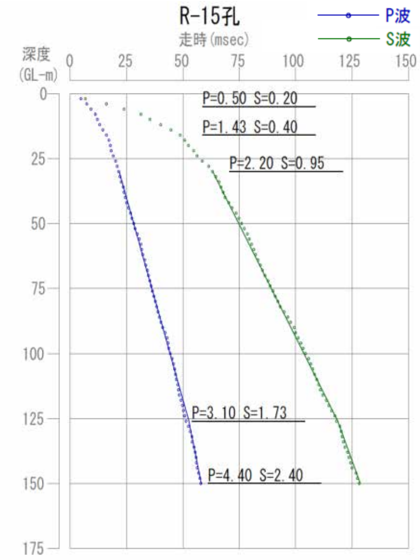


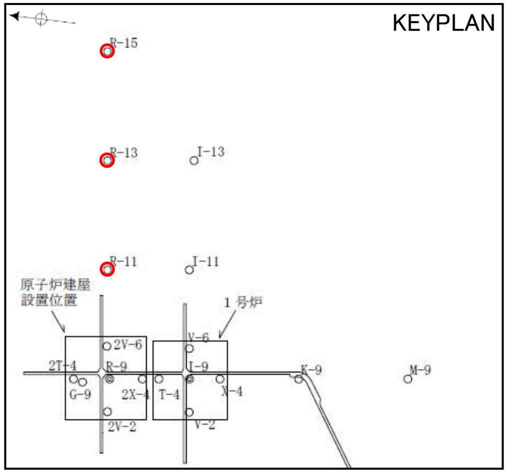
PS検層等の走時曲線（4/11）

■走時曲線(4/11)



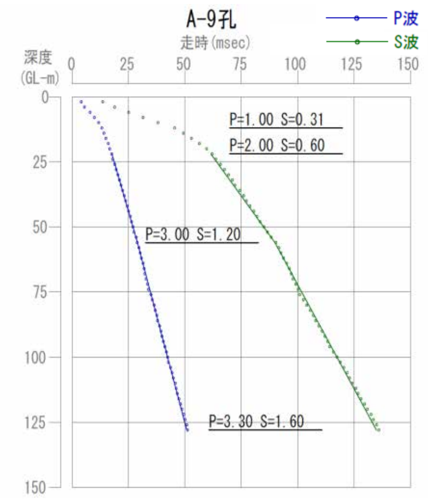


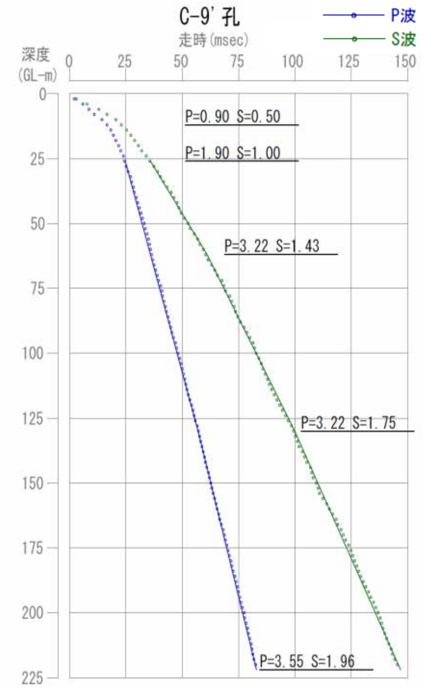


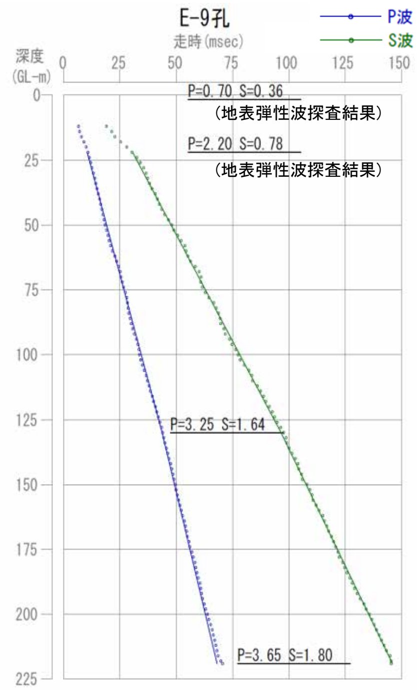


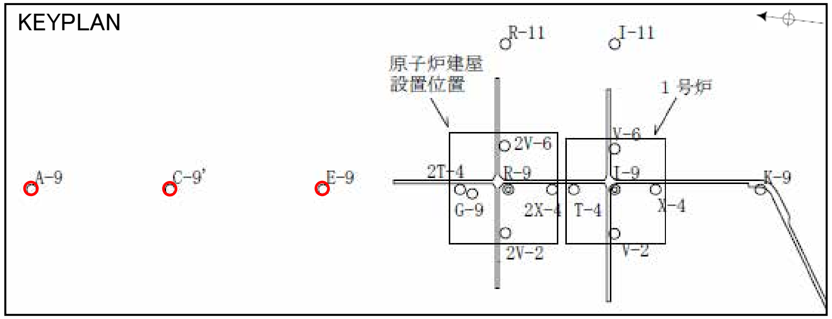
PS検層等の走時曲線(5/11)

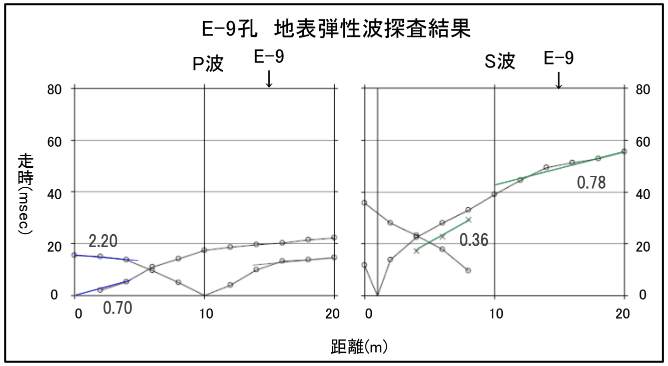
■走時曲線(5/11)





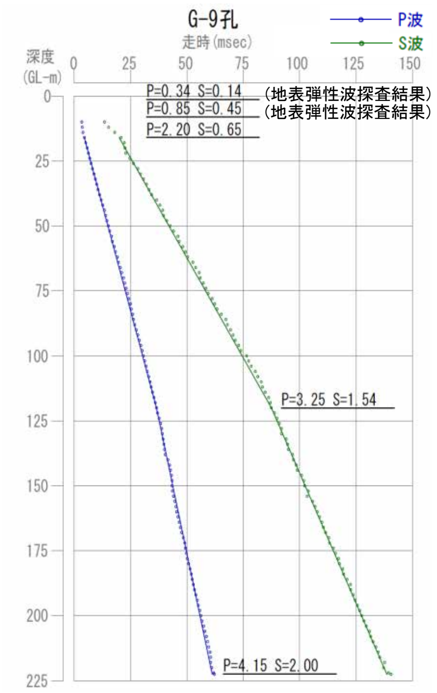


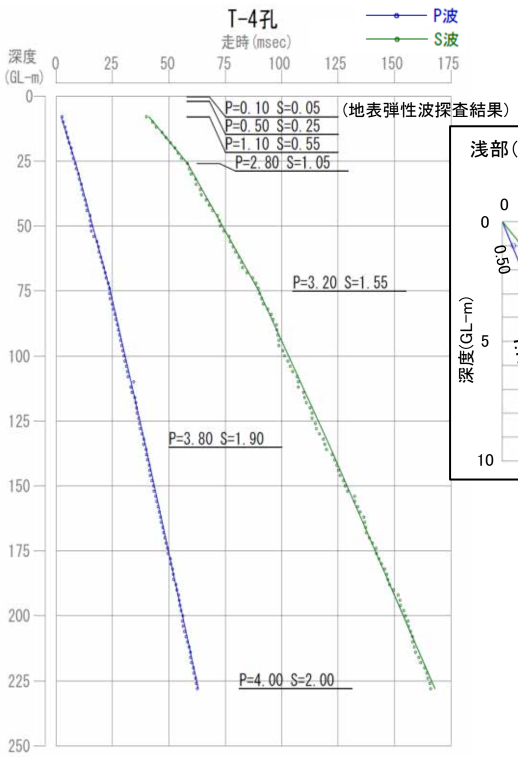


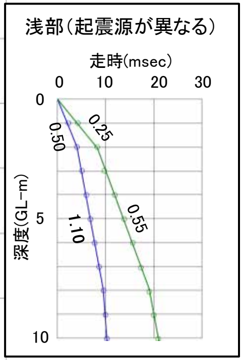


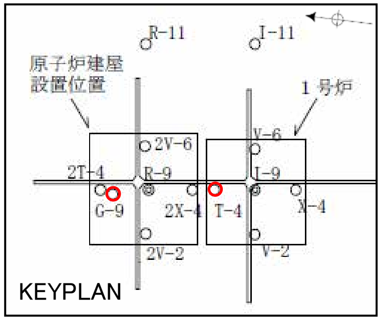
PS検層等の走時曲線(6/11)

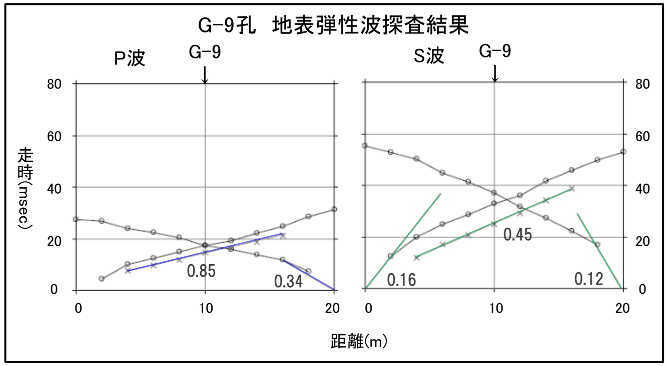
■走時曲線(6/11)

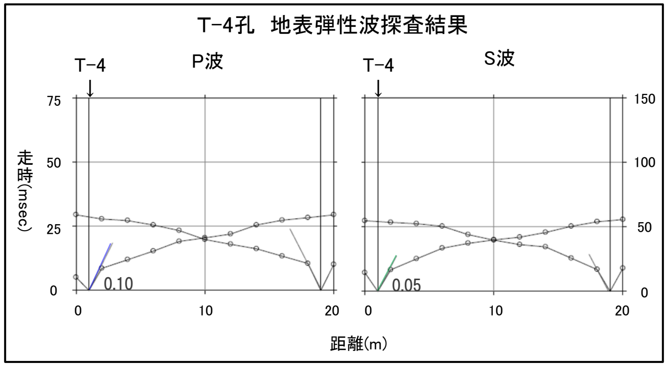






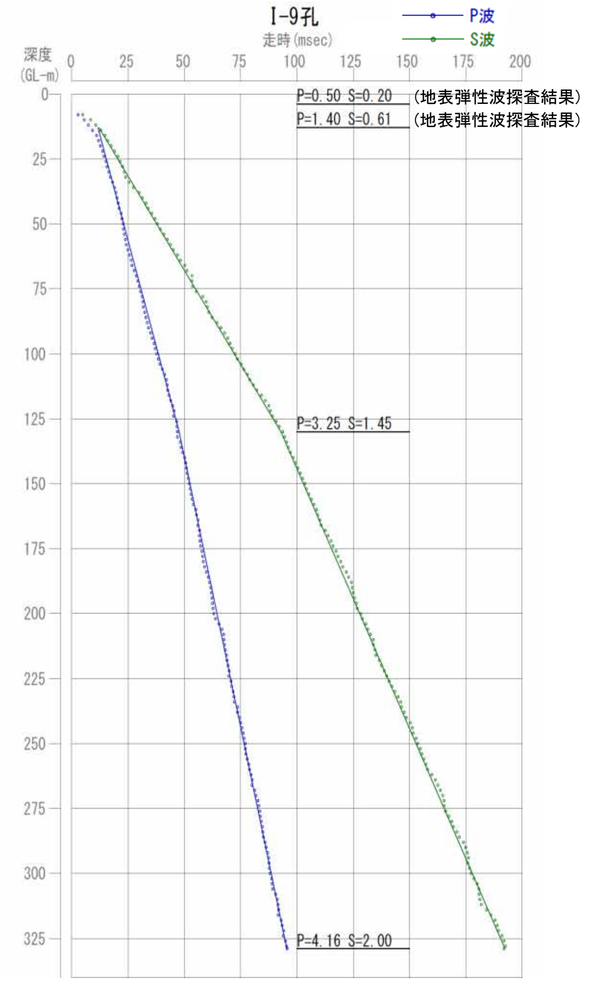


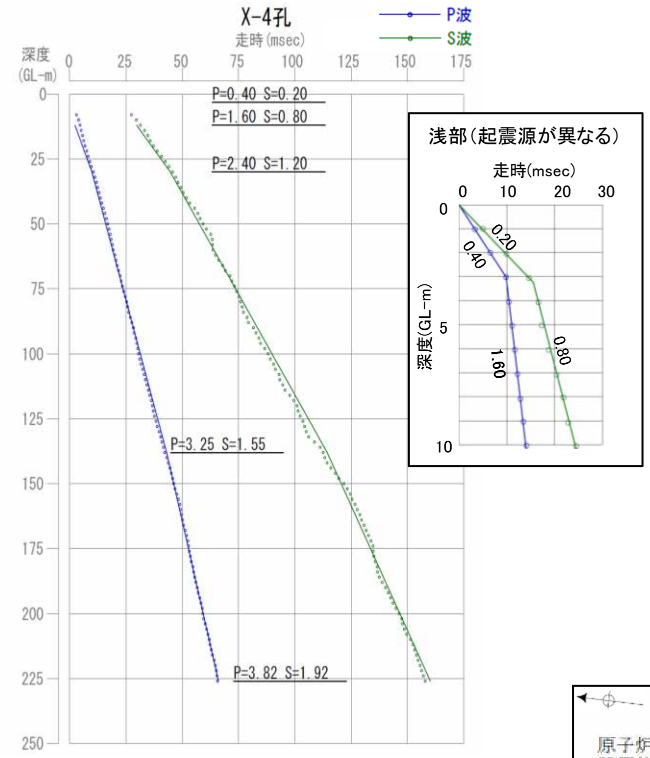


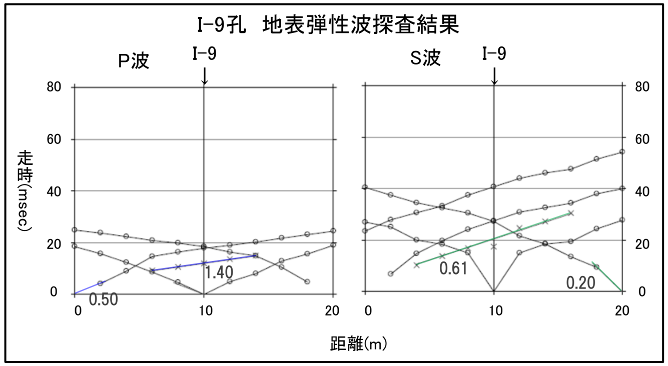


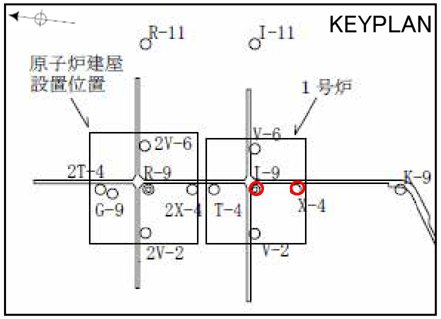
PS検層等の走時曲線(7/11)

■走時曲線(7/11)



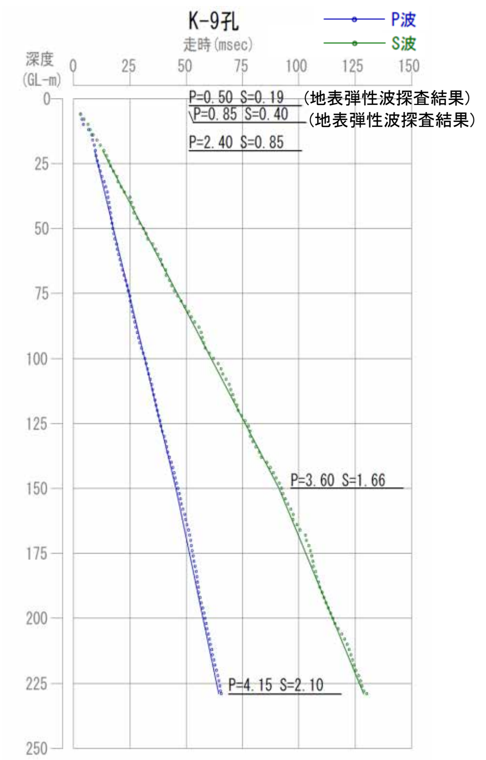


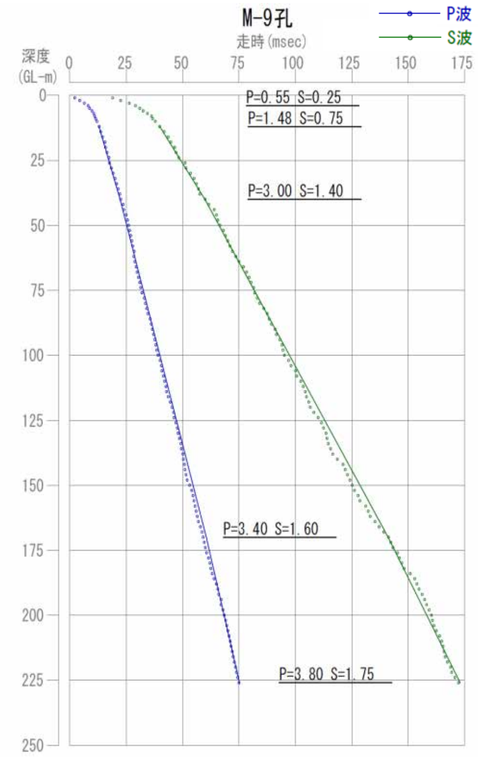


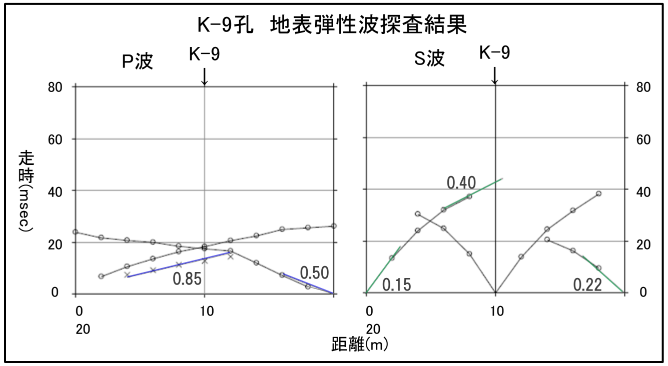


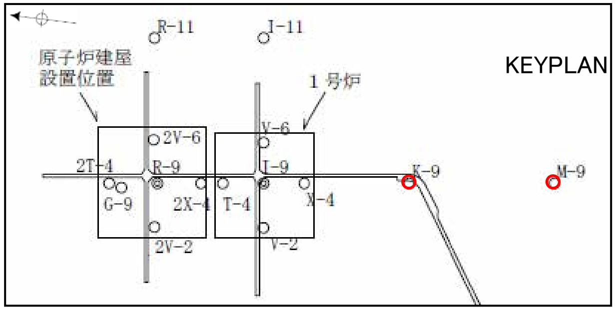
PS検層等の走時曲線(8/11)

■走時曲線(8/11)



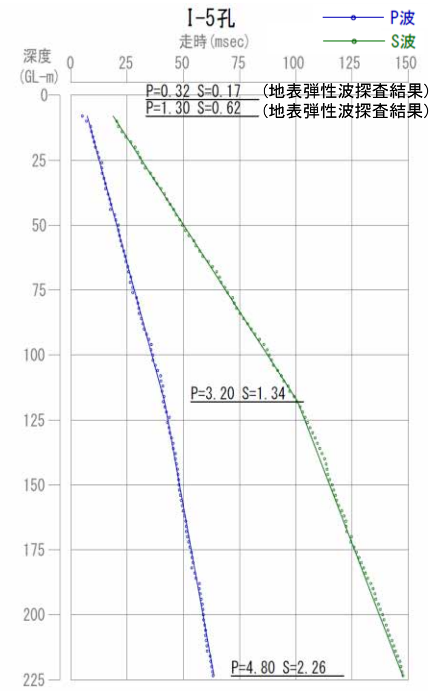


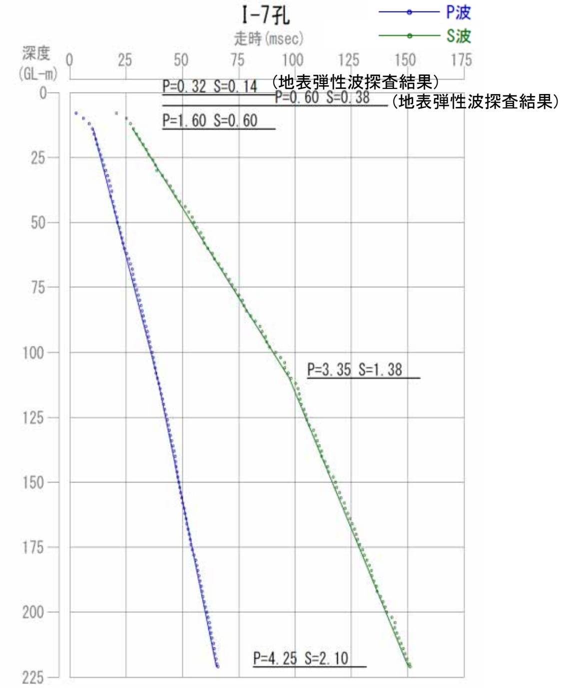


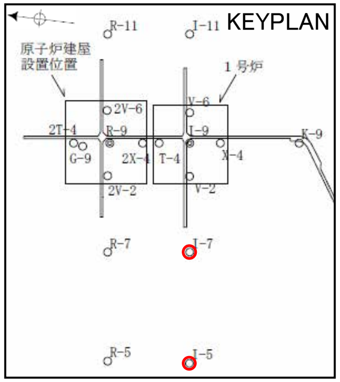


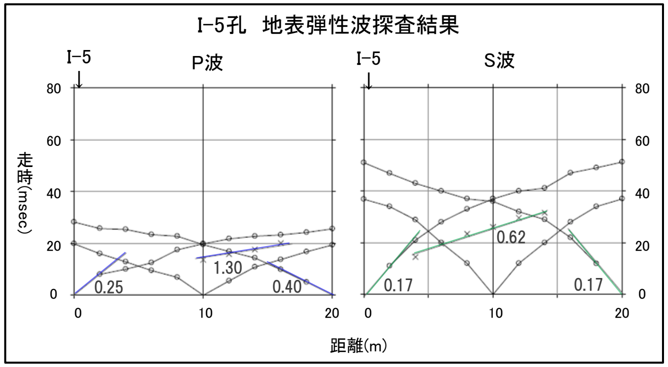
PS検層等の走時曲線(9/11)

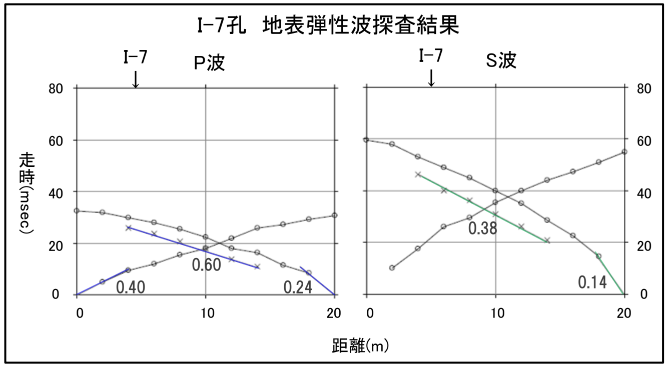
■走時曲線(9/11)





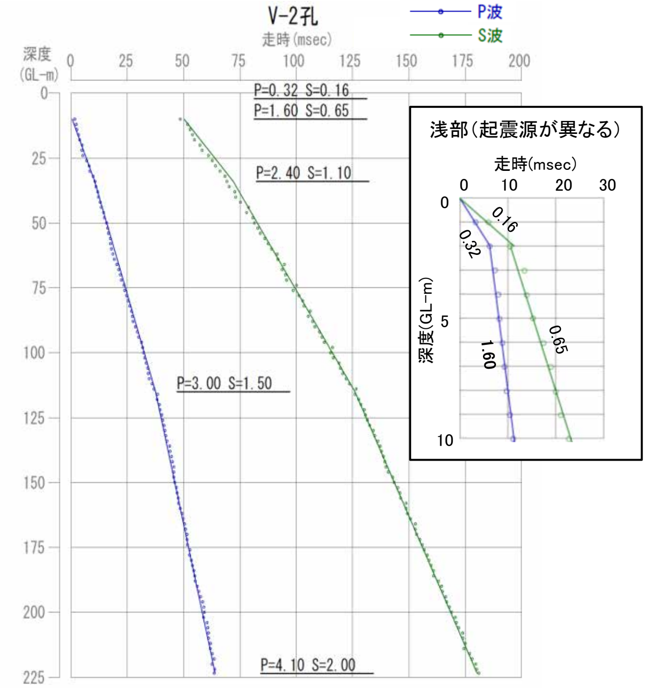


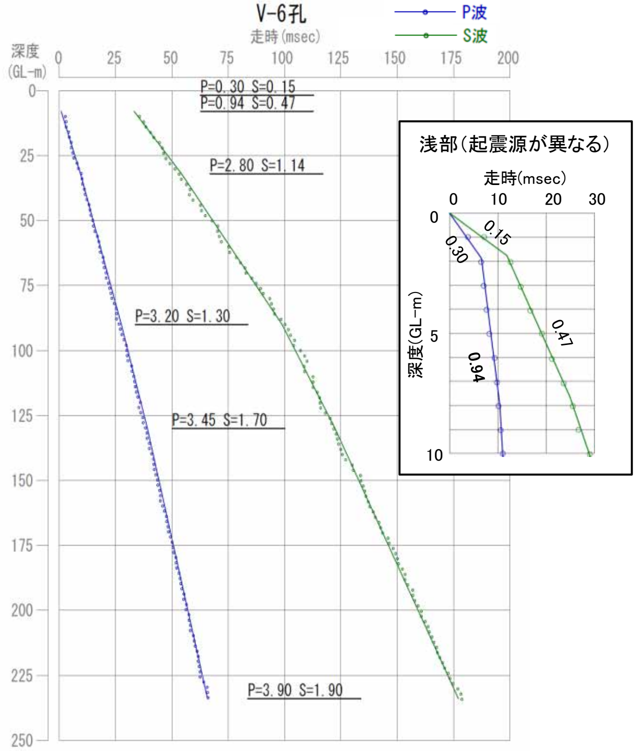


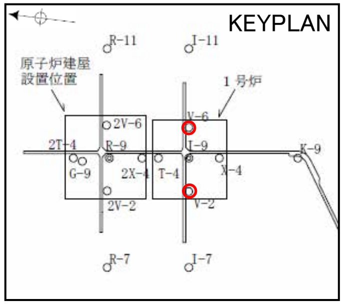


PS検層等の走時曲線（10/11）

■走時曲線(10/11)

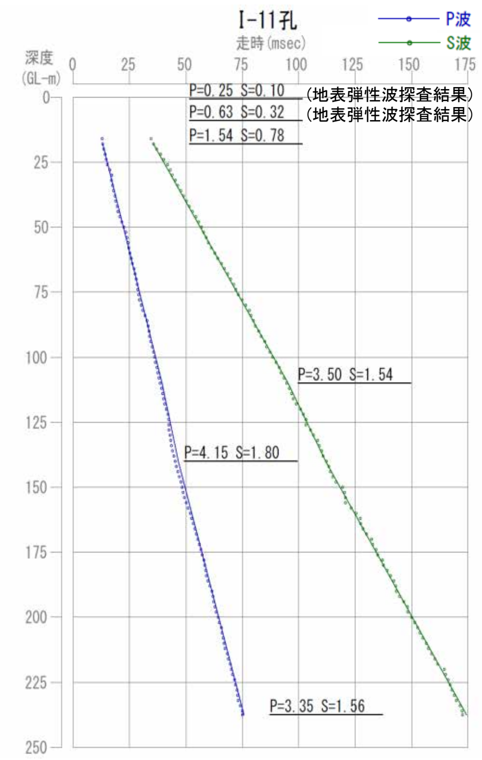


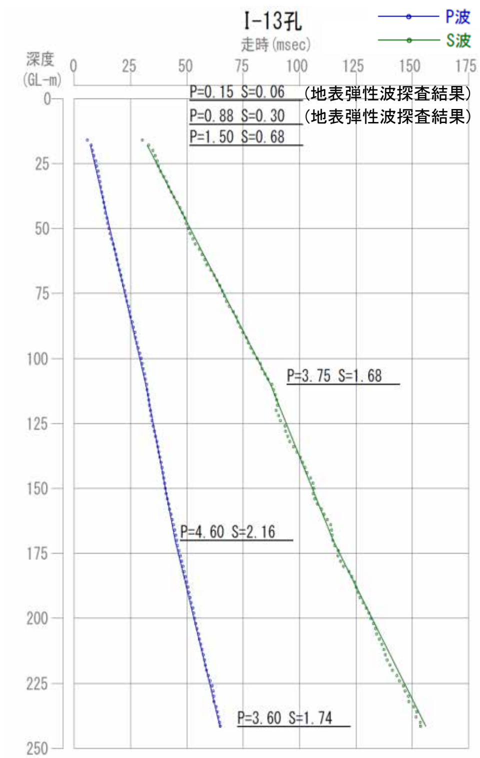


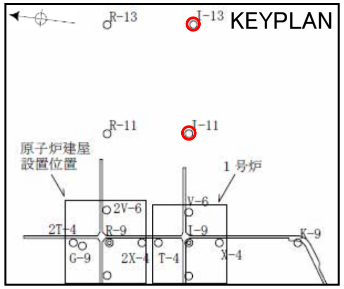


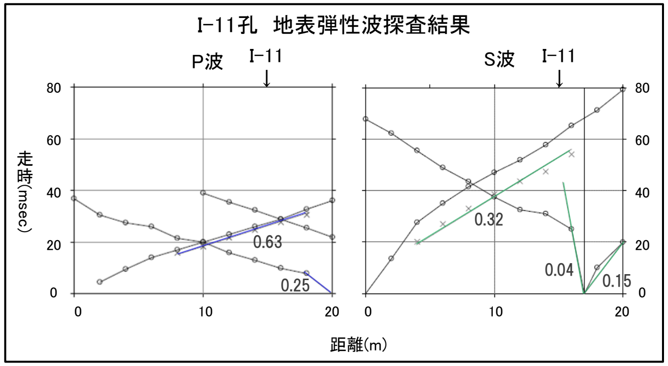
PS検層等の走時曲線(11/11)

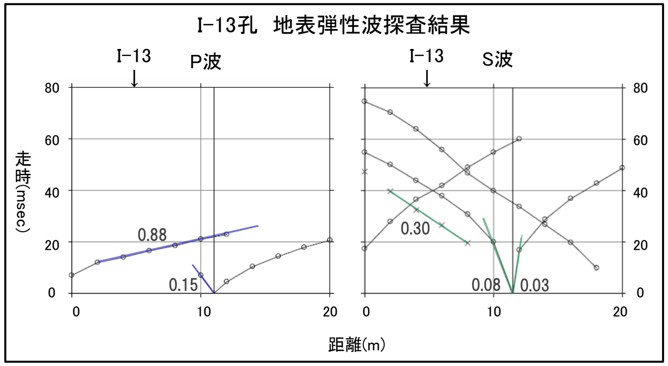
■走時曲線(11/11)











1.2　大深度ボーリング孔(K-13.6孔)を用いた調査結果

コア写真(K-13.6孔)(1/42)

K-13.6(0.00～30.00m)

コア写真(K-13.6孔)(2/42)

K-13.6(30.00～60.00m)

コア写真(K-13.6孔)(3/42)

K-13.6(60.00～90.00m)

コア写真(K-13.6孔)(4/42)

K-13.6(90.00～120.00m)

コア写真（K-13.6孔）（5/42）

K-13.6（120.00～150.00m）

コア写真(K-13.6孔)(6/42)

K-13.6(150.00～180.00m)

150	151
151	152
152	153
153	154
154	155
155	156
156	157
157	158
158	159
159	160
160	161
161	162
162	163
163	164
164	165
165	166
166	167
167	168
168	169
169	170
170	171
171	172
172	173
173	174
174	175
175	176
176	177
177	178
178	179
179	180

コア写真（K-13.6孔）（7/42）

K-13.6（180.00～210.00m）

コア写真(K-13.6孔)(8/42)

K-13.6(210.00～240.00m)

コア写真(K-13.6孔)(9/42)

K-13.6(240.00～270.00m)

コア写真(K-13.6孔)(10/42)

K-13.6(270.00～300.00m)

コア写真(K-13.6孔)(11/42)

K-13.6(300.00～330.00m)

コア写真(K-13.6孔)(12/42)

K-13.6(330.00～360.00m)

コア写真（K-13.6孔）（13/42）

K-13.6（360.00～390.00m）

コア写真(K-13.6孔)(14/42)

K-13.6(390.00～420.00m)

コア写真(K-13.6孔)(15/42)

K-13.6(420.00～450.00m)

第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-226 再掲

コア写真（K-13.6孔）（16/42）

K-13.6（450.00～480.00m）

コア写真（K-13.6孔）（17/42）

K-13.6（480.00～510.00m）

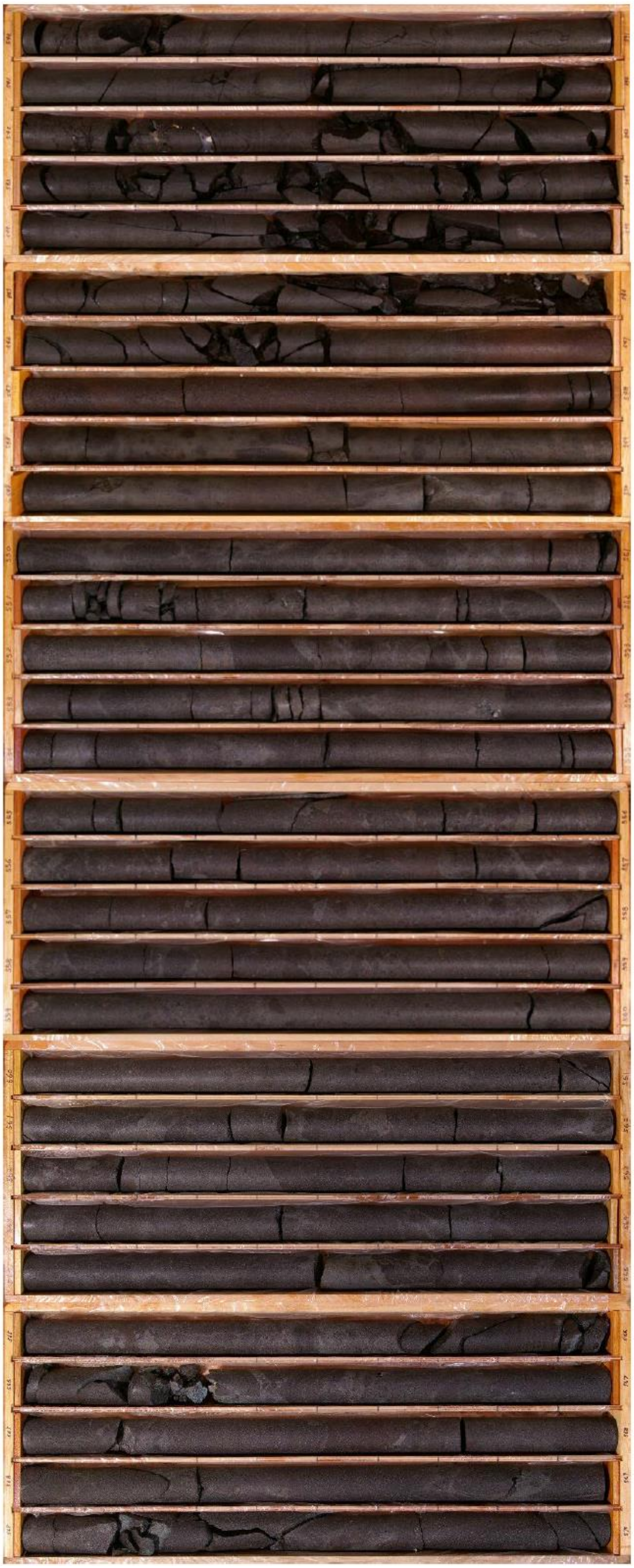
コア写真（K-13.6孔）（18/42）

K-13.6（510.00～540.00m）

第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-229 再掲

コア写真(K-13.6孔)(19/42)

K-13.6(540.00～570.00m)



コア写真(K-13.6孔)(20/42)

K-13.6(570.00～600.00m)

コア写真(K-13.6孔)(21/42)

K-13.6(600.00～630.00m)

コア写真(K-13.6孔)(22/42)

K-13.6(630.00～660.00m)

コア写真(K-13.6孔)(23/42)

K-13.6(660.00～690.00m)

660	661
661	662
662	663
663	664
664	665
665	666
666	667
667	668
668	669
669	670
670	671
671	672
672	673
673	674
674	675
675	676
676	677
677	678
678	679
679	680
680	681
681	682
682	683
683	684
684	685
685	686
686	687
687	688
688	689
689	690

コア写真（K-13.6孔）（24/42）

K-13.6（690.00～720.00m）

690 691
691 692
692 693
693 694
694 695
695 696
696 697
697 698
698 699
699 700
700 701
701 702
702 703
703 704
704 705
705 706
706 707
707 708
708 709
709 710
710 711
711 712
712 713
713 714
714 715
715 716
716 717
717 718
718 719
719 720

コア写真（K-13.6孔）（25/42）

K-13.6（720.00～750.00m）

720	721
721	722
722	723
723	724
724	725
725	726
726	727
727	728
728	729
729	730
730	731
731	732
732	733
733	734
734	735
735	736
736	737
737	738
738	739
739	740
740	741
741	742
742	743
743	744
744	745
745	746
746	747
747	748
748	749
749	750

コア写真(K-13.6孔)(26/42)

K-13.6(750.00～780.00m)

コア写真(K-13.6孔)(27/42)

K-13.6(780.00～810.00m)

コア写真(K-13.6孔)(28/42)

K-13.6(810.00～840.00m)

第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-239 再掲

コア写真(K-13.6孔)(29/42)

K-13.6(840.00～870.00m)

コア写真(K-13.6孔)(30/42)

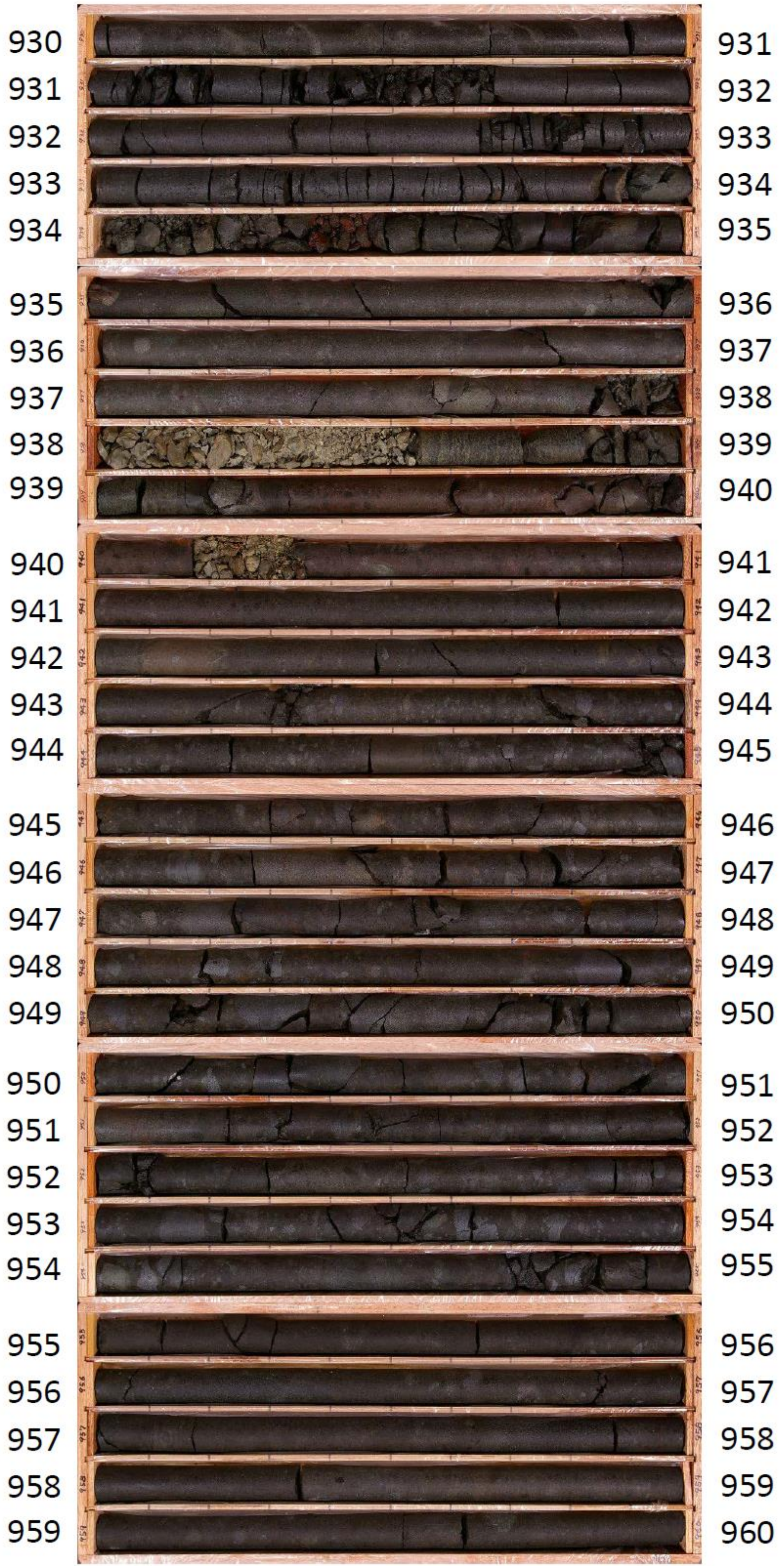
K-13.6(870.00～900.00m)

コア写真(K-13.6孔)(31/42)

K-13.6(900.00～930.00m)

コア写真(K-13.6孔)(32/42)

K-13.6(930.00～960.00m)



コア写真(K-13.6孔)(33/42)

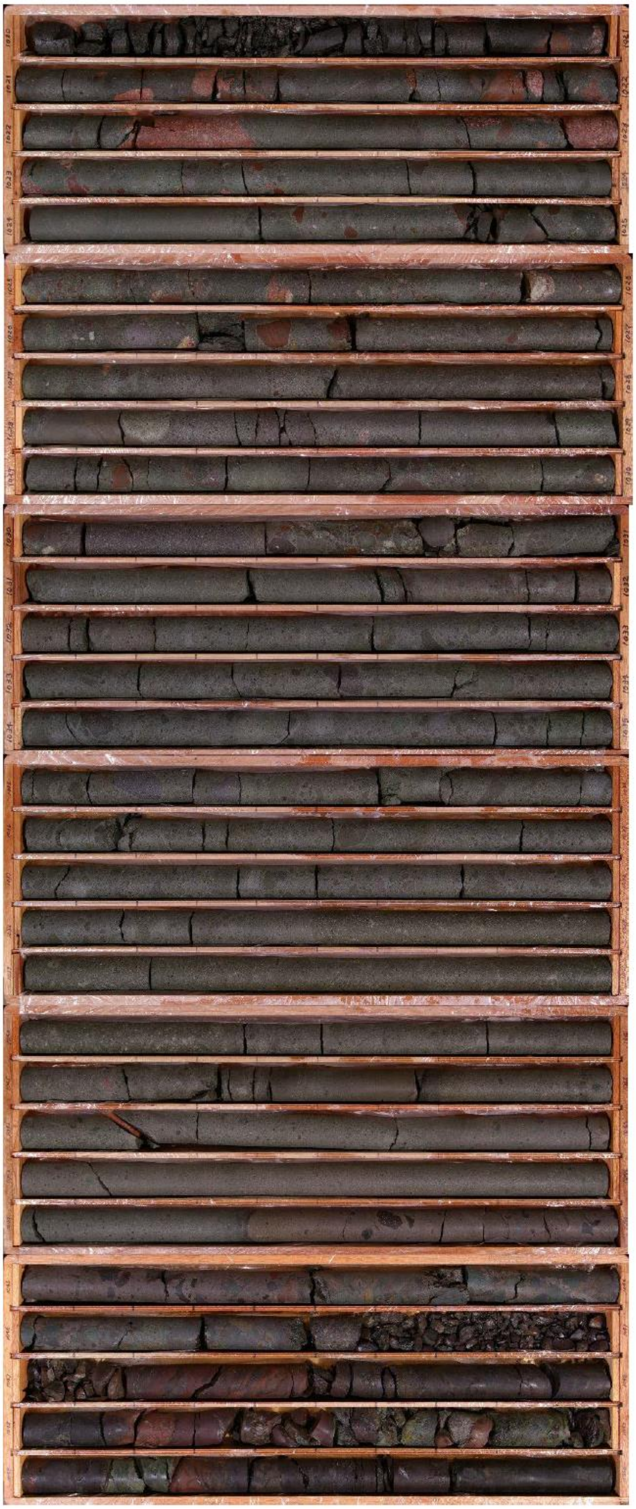
K-13.6(960.00～990.00m)

コア写真(K-13.6孔)(34/42)

K-13.6(990.00～1020.00m)

コア写真(K-13.6孔)(35/42)

K-13.6(1020.00～1050.00m)



第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-246 再掲

コア写真(K-13.6孔)(36/42)

K-13.6(1050.00～1080.00m)

コア写真(K-13.6孔)(37/42)

K-13.6(1080.00～1110.00m)

第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-248 再掲

コア写真（K-13.6孔）（38/42）

K-13.6（1110.00～1140.00m）

第1121回審査会合 机上配布資料5
P.11-2-249 再掲

コア写真(K-13.6孔)(39/42)

K-13.6(1140.00～1170.00m)

コア写真(K-13.6孔)(40/42)

K-13.6(1170.00～1200.00m)

コア写真(K-13.6孔)(41/42)

K-13.6(1200.00～1230.00m)

コア写真(K-13.6孔)(42/42)

K-13.6(1230.00～1253.00m)

1230	1231
1231	1232
1232	1233
1233	1234
1234	1235
1235	1236
1236	1237
1237	1238
1238	1239
1239	1240
1240	1241
1241	1242
1242	1243
1243	1244
1244	1245
1245	1246
1246	1247
1247	1248
1248	1249
1249	1250
1250	1251
1251	1252
1252	1253

柱状図(K-13.6孔)(1/63)

K-13.6(63の1)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

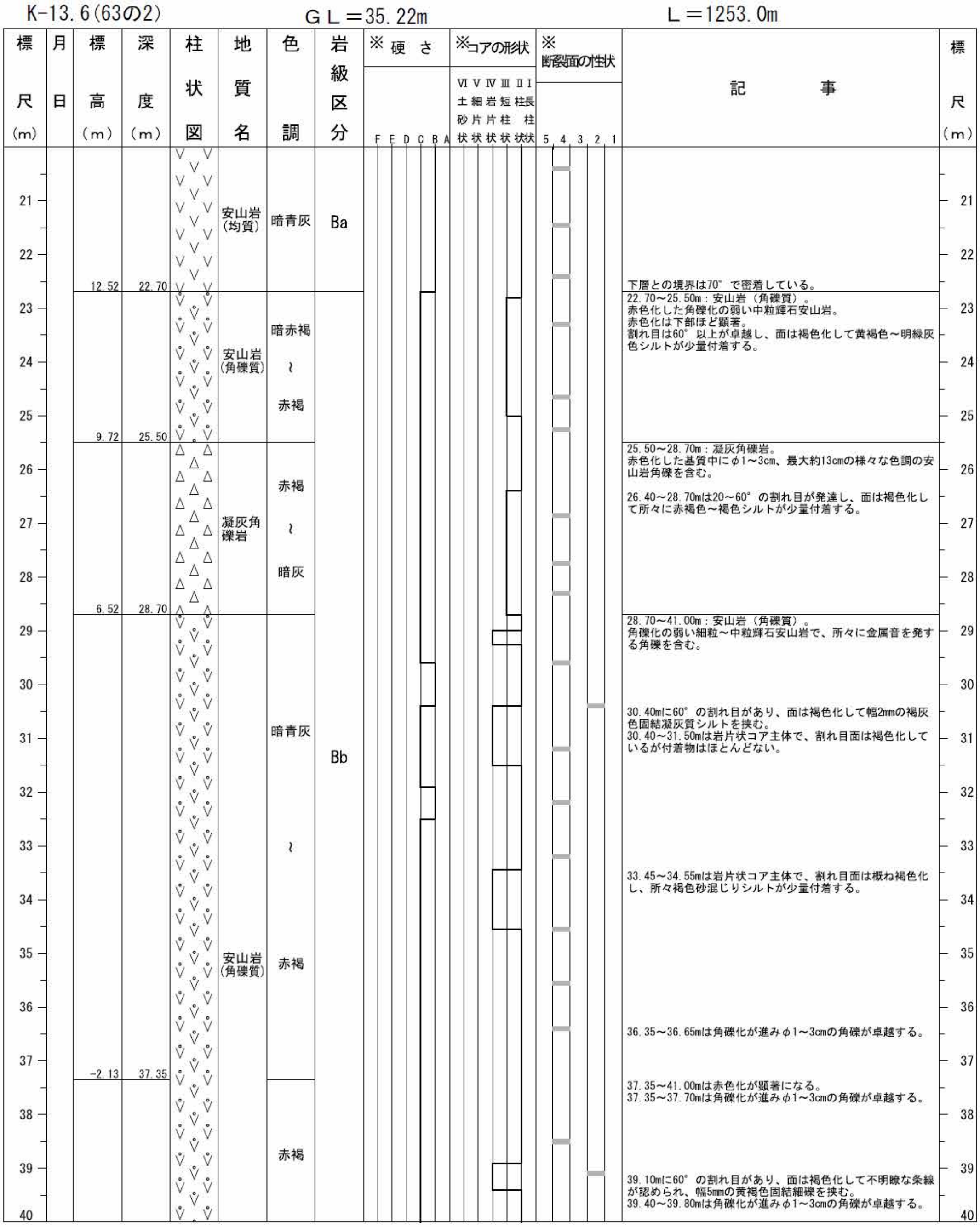
標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
					0.00～1.50m：コアなし。
33.72	1.50	安山岩（均質）	青灰	Ca	1.50～22.70m：安山岩（均質）。 中粒輝石安山岩。 1.50～3.55mは風化し斜長石が白濁しており、所々わずかに赤色化している。
31.67	3.55			Ba	3.55～5.45mは健岩に近いが斜長石は白濁している。
29.77	5.45		暗青灰		1.50～5.45mの割れ目はすべて褐色化し、所々に幅1～3mmの褐色砂混じり粘土を挟む。 5.45m以深は健岩だが、割れ目は暗褐色化し、オリーブ褐色～黄灰色軟質鉱物が少量付着する。 9.85mに75°の割れ目があり、面は暗褐色化し、幅1mmの緑灰色軟質鉱物を挟む。 12.00～15.00mは60°以上の割れ目が卓越し、半柱状コアが多くなる。 14.30mに70°の割れ目があり、面は褐色化して幅1～2mmの明緑灰色軟質鉱物を挟む。 16.50～18.20mは20°以下の褐色化した割れ目が発達し、所々幅0.5～1mmの明緑灰色軟質鉱物を挟む。

※硬さ
A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(2/63)



※硬さ

- A:ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B:中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C:中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D:軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E:軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F:手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

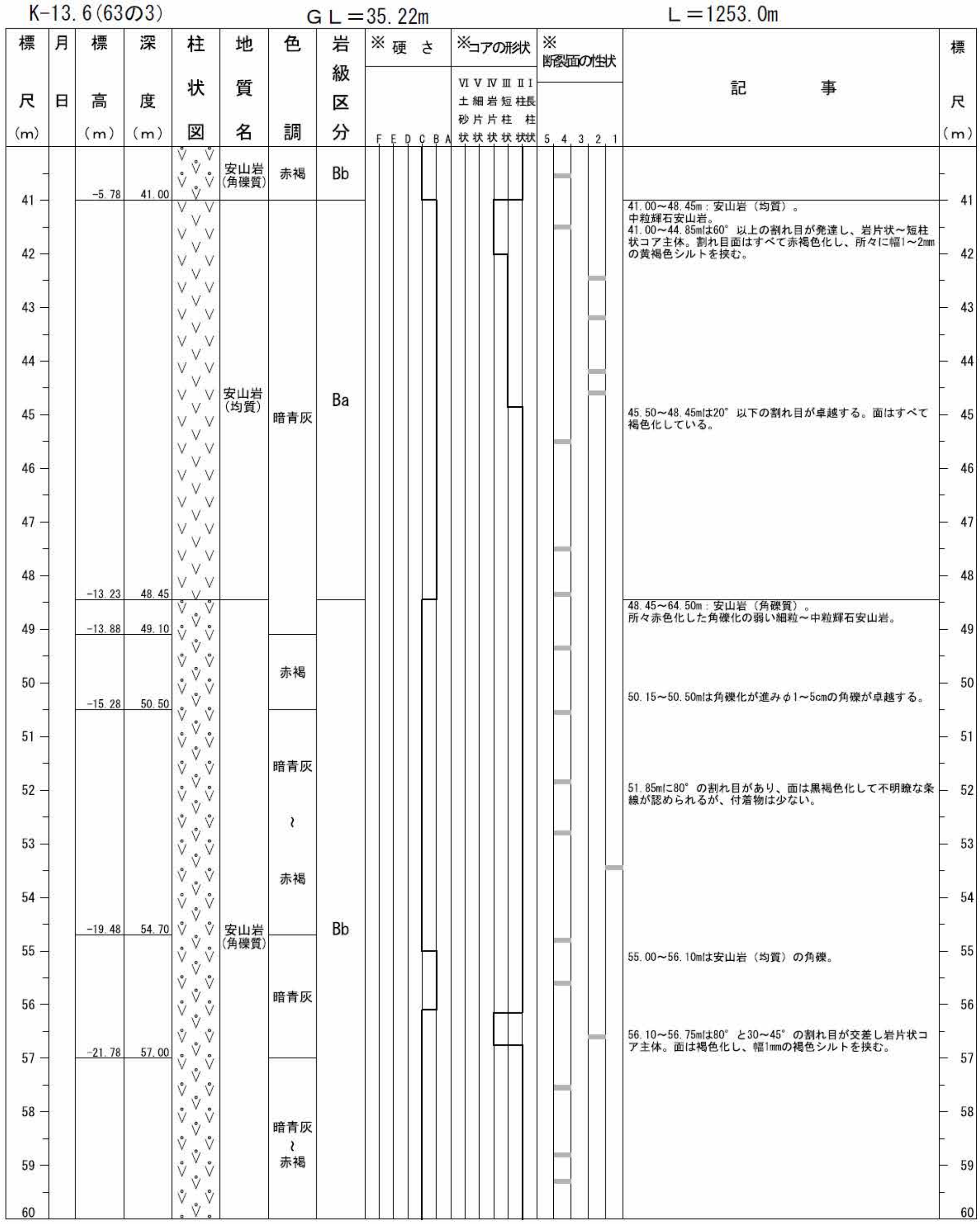
※コアの形状

- Ⅰ:長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ:柱 状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ:短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ:岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ:細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ:土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(3/63)

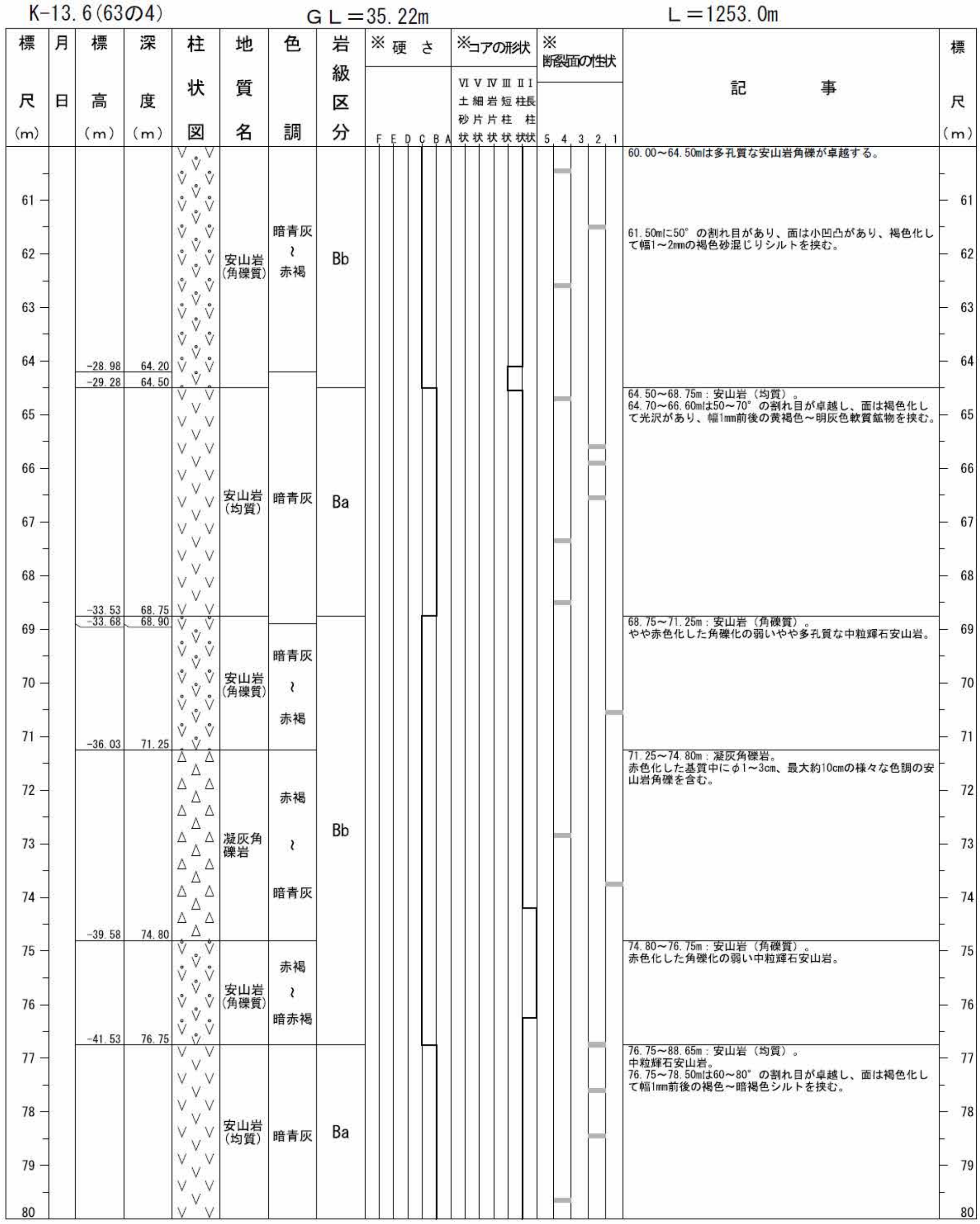


※硬さ
- A:ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B:中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C:中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D:軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E:軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F:手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状
- Ⅰ:長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ:柱 状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ:短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ:岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ:細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ:土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(4/63)



※硬さ

- A:ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B:中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C:中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D:軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E:軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F:手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状

- Ⅰ:長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ:柱 状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ:短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ:岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ:細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ:土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K−13.6孔)(5/63)

K−13.6(63の5)　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

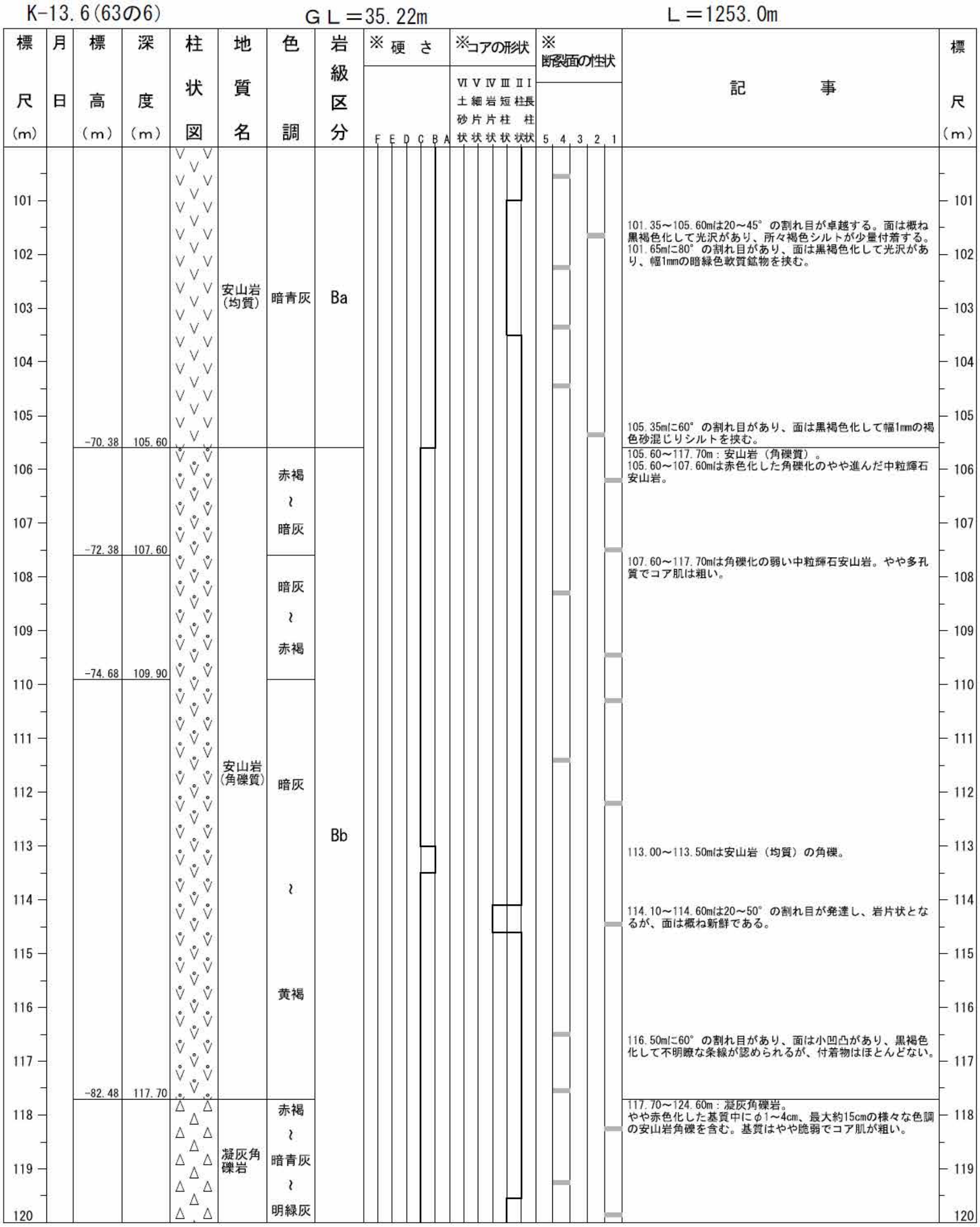
標尺(m)	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
80～88.65	−53.43	88.65	安山岩(均質)	暗青灰	Ba	82.75mに85°の割れ目があり、面は暗褐色化して光沢があり、幅1mmの褐灰色砂質シルトを挟む。 84.90mに50°の割れ目があり、面は褐色化して光沢があり、条線が認められ、幅1mmの明褐灰色軟質鉱物を挟む。 87.45mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化して幅1mmの灰白色軟質鉱物を挟む。 87.45～87.75mは自破砕状の固着割れ目が網目状に発達する。
88.65～94.00	−58.78	94.00	安山岩(角礫質)	赤褐～暗赤褐	Bb	88.65～94.00m：安山岩（角礫質）。 赤色化した角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 91.85mに80°の割れ目があり、面は褐色化して褐色砂質シルトが少量付着する。
94.00～100			安山岩(均質)	暗青灰	Ba	94.00～105.60m：安山岩（均質）。 中粒輝石安山岩。 94.30mに70°の割れ目があり、面は褐色化して褐灰色軟質鉱物が付着する。 94.90～101.35mは20°以下の割れ目が卓越する。面は概ね黒褐色化し、所々暗緑色軟質鉱物が少量付着する。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（6/63）



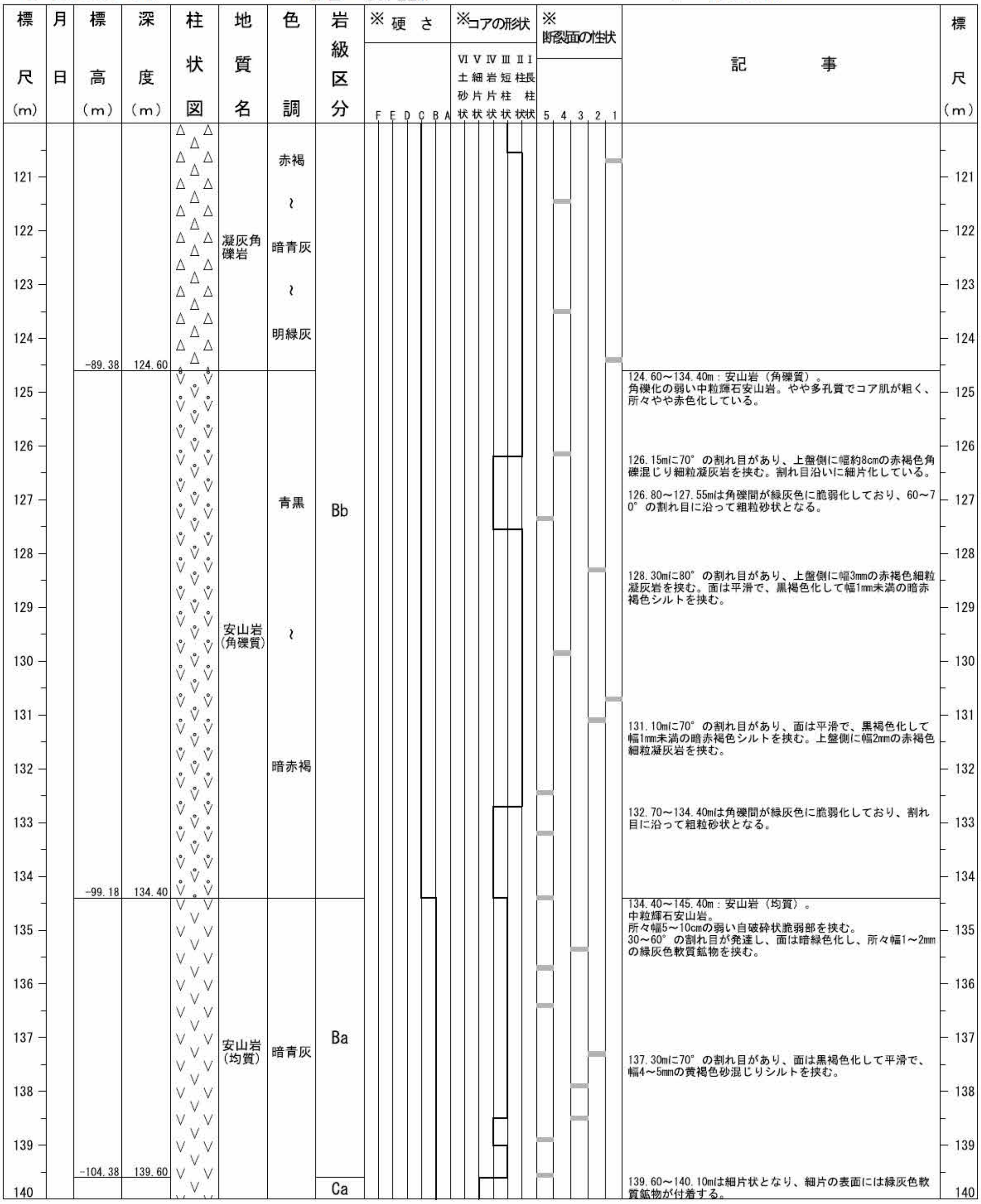
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(7/63)

K-13.6(63の7)　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

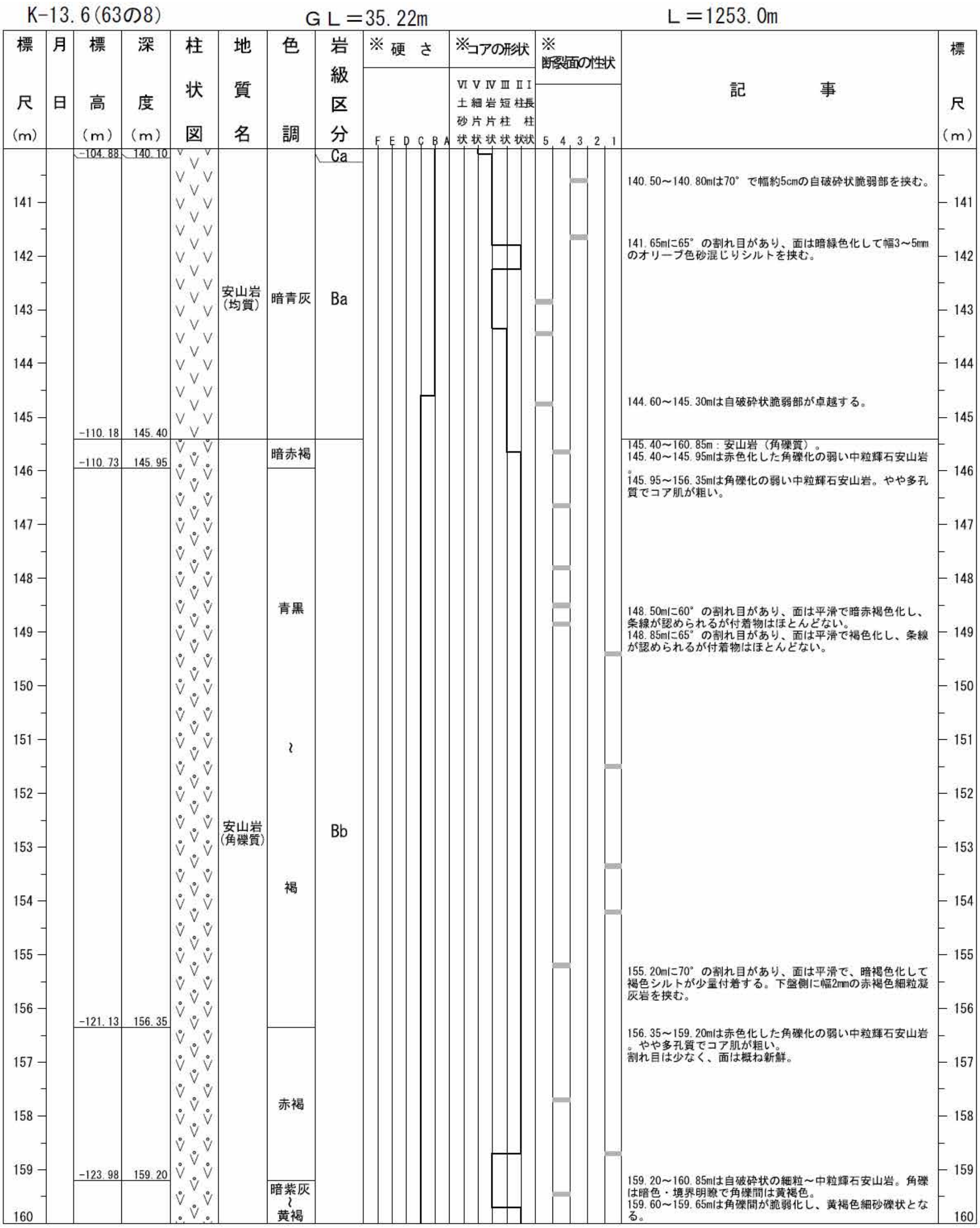


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(8/63)

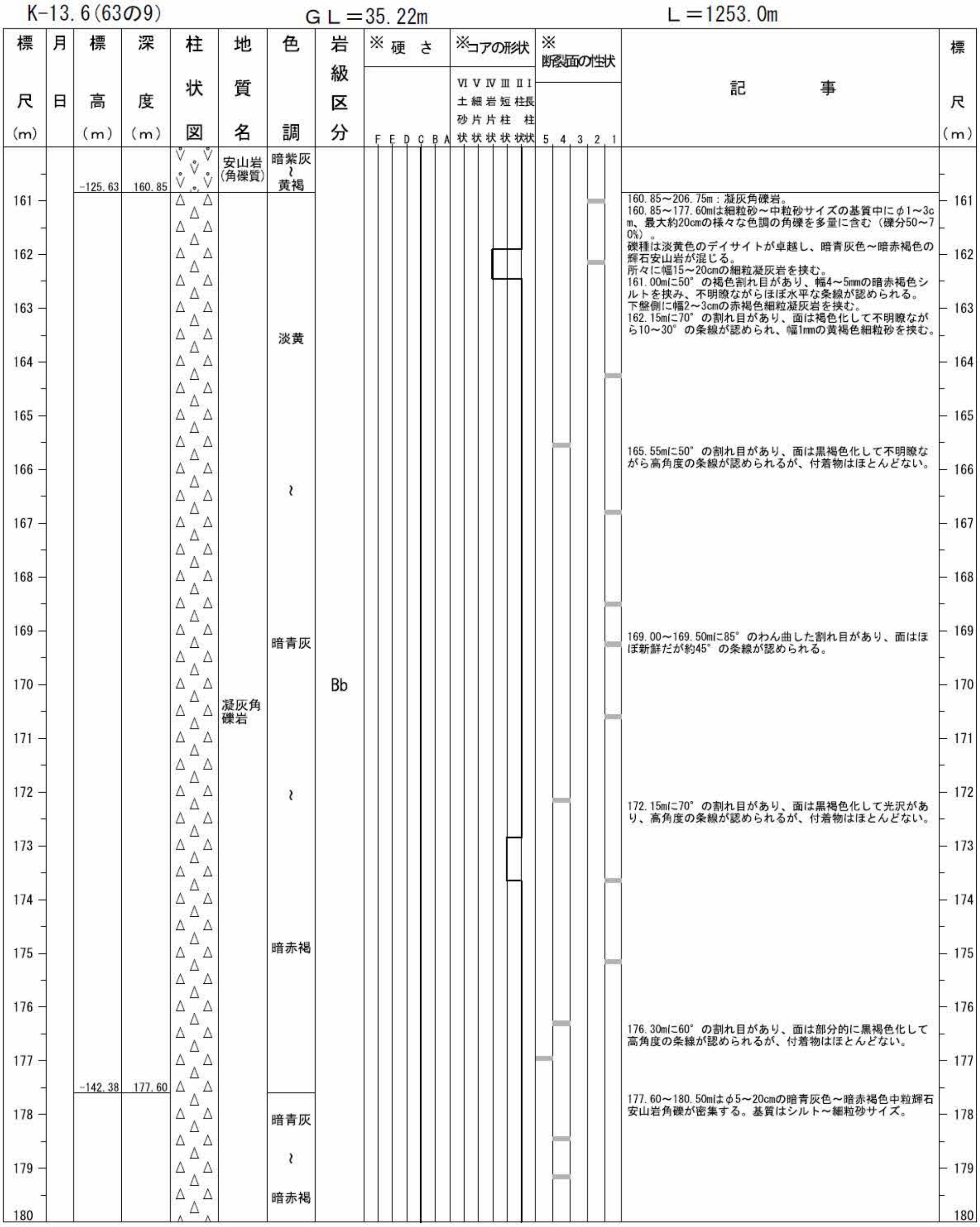


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(9/63)

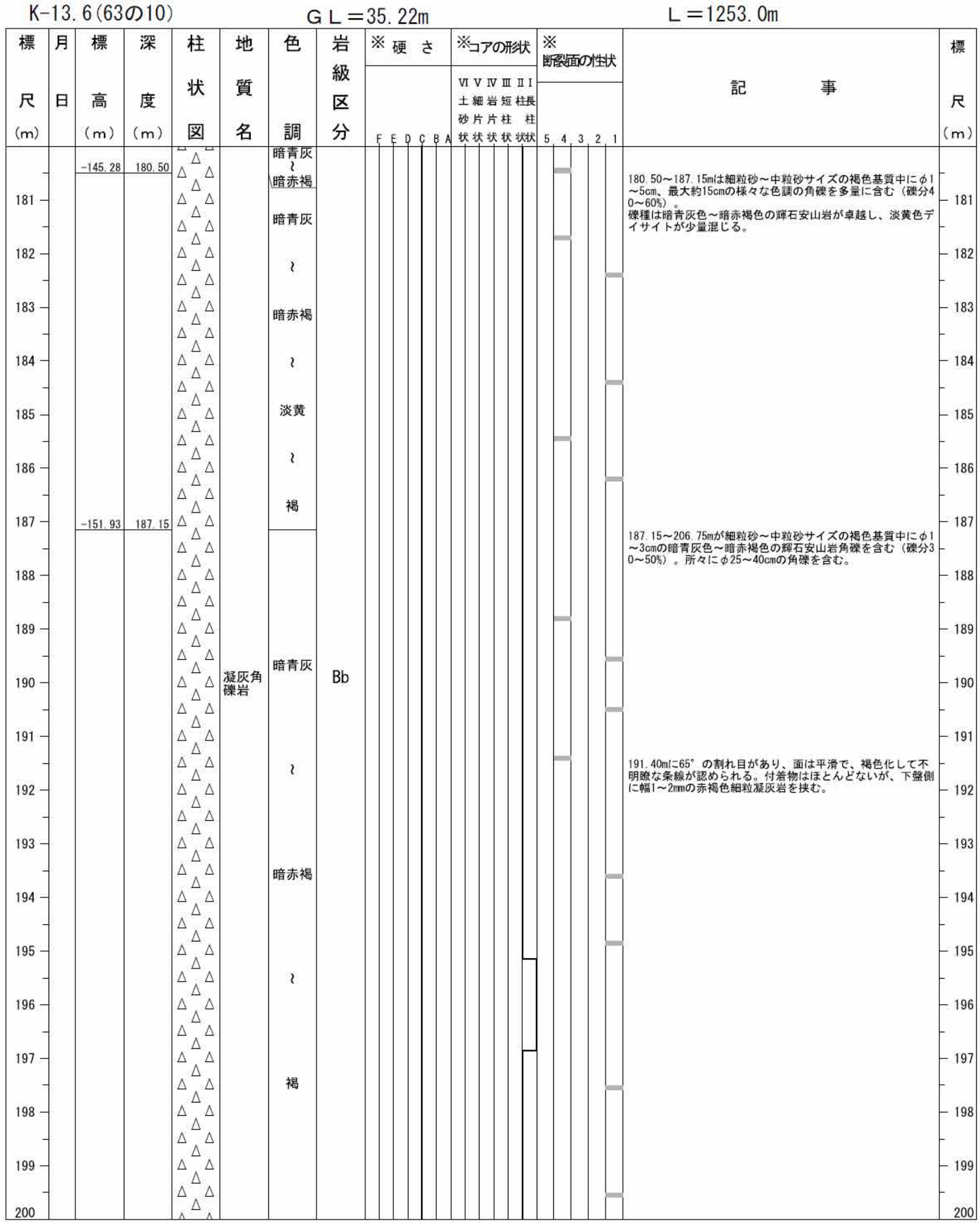


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（10/63）

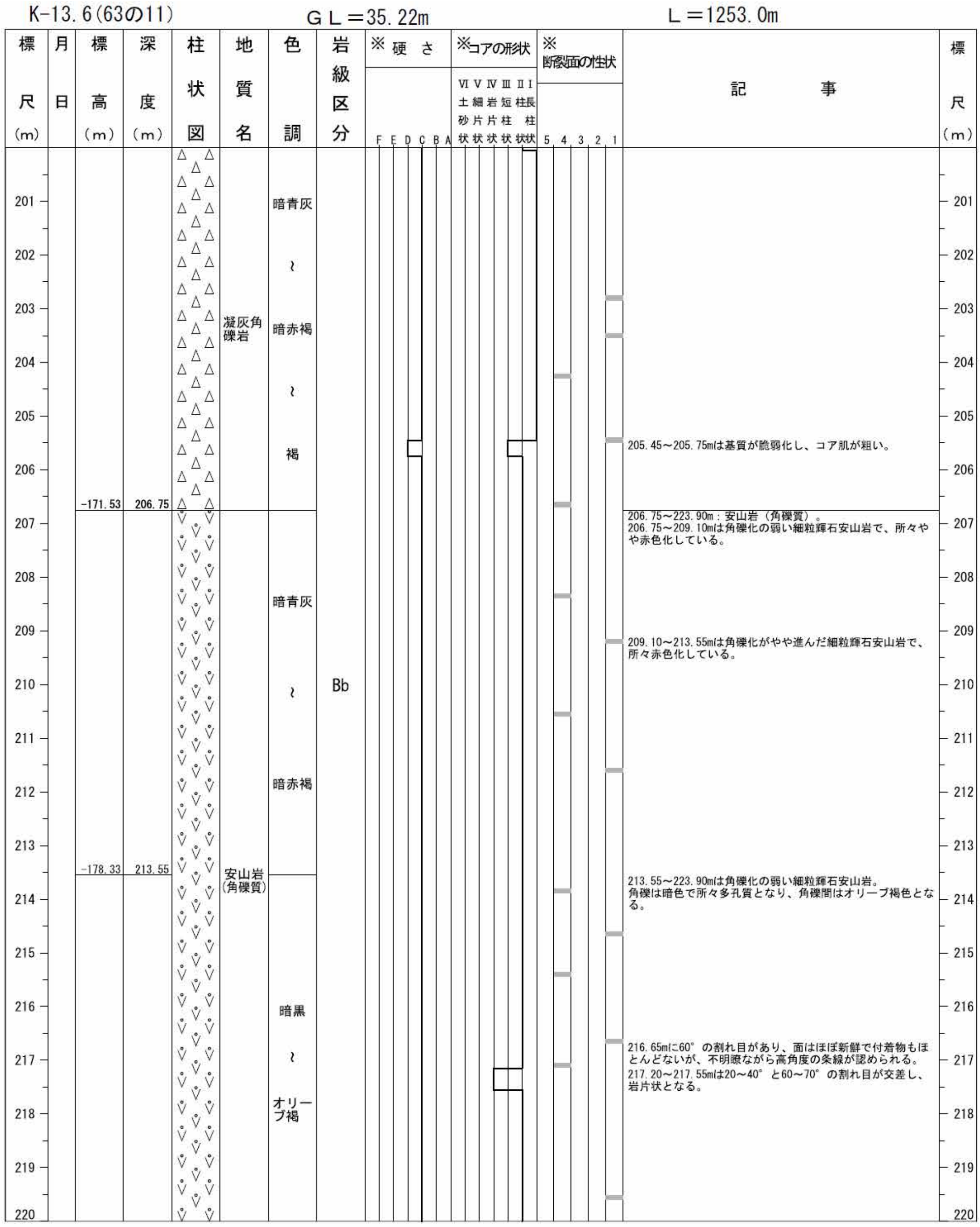


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(11/63)



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱 状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（12/63）

K-13.6（63の12）　GL＝35.22m　L＝1253.0m

標高（m）	深度（m）	地質名	色調	岩級区分	記事
-188.68	223.90	安山岩（角礫質）	暗黒～オリーブ褐	Bb	
-190.53	225.75	安山岩（均質）	暗青灰	Ba	223.90～225.75m：安山岩（均質）。細粒輝石安山岩。30～60°の割れ目が発達し、面は概ね黒褐色化し、所々灰白色軟質鉱物が少量付着する。
-192.48	227.70	安山岩（角礫質）	暗青灰～暗赤褐	Bb	225.75～227.70m：安山岩（角礫質）。角礫化の弱い細粒輝石安山岩で、部分的にやや赤色化している。
-198.58	233.80	安山岩（均質）	暗青灰	Ba	227.70～233.80m：安山岩（均質）。細粒輝石安山岩。幅1～2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む割れ目や潜在割れ目が発達する。面は概ね暗緑色化し光沢がある。228.30mに50°の割れ目があり、上盤側の幅10～20mmは石英で充填されている。 229.35～229.85mは暗緑色軟質鉱物が少量付着する割れ目が網目状に発達し、岩片状となる。 230.60mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、幅2mmの石英脈を挟む。
-204.78	240.00	安山岩（角礫質）	青黒～暗赤褐	Bb	233.80～240.00m：安山岩（角礫質）。角礫化がごく弱く均質に近い細粒輝石安山岩で、所々やや赤色化している。幅1～2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む割れ目や潜在割れ目が発達する。割れ目面は概ね暗緑色化し光沢がある。233.80～234.55mはやや赤色化している。 236.45mに55°の割れ目があり、面は暗緑色で幅3～5cmの石英で充填されている。 237.40～237.65mは角礫化が進んでおり、下面に沿って緑灰色砂混じりシルト状に劣化している。 238.90～240.00mはやや赤色化している。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（13/63）

K-13.6（63の13）　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	地質名	色調	岩級区分	記事
240～248	-212.88	248.10	安山岩（均質）	暗青灰	Ba	240.00～248.10m：安山岩（均質）。 細粒輝石安山岩。 20～40°と60°以上の割れ目が交差して発達するため、半柱状～岩片状コア主体となる。割れ目面は概ね暗緑色化して光沢があり、しばしば幅1～2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。 246.30～248.10mは幅1～2mmの暗緑色軟質鉱物を挟む潜在割れ目が網目状に発達する。
248～250	-215.48	250.70	安山岩（角礫質）	暗青灰～暗褐	Bb	248.10～264.75m：安山岩（角礫質）。 248.10～250.60mは自破砕状の細粒輝石安山岩。 248.10～248.35mは50°の平行割れ目に挟まれ脆弱化している。
250～251	-216.38	251.60		赤褐		250.60～264.75mは角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩。所々角礫化がやや進み赤褐色～緑灰色の角礫を含む部分を挟む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 250.70～251.60mは赤色化し、角礫化がやや進んでいる。
251～260				暗青灰～灰褐		

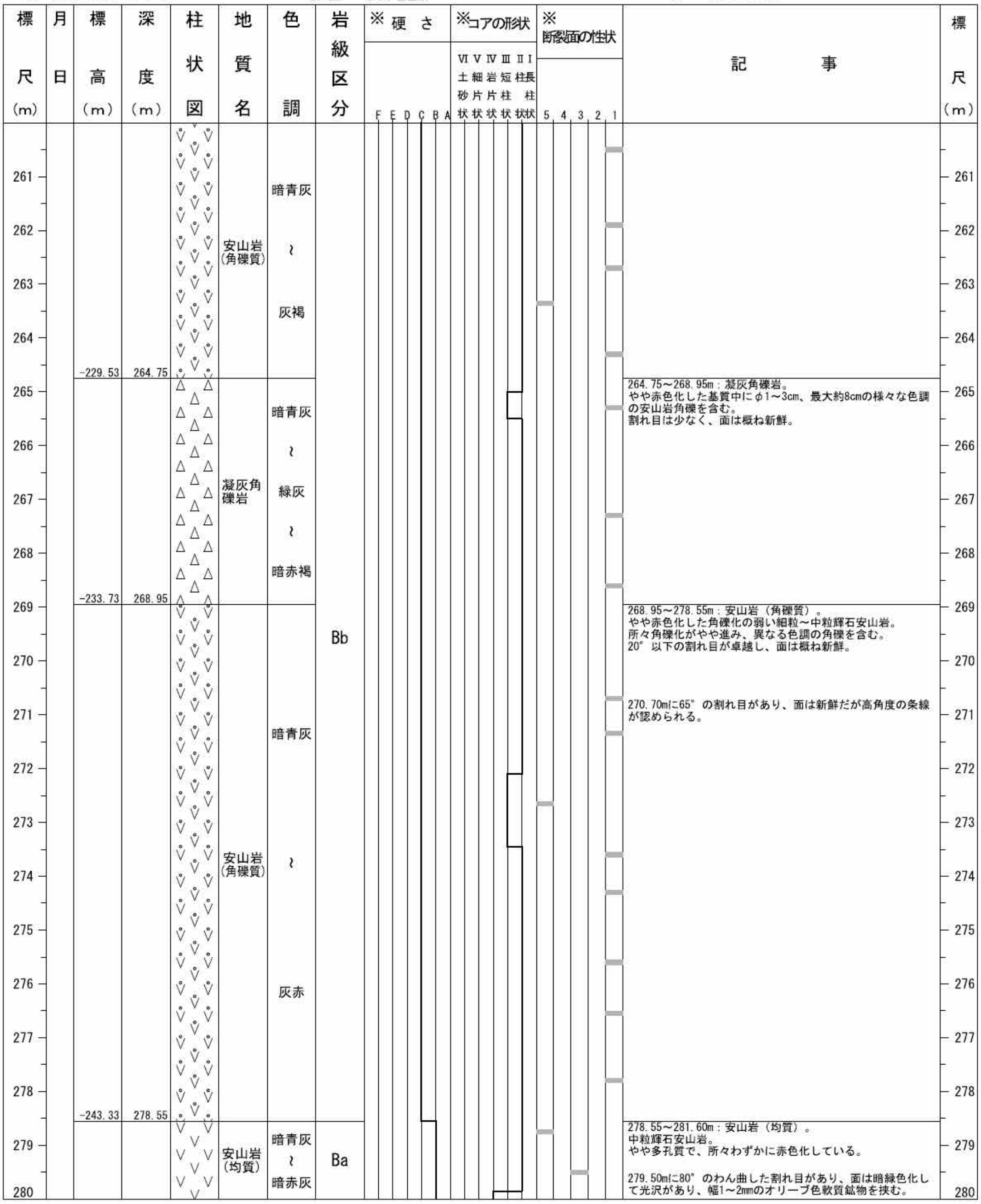
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(14/63)

K-13.6(63の14)　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m



※硬さ

- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

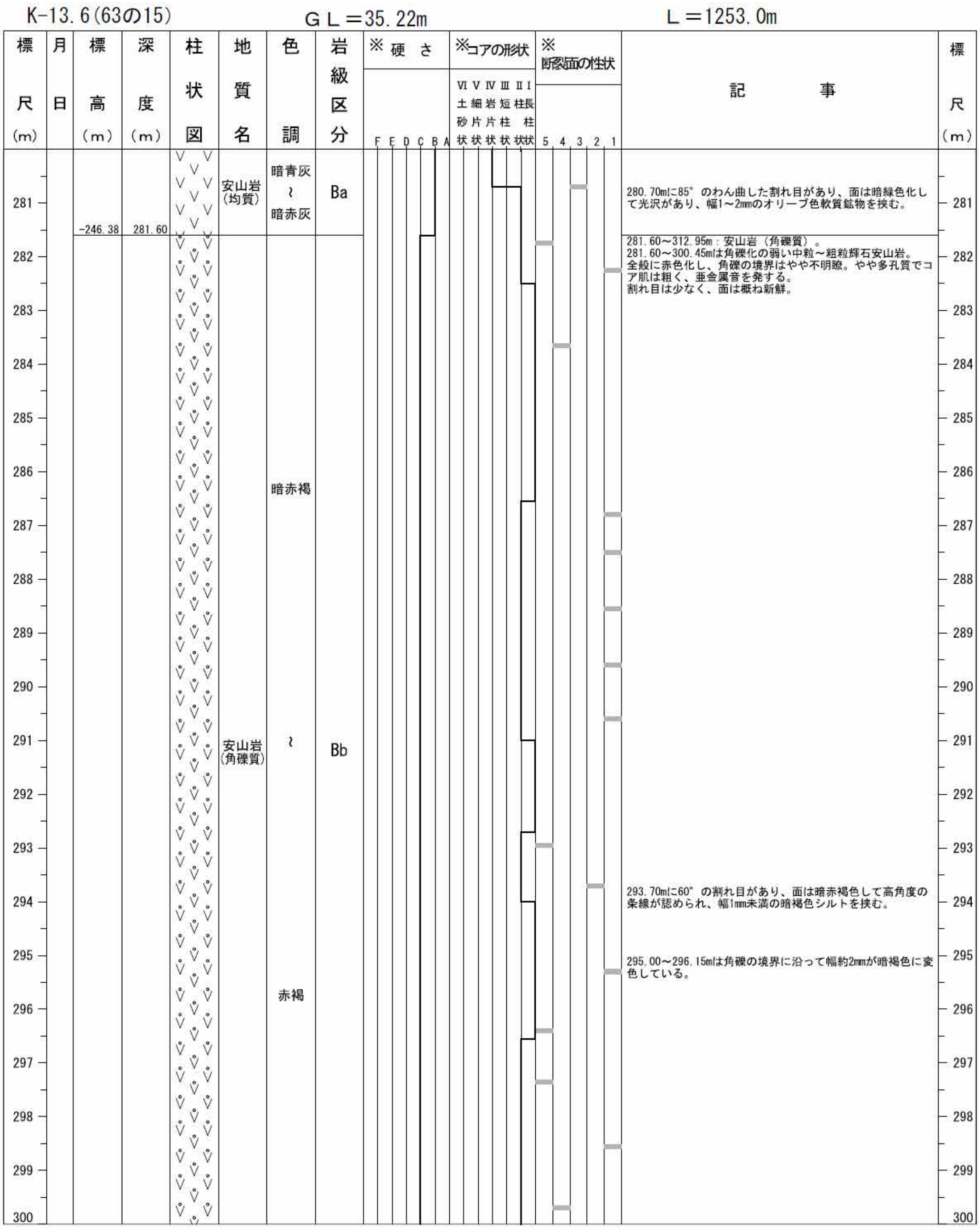
※コアの形状

- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（15/63）



※硬さ
A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(16/63)

K-13.6(63の16)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-265.23	300.45	安山岩(角礫質)	暗赤褐～赤褐	Bb	300.45～303.00mは角礫化がごく弱く均質に近いが、割れ目が発達し、所々岩片状～細片状コアとなる。
			暗灰		301.20～301.60mは40～60° の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面は黒褐色化し部分的に青緑色軟質鉱物が少量付着する。 302.10～302.60mは20～60° の割れ目が交差し岩片状～細片状コアとなる。 面は黒褐色化し幅0.5～1mmの暗褐色シルトが付着する。
-267.78	303.00		赤褐		303.00m以深は割れ目が少なく長柱状～柱状のコアが連続する。 304.30～304.85mは角礫化がごく弱く均質に近い。金属音を発する。 304.45mに70° の割れ目があり、面は赤褐色し光沢がある。付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 304.65mにも70° の割れ目があり、面は黒褐色～赤褐色化し光沢がある。 明緑灰色鉱物が少量付着する。 305.10mに65° の平行割れ目があり、割れ目間の幅約1cmが細片化している。いずれの割れ目も面は褐色化し幅1mm未満の赤褐色細粒部を挟み条線が認められる。 311.70mに45° の割れ目があり、面には赤褐色粘土フィルムが付着し、不明瞭な条線が認められる。 下層との境界は漸移的で密着している。
-277.73	312.95	安山岩(均質)	暗赤灰	Ba	312.95～316.40m：安山岩（均質） 輝石斑晶が目立つ中粒～粗粒輝石安山岩。 全般にやや赤色化しているが、金属音を発する。 割れ目は60～80° のものが卓越し、面は黒褐色化して光沢があり、褐色シルトが付着する。 315.50～315.70mは80° のわん曲した割れ目に沿って細片状になっている。 面は黒褐色化して光沢があり、幅1mm未満の暗褐色シルトを挟む。 下層との境界は漸移的で密着している。
-281.18	316.40	安山岩(角礫質)	赤褐	Bb	316.40～345.40m：安山岩（角礫質）。 316.40～339.45mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 全般に赤色化し、角礫の境界はやや不明瞭。やや多孔質で亜金属音を発する。 317.80mに65° の割れ目があり、面は暗赤褐色して赤褐色シルトが少量付着する。 318.35mに60° の割れ目があり、面はほぼ新鮮だが青緑色軟質鉱物が少量付着する。

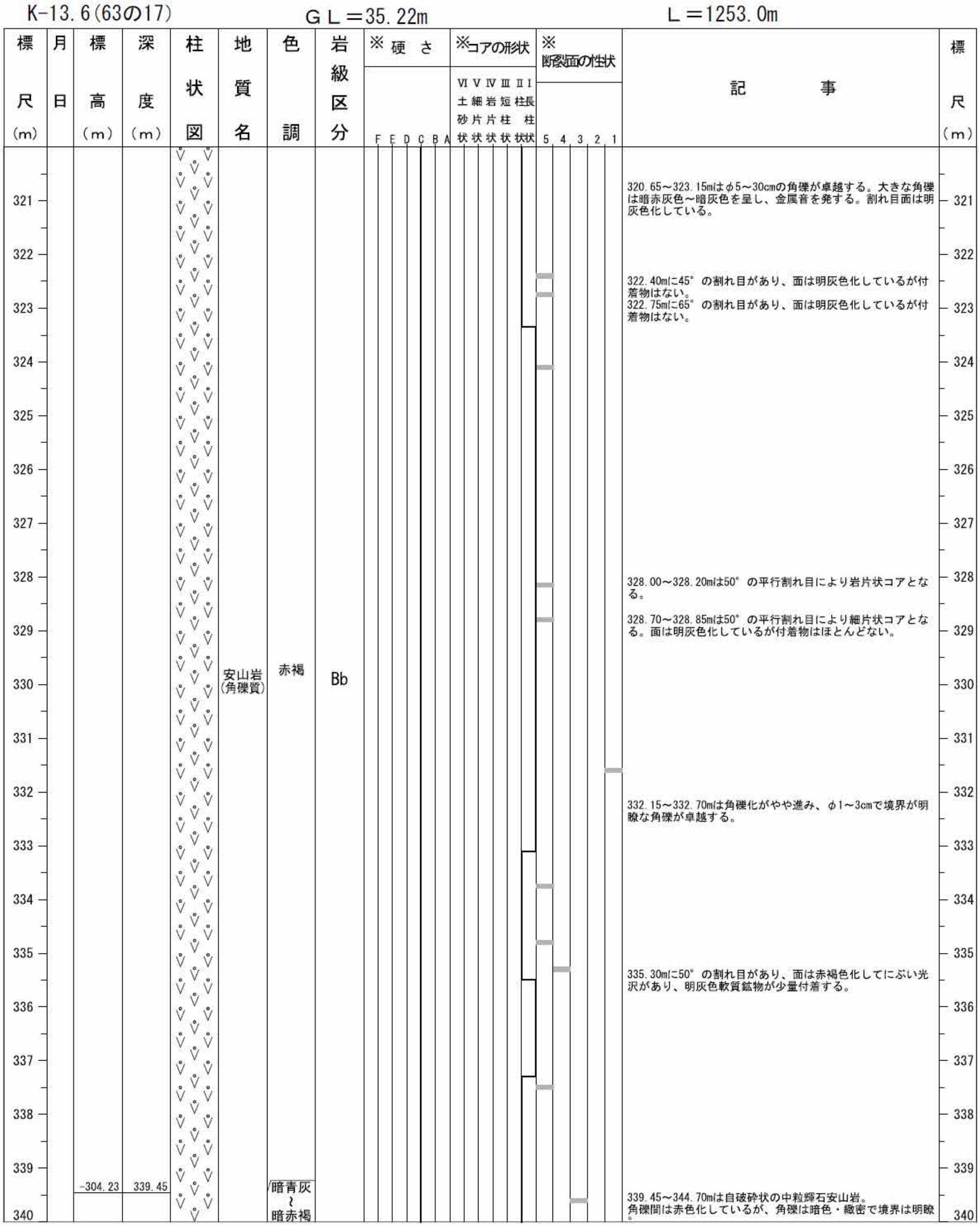
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

第1121回審査会合 机上配布資料4
P.10-2-193 再掲

柱状図(K-13.6孔)(17/63)



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

第1121回審査会合 机上配布資料4
P.10-2-194 再掲

柱状図(K-13.6孔)(18/63)

K-13.6(63の18)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-309.48	344.70	安山岩(角礫質)	暗青灰～暗赤褐	Bb	全体的には亜金属音を発するが、角礫自体は金属音を発する。 45～60°の割れ目が発達する。 339.60mに70°の割れ目があり、岩片状となる。面は青緑色軟質鉱物が付着し幅1mmの褐色砂混じりシルトを挟む。 341.20mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 342.10mに60°の割れ目があり、面は暗赤褐色化して光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 342.55mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢と不明瞭な条線がある。付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 344.40mに45°の割れ目があり、面はほぼ新鮮であるが、幅1～2mmの褐色砂混じりシルトを挟む。
-310.18	345.40	安山岩(角礫質)	暗赤褐	Bb	344.70～345.40mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 全般に赤色化し、角礫の境界は不明瞭。 全般に亜金属音を発する。 下層との境界は漸移的で密着している。
-311.88	347.10	凝灰角礫岩	暗赤褐	Bb	345.40～347.10m：凝灰角礫岩。 赤色化したシルト～細粒砂サイズの基質中にφ1～3cm、最大約8cmの角礫を含む。礫分40～60%。 礫種は細粒～中粒輝石安山岩で、赤褐色～黄褐色～灰色を呈する。 全般に亜金属音を発する。 下層との境界は約30°で密着している。
-316.63	351.85	安山岩(角礫質)	明緑灰～青灰	Bb	347.10～351.85m：安山岩（角礫質）。 角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 赤色化していないものの角礫の境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。 割れ目は少なく、長柱状コアが連続する。 349.20mに25°の割れ目があり、面は新鮮で明灰色軟質鉱物が少量付着する。 下層との境界は約40°で密着している。
-319.48	354.70	凝灰角礫岩	暗青灰～明緑灰～暗赤褐	Bb	351.85～354.70m：凝灰角礫岩。 弱く褐色化したシルト～細粒砂サイズの基質中にφ1～5cm、最大約10cmの角礫を含む。礫分40～60%。 礫種は暗色の細粒～中粒輝石安山岩が主体で、赤褐色や黒色多孔質な安山岩も点在する。 全般に亜金属音を発する。 割れ目は少なく、あってもほぼ水平で、面は新鮮である。 下層との境界は約30°で密着している。
-323.83	359.05	安山岩(角礫質)	暗青灰～赤灰	Bb	354.70～362.45m：安山岩（角礫質）。 354.70～359.05mは角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩。 赤色化は弱く、角礫は暗色を呈するものの境界は不明瞭で、全般に亜金属音を発する。
		安山岩(角礫質)	青黒～黒褐	Bb	359.05～362.45mは自破砕状の細粒～中粒輝石安山岩。 角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。全般に亜金属音を発するが、大きな角礫のなかには金属音を発するものがある。 359.10mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し光沢がある。青緑色軟質鉱物が少量付着し、幅約2mmはフィルム状に剥がし易い。

標尺(m)：341　342　343　344　345　346　347　348　349　350　351　352　353　354　355　356　357　358　359　360

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（19/63）

K-13.6（63の19）　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

標尺 (m)	月日	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	※硬さ F E D C B A	※コアの形状 Ⅵ土砂状 Ⅴ細片状 Ⅳ岩片状 Ⅲ短柱状 Ⅱ柱状 Ⅰ長柱状	※断裂面の性状 5 4 3 2 1	記事	標尺 (m)
361–362		-327.23	362.45		安山岩（角礫質）	青黒〜黒褐					361.65mに50° の割れ目があり、面は黒褐色化し、暗褐色シルトが少量付着する。 下層との境界は約30° で密着している。	361–362
363		-328.43	363.65		凝灰角礫岩	赤褐〜オリーブ灰					362.45〜389.15m：凝灰角礫岩。 362.45〜383.85mはシルト〜細粒砂サイズの基質中にφ1〜5cm、最大約10cmの角礫を含む。礫分30〜50%。 礫種は青灰色〜灰色の輝石安山岩が主体で、同質だが暗赤褐色の角礫が少量点在する。異質礫は見られない。角礫の境界は概ね明瞭であるが、一部に不明瞭なものも見られる。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫のなかには金属音を発するものがある。 割れ目は少なく、あっても20° 以下の低角度のものが卓越し、面は概ね新鮮である。 362.45〜363.65mは赤色化しているが、下位に向って不明瞭になる。	363
364–380					凝灰角礫岩	オリーブ灰〜青灰	Bb				368.45mに80° の割れ目があるが、面は概ね新鮮で付着物はない。 369.50mに80° のやや湾曲した割れ目があり、割れ目の下位には幅約4cmの暗赤褐色化した細粒凝灰岩を挟む。面に小凹凸がありは明灰色化し褐色シルトが少量付着する。 370.60mに80° の割れ目があるが、面は新鮮で付着物もない。 375.15mに60° の割れ目があり、面はわずかに明灰色化し不明瞭な条線が認められるが付着物はない。	364–380

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(20/63)

K-13.6(63の20)　　GL=35.22m　　L=1253.0m

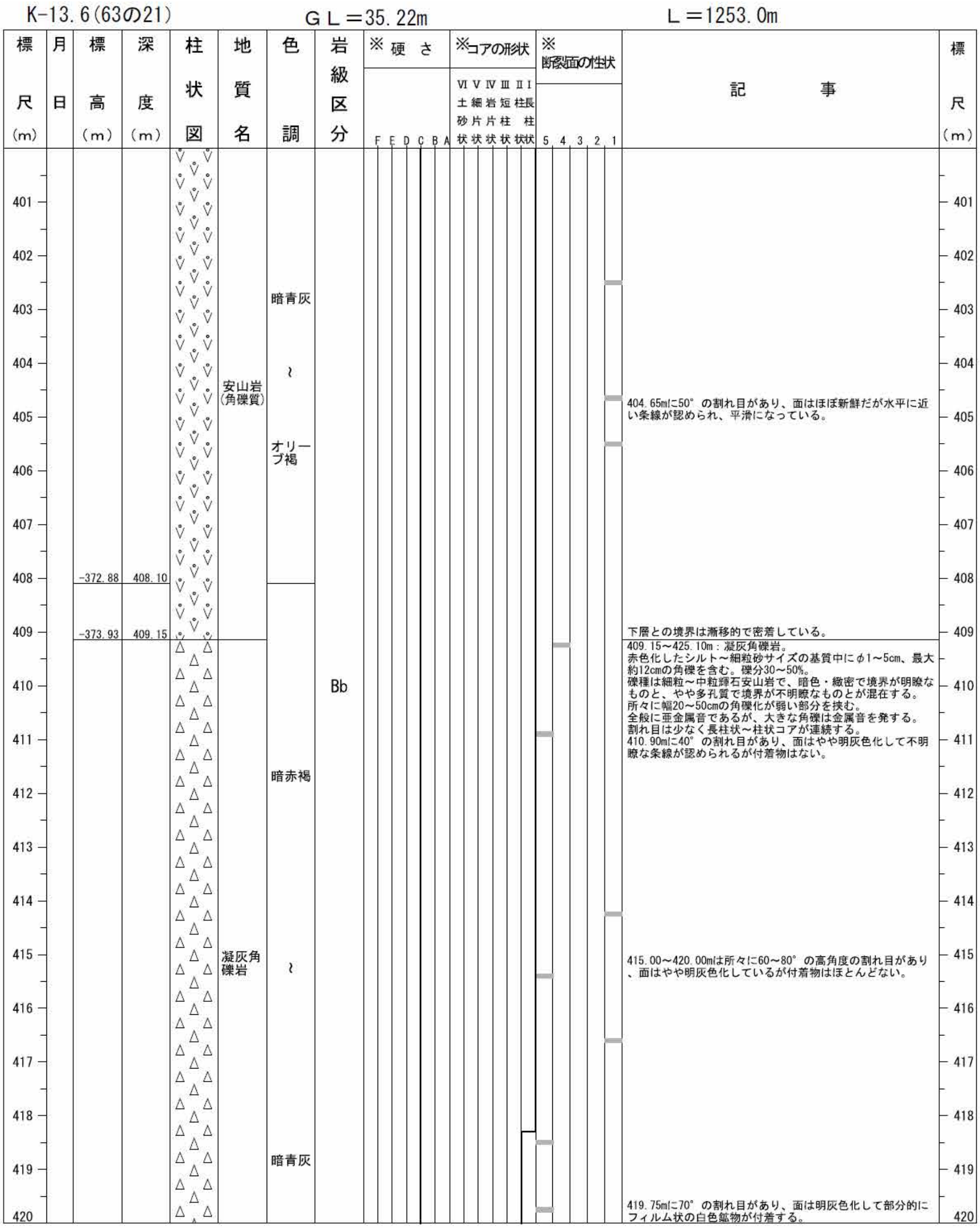
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
381–381.75			凝灰角礫岩	オリーブ灰～青灰	Bb	
381.75–383.85	-346.53	381.75	凝灰角礫岩	赤褐～オリーブ褐	Bb	381.75～383.85mは赤色化し、暗赤褐色の角礫が増えるなど、下層との漸移的な岩相になる。
383.85–389.15	-348.63	383.85	凝灰角礫岩	赤～赤褐	Bb	383.85～389.15mは著しく赤色化したシルト～細粒砂サイズの基質中にφ1～3cm、最大約10cmの角礫を含む。礫分40～60%。 礫種は暗赤褐色～暗青灰色の輝石安山岩及び明褐色で境界が不明瞭な輝石安山岩、黄灰色火山岩(デイサイト～流紋岩質)など多様である。 全般に亜金属音であるが、暗色の大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 割れ目は少なく、あっても20°以下の低角度の割れ目が卓越し、面は概ね新鮮である。 388.80mに55°の割れ目があり、面は暗灰色～暗褐色化し微細な鉱物が晶出している。 下層との境界は約40°で密着している。
389.15–400	-353.93	389.15	安山岩(角礫質)	暗青灰～オリーブ褐	Bb	389.15～409.15m:安山岩(角礫質)。 角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩が卓越し、所々に幅20～50cmの角礫化のやや進んだ部分を挟む。 角礫は暗色、やや多孔質で境界が不明瞭なものが卓越するが、緻密で境界が明瞭なものを混在する。 全般に亜金属音であるが、緻密で大きな角礫は金属音を発する。 割れ目は少なく長柱状コアが連続する。 397.30～397.80mは70°のわん曲した割れ目が交差し、半柱状コアとなる。面はやや黒褐色化し所々に黄褐色シルトが付着する。

※硬さ
- A:ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B:中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C:中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D:軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E:軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F:手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状
- Ⅰ:長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ:柱　状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ:短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ:岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ:細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ:土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（21/63）



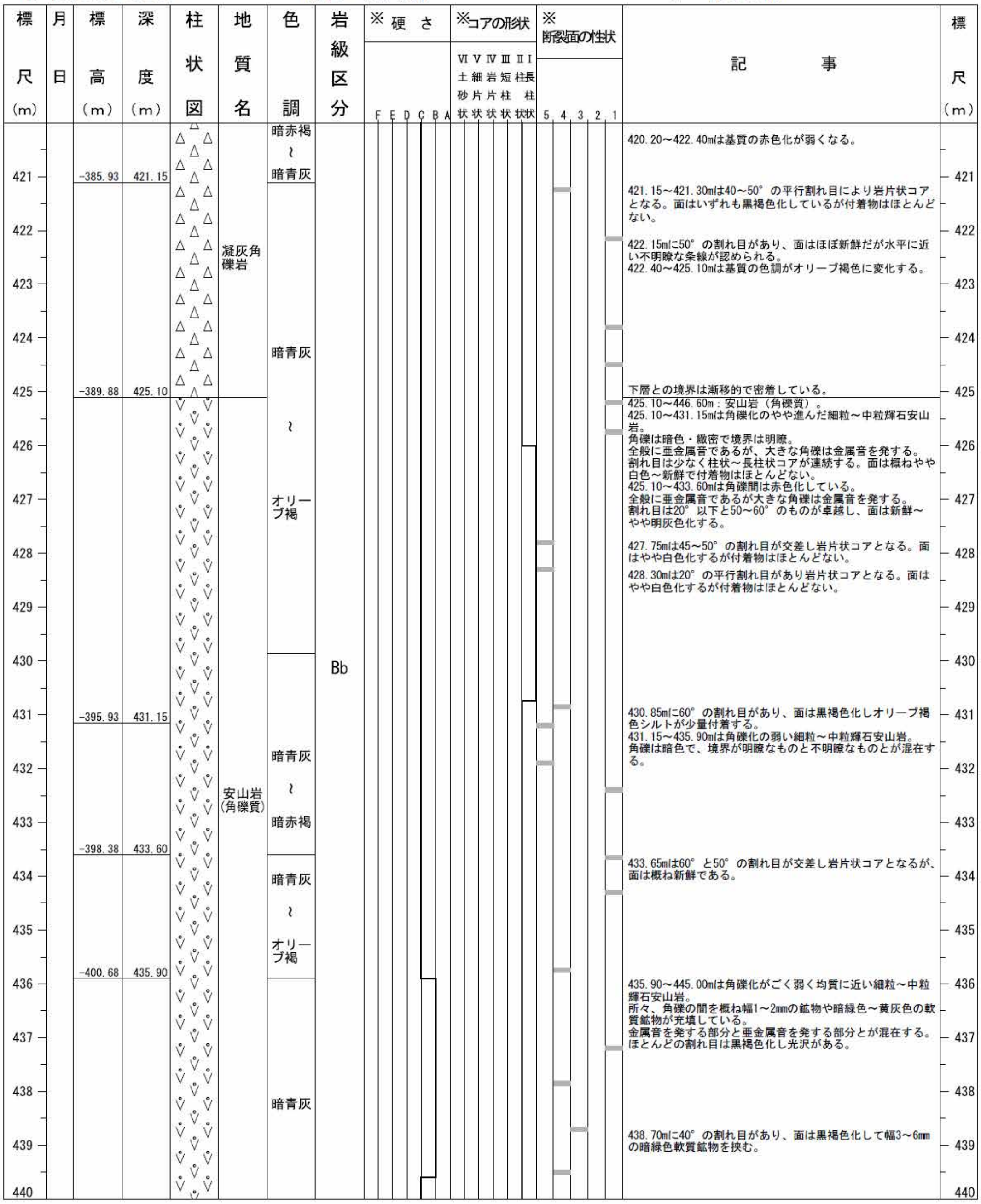
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱 状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（22/63）

K-13.6（63の22）　GL＝35.22m　L＝1253.0m



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(23/63)

K-13.6(63の23)　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	記事
-405.33	440.55	▽	安山岩(角礫質)	暗青灰	Bb	
-408.63	443.85	▽	安山岩(角礫質)	暗青灰～暗赤褐	Bb	441.55mに85°の割れ目があり、幅1～2mmは面に沿ってフレーク状に剥離し易く、暗緑色～暗褐色の光沢があり、45°の条線が認められる。 442.00mに65°の割れ目があり、面は暗赤褐色で光沢があり、幅1mm未満の白色微細結晶が付着する。
-409.78	445.00	▽	安山岩(角礫質)	暗青灰	Bb	444.05～445.10mは30～60°の割れ目が交差し、岩片状コアとなる。割れ目面はいずれも黒褐色化して光沢があり、所々青紫色軟質鉱物や褐色シルトが付着する。
-411.38	446.60	▽	安山岩(角礫質)	赤褐～暗赤褐	Bb	445.10～446.60mは角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩。 全般に赤色化し、角礫の境界は不明瞭で亜金属音を発する。 446.25mに70°の割れ目があり、面は暗緑色～暗赤褐色化して光沢があり、面に沿ってフレーク状に剥離し易い。 下層との境界は漸移的で密着。
-413.33	448.55	△	凝灰角礫岩	赤褐～暗赤褐	Bb	446.60～448.55m：凝灰角礫岩。 暗赤褐色化したシルト～細粒砂サイズの基質中にφ1cm前後、最大約4cmの角礫を含む。礫分50～70%。 礫種は細粒～中粒輝石安山岩で、暗赤褐色～灰褐色～明黄褐色と様々な色調を呈し、境界は明瞭である。 全般に亜金属音を発する。 下層との境界はほぼ水平で割れ目により分離している。
-421.78	457.00	▽	安山岩(角礫質)	暗青灰～赤褐	Bb	448.55～457.00m：安山岩（角礫質）。 角礫化のやや進んだ細粒～中粒輝石安山岩。 赤色化した部分が卓越するが、所々に厚さ40～60cmの赤色化していない暗色部を挟む。 角礫は概ね暗色で境界も明瞭であるが、赤色化し境界が不明瞭な角礫も混在する。 また、453.25m以深では縁辺沿いの幅2～4mmが青黒色化した角礫が目立つようになる。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫は金属音を発する。 割れ目は少ないが確認されたものは、30°以下のものが卓越し、面は概ね新鮮である。 450.60～457.00mは石英によって充填された固着割れ目や小空隙が点在する。 456.10～456.90mは赤色化が著しく、角礫の境界は不明瞭になる。 下層との境界はほぼ水平で割れ目により分離している。
-424.28	459.50	△	凝灰角礫岩	暗赤褐～黄褐	Bb	457.00～459.50m：凝灰角礫岩。 暗赤褐色化したシルト～細粒砂サイズの基質中にφ1～2cm、最大約6cmの角礫を含む。礫分50～70%。 礫種は細粒～中粒輝石安山岩で、暗青灰色～灰褐色～黄褐色と様々な色調を呈し、境界は概ね明瞭である。 全般に亜金属音を発する。 457.30～457.80mには石英によって充填された固着割れ目がある。 下層との境界は漸移的で密着している。
		▽	安山岩(角礫質)	暗青灰～暗赤褐	Bb	

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(24/63)

K-13.6(63の24)　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	※硬さ (F E D C B A)	※コアの形状 (Ⅵ Ⅴ Ⅳ Ⅲ Ⅱ Ⅰ)	※断裂面の性状 (5 4 3 2 1)	記事
-427.33	462.55	安山岩(角礫質)	暗青灰～暗赤褐	Bb				459.50～462.55m：安山岩（角礫質）。 角礫化のやや進んだ細粒～中粒輝石安山岩。 やや赤色化しているが、角礫は概ね暗色で、境界が明瞭なものと不明瞭なものとが混在する。また、縁辺沿いの幅2～4mmが黒色化した角礫も点在する。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 461.30～461.50mは40～60°の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面は黒褐色化し、青緑色軟質鉱物が少量付着する。 461.75mは50～70°の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面は暗赤褐色化し光沢があり、青緑色軟質鉱物が少量付着する。 下層との境界は漸移的で密着。
-429.48	464.70	凝灰角礫岩	暗青灰～褐	Bb				462.55～464.70m：凝灰角礫岩。 細粒砂サイズの基質中にφ1～3cm、最大約7cmの角礫を含む。礫分50～70%。 礫種は細粒～中粒輝石安山岩で、暗青灰色～黄褐色と様々な色調を呈し、境界は概ね明瞭である。 全般に亜金属音であるが、φ4～7cmの暗色・緻密な角礫は金属音を発する。 下層との境界は漸移的で密着している。
-433.03	468.25	安山岩(角礫質)	暗青灰～褐灰	Bb				464.70～478.75m：安山岩（角礫質）。 464.70～468.25mは角礫化のやや進んだ細粒～中粒輝石安山岩。 角礫はφ3～5cmで暗色のものとφ1～3cmで褐灰色のものとが混在する。また、暗色の角礫は縁辺沿いの幅2～4mmが黒色化したものが卓越する。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮である。 464.70～476.00mは黄褐色の角礫が混入する。 全般的に亜金属音を発する。 割れ目は少なく概ね20°以下である。
-434.78	470.00	安山岩(角礫質)	暗青灰	Bb				468.25～470.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒～中粒輝石安山岩。 全般に金属音を発する。 割れ目は30～50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。 468.80mに40°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、条線が認められる。
-437.68	472.90	安山岩(角礫質)	暗青灰～褐	Bb				470.00～472.90mは角礫化のやや進んだ細粒～中粒輝石安山岩。 角礫は暗色・緻密で境界が明瞭なものと黒色・やや多孔質で境界が不明瞭なものとが混在する。 全般に亜金属音であるが、角礫の中には金属音を発するものがある。 472.85mに75°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、幅1mmのオリーブ褐色シルトを挟む。
-439.78	475.00	安山岩(角礫質)	暗青灰	Bb				472.90～475.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒～中粒輝石安山岩。 全般に金属音を発する。 割れ目は30～50°が卓越し、面は黒褐色化して光沢がある。 473.45～473.60mはわん曲した高角度の割れ目があり、一部が岩片状となる。面は黒褐色化して光沢があり、暗緑褐色シルトが付着する。
-443.53	478.75	安山岩(角礫質)	暗青灰～褐	Bb				475.00～478.75mは角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩。 角礫は暗色、やや多孔質でコア肌は粗く、境界は不明瞭。 478.45mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化して暗緑褐色シルトが付着する。 下層との境界は漸移的で密着している。
		安山岩(均質)	暗青灰	Ba				478.75～482.95m：安山岩（均質） 細粒～中粒輝石安山岩。全般に亜金属音を発する。 割れ目は黒色化して光沢のあるものが卓越する。 479.20mに85°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、20～30°の不明瞭な条線が認められる。面に沿ってフレーク状に剥離し易く、暗緑褐色シルトが少量付着する。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(25/63)

K-13.6(63の25)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標尺(m)	月日	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
480〜482.95		−447.73	482.95	安山岩(均質)		Ba	480.00〜481.40mは潜在割れ目が網目状に発達する。固着割れ目にはハンマーの軽打で分離するものもあり、面は黒褐色化して光沢がある。 482.35mに25° の割れ目があり、面は黒褐色化して高角度の条線が認められ、褐色シルトが付着している。 下層との境界は漸移的で密着している。
482.95〜491.00		−455.78	491.00	安山岩(角礫質)	暗青灰	Bb	482.95〜537.05m：安山岩(角礫質)。 482.95〜486.30mは角礫化の弱い細粒〜中粒輝石安山岩。 角礫は暗色、やや多孔質で境界は不明瞭なものが卓越する。 全般に亜金属音を発する。 482.95〜514.80mは角礫は暗色、やや多孔質で斜長石斑晶が目立ち、境界はやや不明瞭なものが卓越する。所々φ1〜2cmの角礫が卓越する部分を挟む。 全般に亜金属音であるが、φ5cm以上の緻密角礫は金属音を発する。 割れ目は少なく概ね20° 以下で面は新鮮である。 484.20〜484.80mは20〜60° の割れ目が発達する。面は黒褐色化しているが付着物は少ない。 484.85〜485.15mは安山岩(均質)の角礫。 486.30〜491.00mは角礫化がごく弱く均質に近い細粒〜輝石安山岩。 全般に金属音を発する。 割れ目は20〜50° が卓越し、面は黒褐色化し光沢がある。 488.15mに80° の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、幅1mmのオリーブ褐色シルトを挟む。 489.10〜489.90mは固着割れ目が網目状に発達する。 489.30mに75° の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、褐色シルトが付着する。
491.00〜500					暗青灰〜褐		491.00〜497.15mは角礫化のやや進んだ中粒輝石安山岩。 角礫は暗色で斜長石斑晶が目立ち、境界が明瞭なものと不明瞭なものとが混在する。所々にφ1〜2cmの角礫が卓越する部分を挟む。 全般に亜金属音を発する。 割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。 494.90mに80° の割れ目があり、面は黒褐色化してやや光沢があり、ほぼ水平な条線が認められ、黄灰色軟質鉱物がわずかに付着する。 495.45〜495.65mは緻密な角礫が密集し金属音を発する。 497.15〜499.70mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 φ10〜30cmの緻密な角礫が卓越する。 全般には亜金属音であるが、角礫は金属音を発するものが多い。 割れ目は少なく、面も概ね新鮮である。 499.70mに30° の割れ目があり、下面に沿った虫食い状空洞に黄灰色鉱物が晶出している。

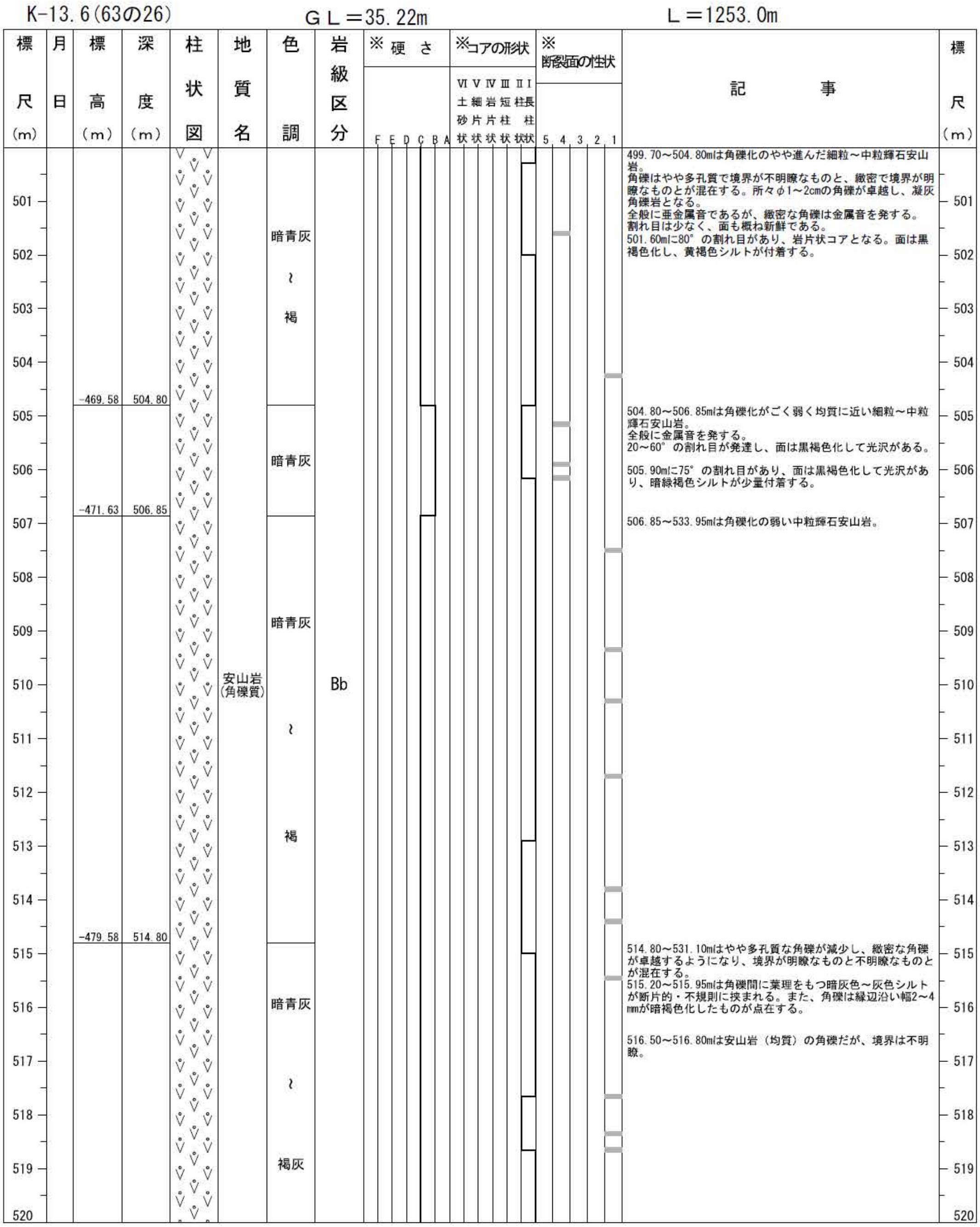
(柱状図・※硬さ F E D C B A・※コアの形状 Ⅵ 土砂状 Ⅴ 細片状 Ⅳ 岩片状 Ⅲ 短柱状 Ⅱ 柱状 Ⅰ 長柱状・※断裂面の性状 5 4 3 2 1 の各欄は図示)

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ：柱　状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ：短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ：岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ：細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（26/63）

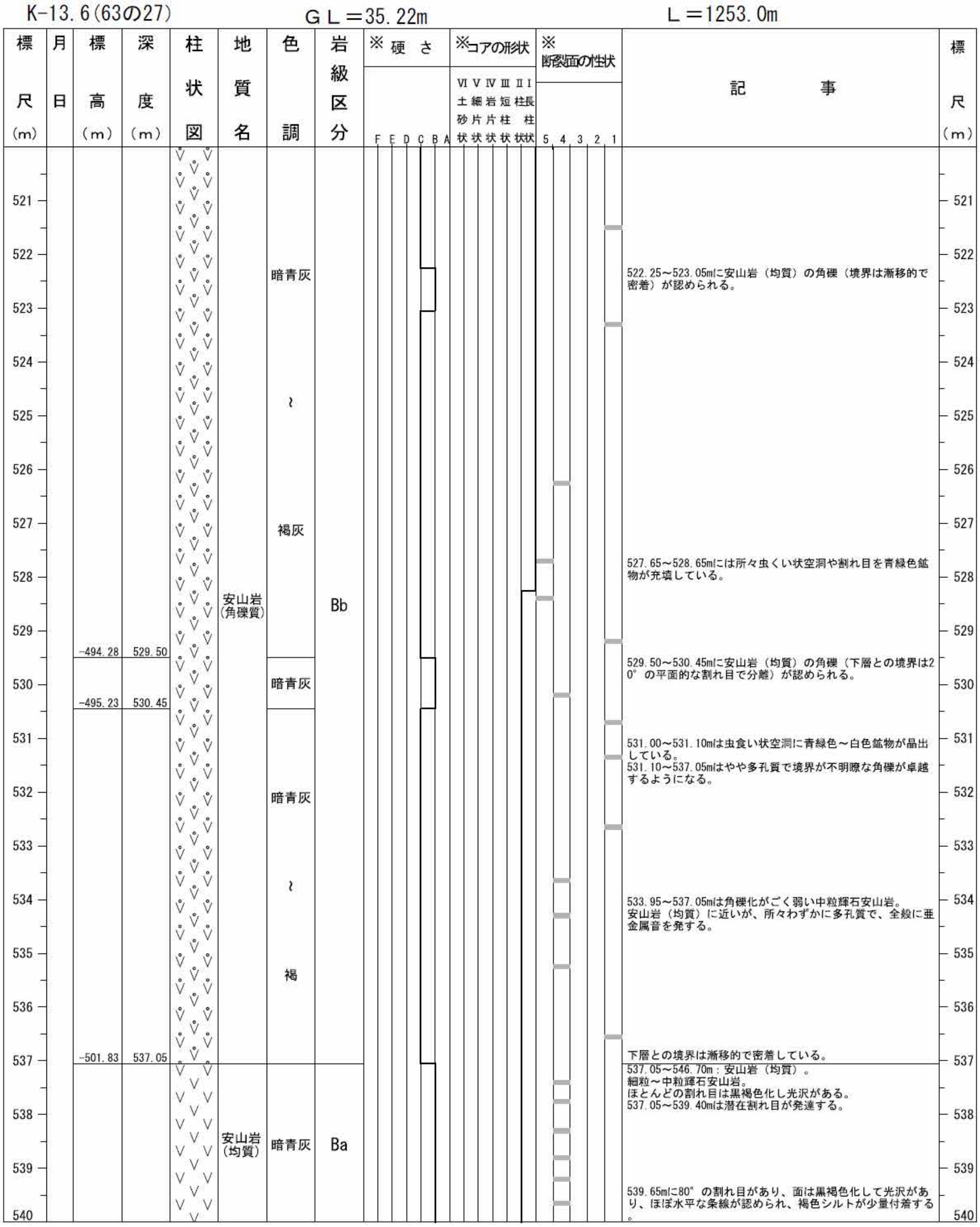


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（27/63）



※硬さ

- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（28/63）

K-13.6（63の28）　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

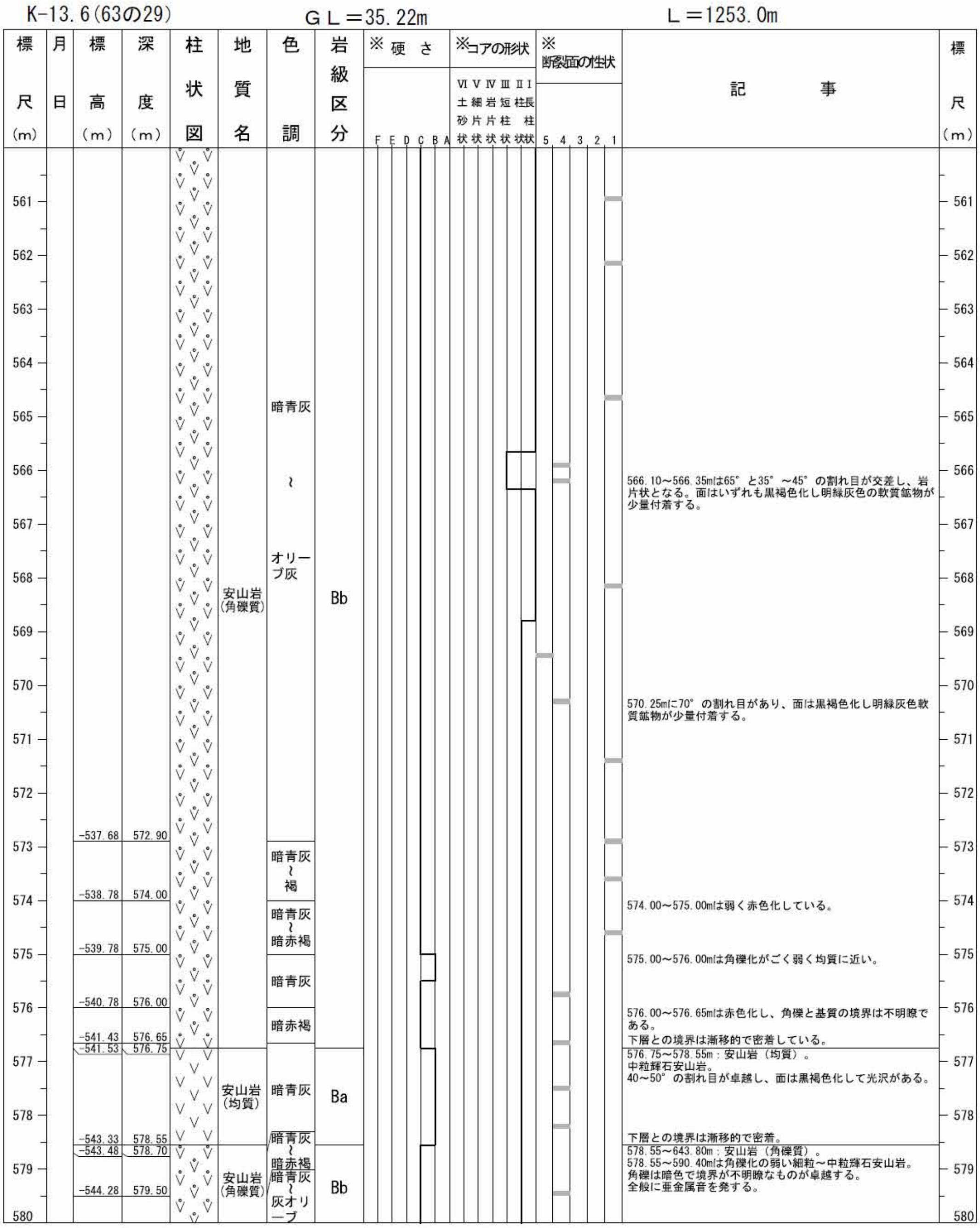
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
541–546.70	-511.48	546.70	安山岩（均質）	暗青灰	Ba	542.05～542.35mは幅1mm前後の暗緑色石英を挟む潜在割れ目が発達し、割れ目沿いの虫食い状空洞を黄灰色石英や石英が充填している。 543.15～546.50mは、60～80°と20～45°の割れ目が交差し、短柱状～岩片状コアが卓越する。いずれの割れ目面も黒褐色化し光沢がある。 下層との境界は漸移的で密着している。
546.70–547.90	-512.68	547.90	安山岩（角礫質）	暗赤褐	Bb	546.70～576.75m：安山岩（角礫質）。 546.70～547.90mは角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 暗赤色化し、角礫の境界は不明瞭でやや多孔質。
547.90–550.00	-514.78	550.00		暗青灰～褐		547.90～549.00mは角礫化のやや進んだ中粒輝石安山岩。 角礫はやや多孔質で、境界部に沿った幅2～4mmが暗褐色している。 549.00～576.75mは角礫化の弱い細粒～中粒輝石安山岩。 角礫は境界が不明瞭なものが卓越するが、所々にφ1～2cmで明色あるいは暗色を呈し境界が明瞭な角礫も混在する。 全般に亜金属音である。 割れ目は少なく、あっても面は新鮮である。
550.00–560				暗青灰～オリーブ灰		553.80mに小規模な虫食い状空洞があり、明緑灰色軟質鉱物が少量付着する。 557.95mに60°の割れ目があり、面はほぼ新鮮であるが、不明瞭な条線が認められる。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(29/63)

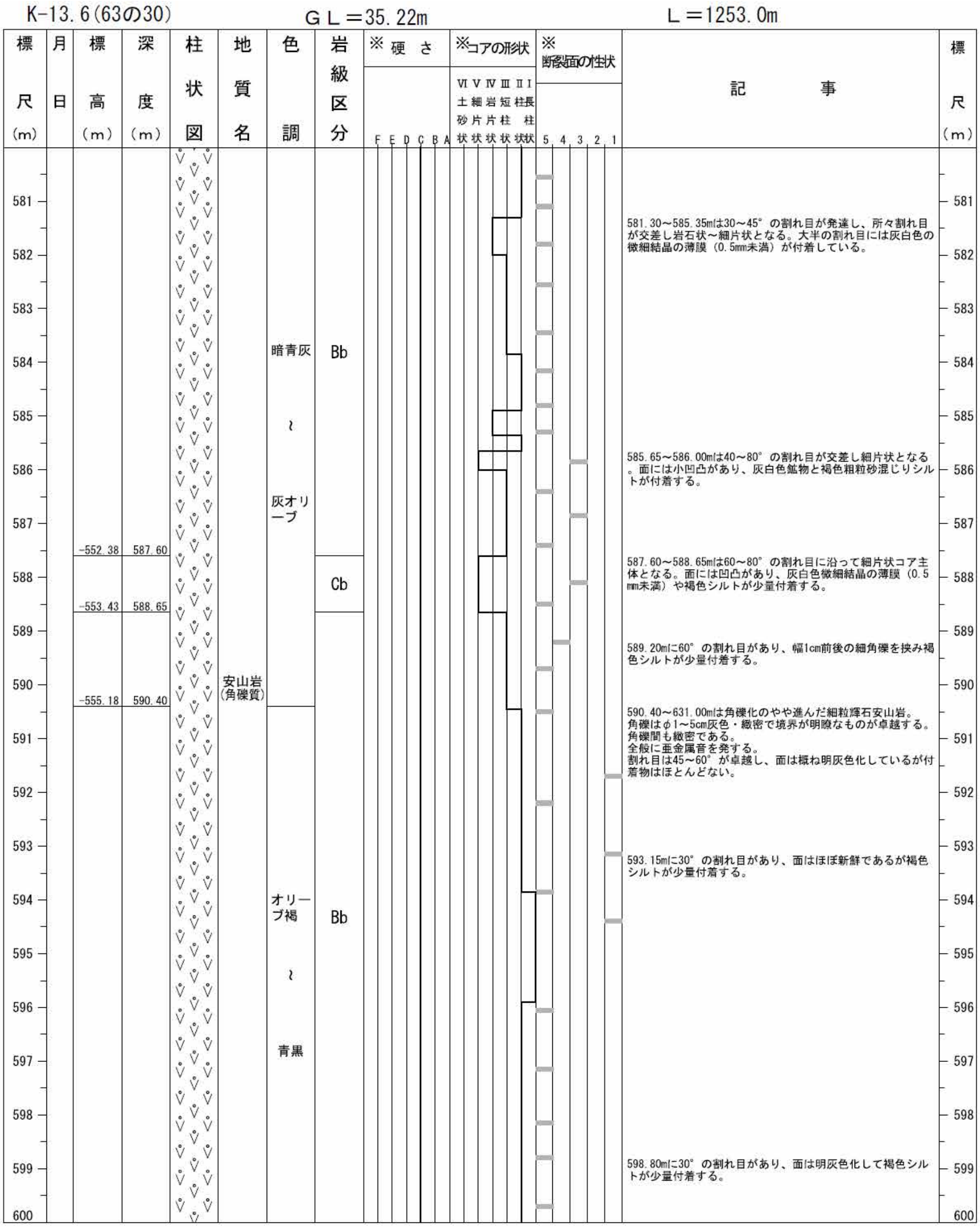


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(30/63)



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(31/63)

K-13.6(63の31)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

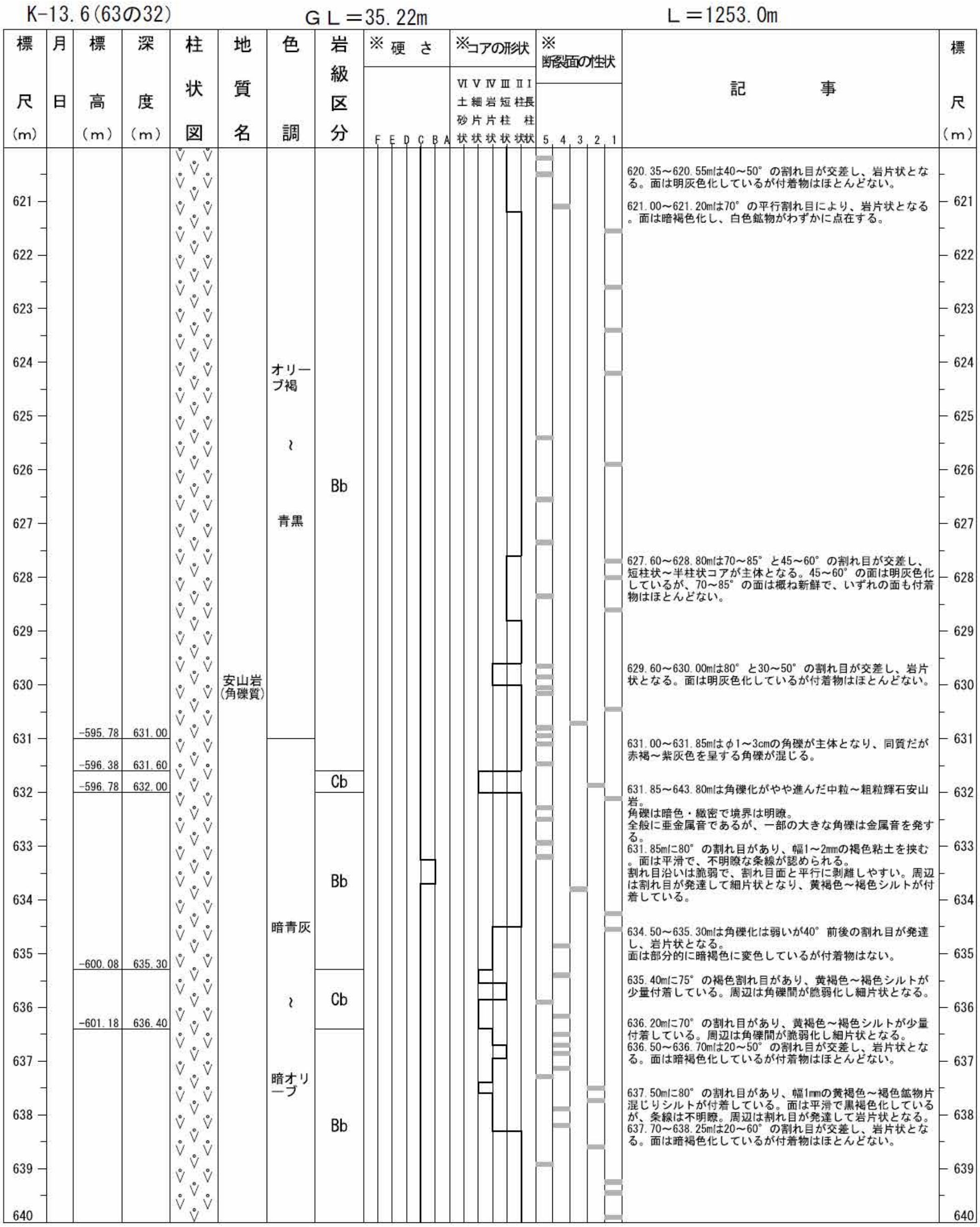
標尺 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
602	安山岩(角礫質)	オリーブ褐～青黒	Bb	602.10～602.30mは30～50° の割れ目が交差し、岩片状となる。面は明灰色化し、褐色シルトがわずかに付着する。
607				607.10～607.40mは40～50° の割れ目が発達し短柱状となるが、面は概ね新鮮で付着物もほとんどない。
608				608.20～608.90mは85° のわん曲した割れ目により半柱状となるが、面は新鮮で付着物もほとんどない。
610				610.30～611.65mは40～50° と75～85° の割れ目が交差し、岩片状コア主体となる。面は部分的に明灰色化しているが付着物はほとんどない。 610.90mに50° の割れ目があり、面は明灰色で褐色シルトが少量付着する。
612				612.10～613.10mは60～70° の割れ目が卓越する。面は概ね明灰色化しているが付着物はほとんどない。
616				616.30～616.60mは60° と20～30° の割れ目が交差し、細片状となる。面は暗褐色化しているが付着物はほとんどない。
619				619.40～619.90mは80° と30～40° の割れ目が交差し、短柱状～半柱状となるが、面は概ね新鮮で付着物もない。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（32/63）



※硬さ

A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状

1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(33/63)

K-13.6(63の33)　　G L＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	記事
-608.58	643.80		安山岩(角礫質)	暗青灰～暗オリーブ	Bb	640.10～642.95mは角礫化がやや進んでいるが、割れ目は少ない。 641.20～641.60mは70°の割れ目に沿って岩片状となる。面は暗褐色化しているが、付着物はほとんどない。 下層との境界は漸移的で密着している。
-610.28	645.50		安山岩(均質)	暗青灰	Ba	643.80～645.50m：安山岩（均質）。 中粒輝石安山岩。金属音を発する。 20～60°の割れ目が発達し、短柱状～岩片状コア主体となる。面は黒褐色化しており、一部に白色鉱物が付着する。 644.80～645.30mは30～60°の割れ目が交差し岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 下層との境界は漸移的で密着している。
-620.78	656.00		安山岩(角礫質)	暗青灰～暗オリーブ灰	Bb	645.50～660.90m：安山岩（角礫質）。 角礫化のやや進んだ細粒～中粒輝石安山岩。角礫は暗色・緻密で境界は明瞭。所々に幅5～20cmの角礫化がより進んだ部分を挟む。 全般に亜金属音であるが、大きな角礫の中には金属音を発するものがある。 646.55mに55°の割れ目があり、周辺は細片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はわずかである。 647.25～647.55mは40～60°の割れ目が交差し、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 649.70mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 649.95mに60°の割れ目があり、褐色シルトが少量付着する。面は黒褐色化し、不明瞭な条線が認められる。周辺は岩片状となる。 650.00～656.30mは割れ目が少なく、柱状～長柱状コアが連続する。 651.60mに60°の割れ目があり、岩片状となる。面は黒褐色化しているが、付着物は少ない。 652.20～653.70mは角礫間を充填する白色鉱物が点在する。
				暗青灰～オリーブ褐		656.30～656.90mは80°の割れ目により、岩片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。部分的に条線が認められる。 656.90～657.90mは60～80°と30～50°の割れ目が交差し、岩片状～細片状コア主体となる。 657.90～658.50mは角礫化がごく弱く均質に近い。概ね金属音を発するが、割れ目も発達する。 658.60～658.90mは70°の割れ目により、細片状となる。面は部分的に黒褐色化し、褐色シルトが少量付着する。 659.70～660.30mは角礫化が進みφ1～3cmの角礫が卓越する。

※硬さ
A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（34/63）

K-13.6（63の34）　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
	-625.68	660.90	安山岩（角礫質）	暗青灰～オリーブ褐	Bb	下層との境界は漸移的で密着している。
661～680			安山岩（均質）	暗灰	Ba	660.90～680.30m：安山岩（均質）。 輝石斑晶が目立つ中粒の輝石安山岩で、少量ではあるが、φ1～2cmの黒色細粒安山岩捕獲岩片が点在する。 概ね金属音を発する。 割れ目は30～50°のものが卓越するが、所々に60～90°の割れ目が見られる。面は概ね黒褐色化しており、所々に白色軟質鉱物がごく薄く付着する。 661.80mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化して少量の褐色シルトが付着する。 662.60mに20°の割れ目があり、面は黒褐色化して不明瞭な条線が認められ、幅1mm未満の褐色粘土が付着する。 664.25mに10°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があり、暗褐色粘土が少量付着する。 664.55mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して少量の暗褐色シルトが付着し、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。 664.90～665.65mに85°の割れ目があり、面は黒褐色化して低角度の不明瞭な条線が認められ、白色軟質鉱物が少量付着する。 666.60mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化して低角度の不明瞭な条線が認められ、暗褐色シルトが少量付着する。 668.55mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して光沢があるが、付着物はない。 670.15mに65°の割れ目があり、幅約1cmが岩片化している。面は黒褐色化して低角度の不明瞭な条線が認められるが、付着物はほとんどない。 671.40mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化して白色軟質鉱物が少量付着する。 674.30～674.60mに85°のわん曲した割れ目があり、面は黒褐色化して白色軟質鉱物が少量付着する。 675.65～677.40mは40～60°の割れ目が発達し、短柱状コア主体となる。面は概ね黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。 677.25mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化して幅1mm未満の褐色シルトを挟む。周辺は平行する割れ目により岩片状コアとなる。 678.40～678.85mは50～60°の潜在割れ目が認められる。 678.85mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化し不明瞭な条線が認められるが、付着物はほとんどない。 679.75mに60°の平行割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

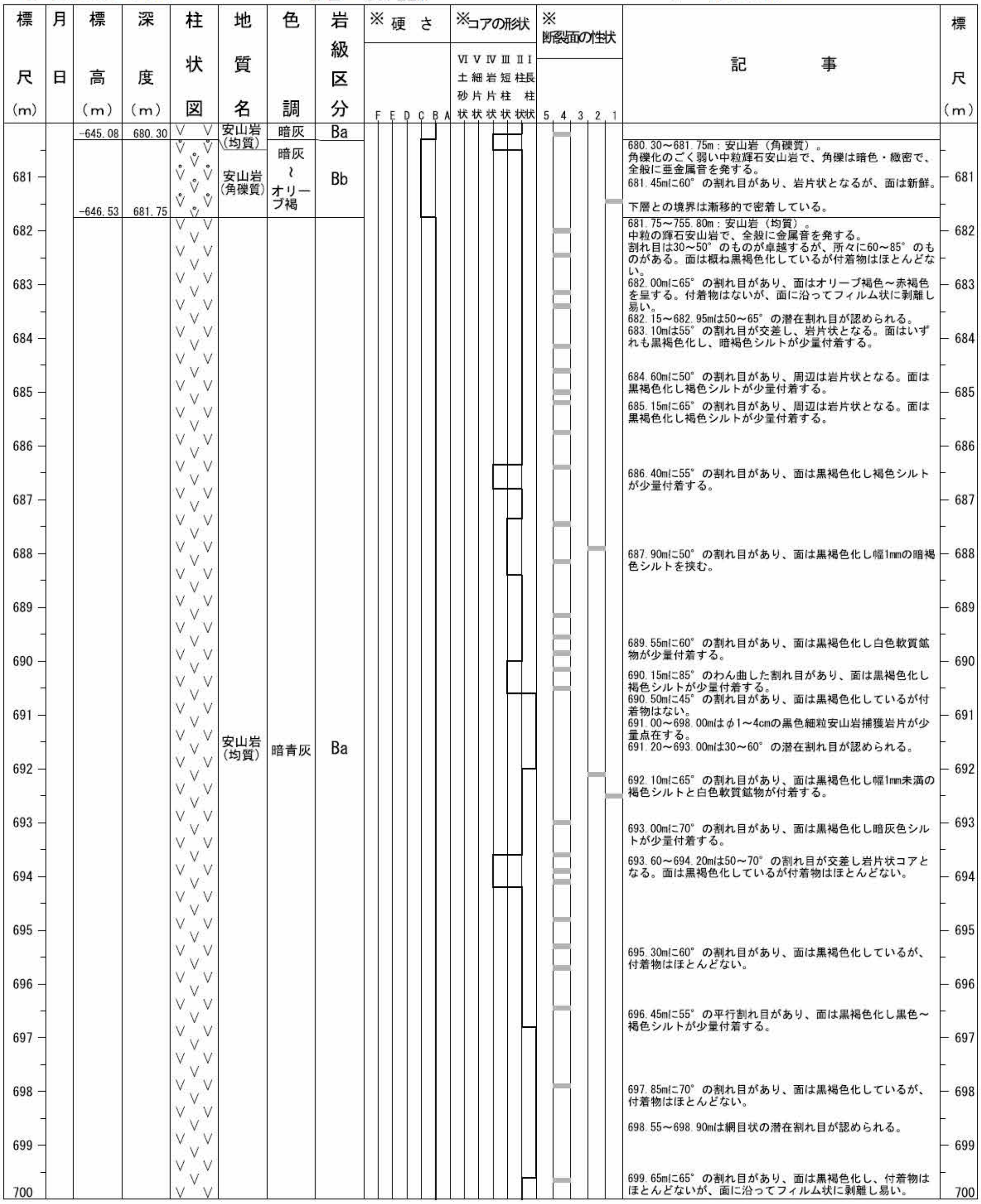
※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(35/63)

K-13.6(63の35)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分
-645.08	680.30	安山岩(均質)	暗灰	Ba
-646.53	681.75	安山岩(角礫質)	暗灰〜オリーブ褐	Bb
		安山岩(均質)	暗青灰	Ba



記事

680.30〜681.75m：安山岩（角礫質）。
角礫化のごく弱い中粒輝石安山岩で、角礫は暗色・緻密で、全般に亜金属音を発する。
681.45mに60°の割れ目があり、岩片状となるが、面は新鮮。
下層との境界は漸移的で密着している。

681.75〜755.80m：安山岩（均質）。
中粒の輝石安山岩で、全般に金属音を発する。
割れ目は30〜50°のものが卓越するが、所々に60〜85°のものがある。面は概ね黒褐色化しているが付着物はほとんどない。
682.00mに65°の割れ目があり、面はオリーブ褐色〜赤褐色を呈する。付着物はないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。
682.15〜682.95mは50〜65°の潜在割れ目が認められる。
683.10mは55°の割れ目が交差し、岩片状となる。面はいずれも黒褐色化し、暗褐色シルトが少量付着する。
684.60mに50°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。
685.15mに65°の割れ目があり、周辺は岩片状となる。面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。
686.40mに55°の割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。
687.90mに50°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mmの暗褐色シルトを挟む。
689.55mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化し白色軟質鉱物が少量付着する。
690.15mに85°のわん曲した割れ目があり、面は黒褐色化し褐色シルトが少量付着する。
690.50mに45°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが付着物はない。
691.00〜698.00mはφ1〜4cmの黒色細粒安山岩捕獲岩片が少量点在する。
691.20〜693.00mは30〜60°の潜在割れ目が認められる。
692.10mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し幅1mm未満の褐色シルトと白色軟質鉱物が付着する。
693.00mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化し暗灰色シルトが少量付着する。
693.60〜694.20mは50〜70°の割れ目が交差し岩片状コアとなる。面は黒褐色化しているが付着物はほとんどない。
695.30mに60°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。
696.45mに55°の平行割れ目があり、面は黒褐色化し黒色〜褐色シルトが少量付着する。
697.85mに70°の割れ目があり、面は黒褐色化しているが、付着物はほとんどない。
698.55〜698.90mは網目状の潜在割れ目が認められる。
699.65mに65°の割れ目があり、面は黒褐色化し、付着物はほとんどないが、面に沿ってフィルム状に剥離し易い。

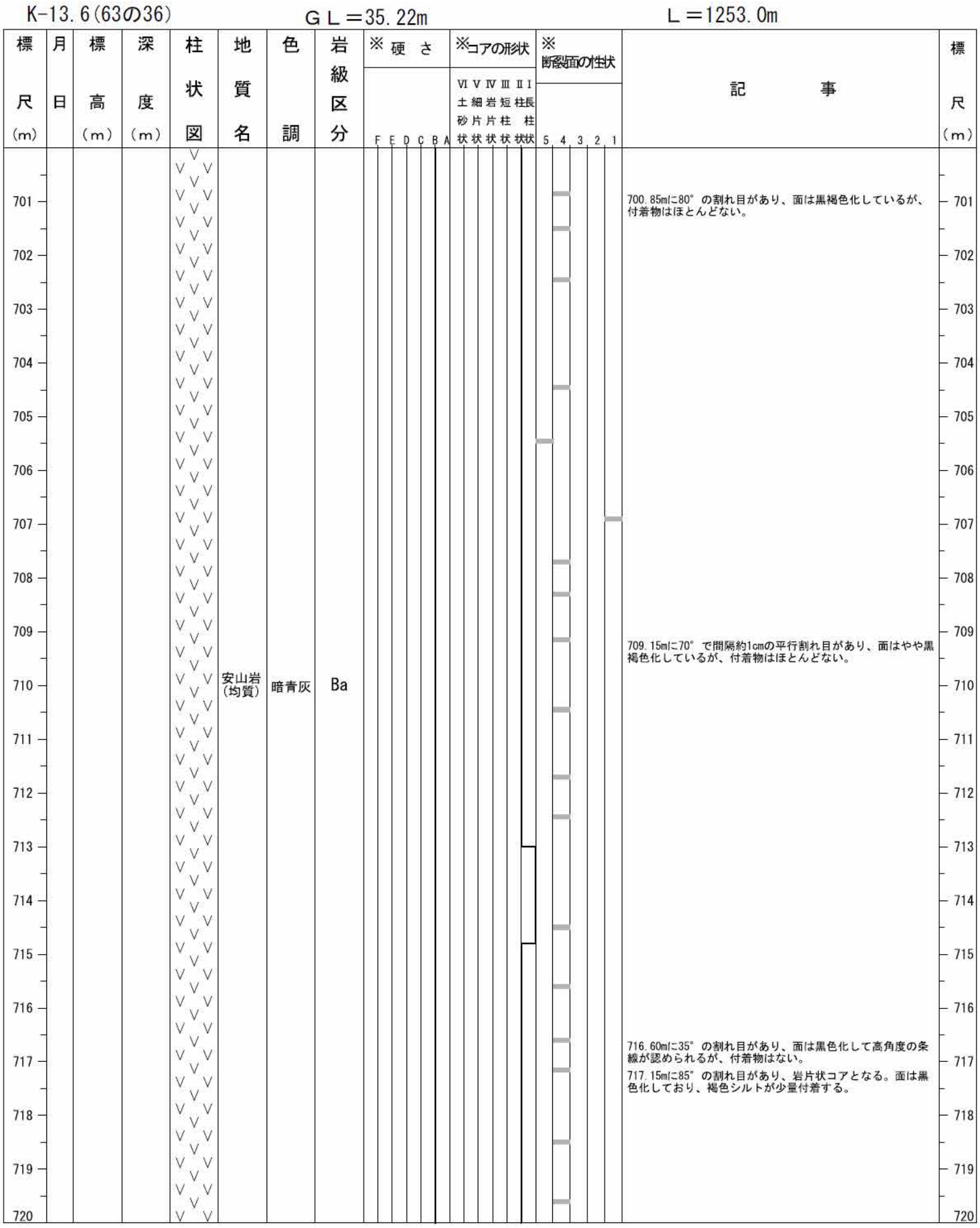
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

第1121回審査会合 机上配布資料4
P.10-2-212 再掲

柱状図（K-13.6孔）（36/63）



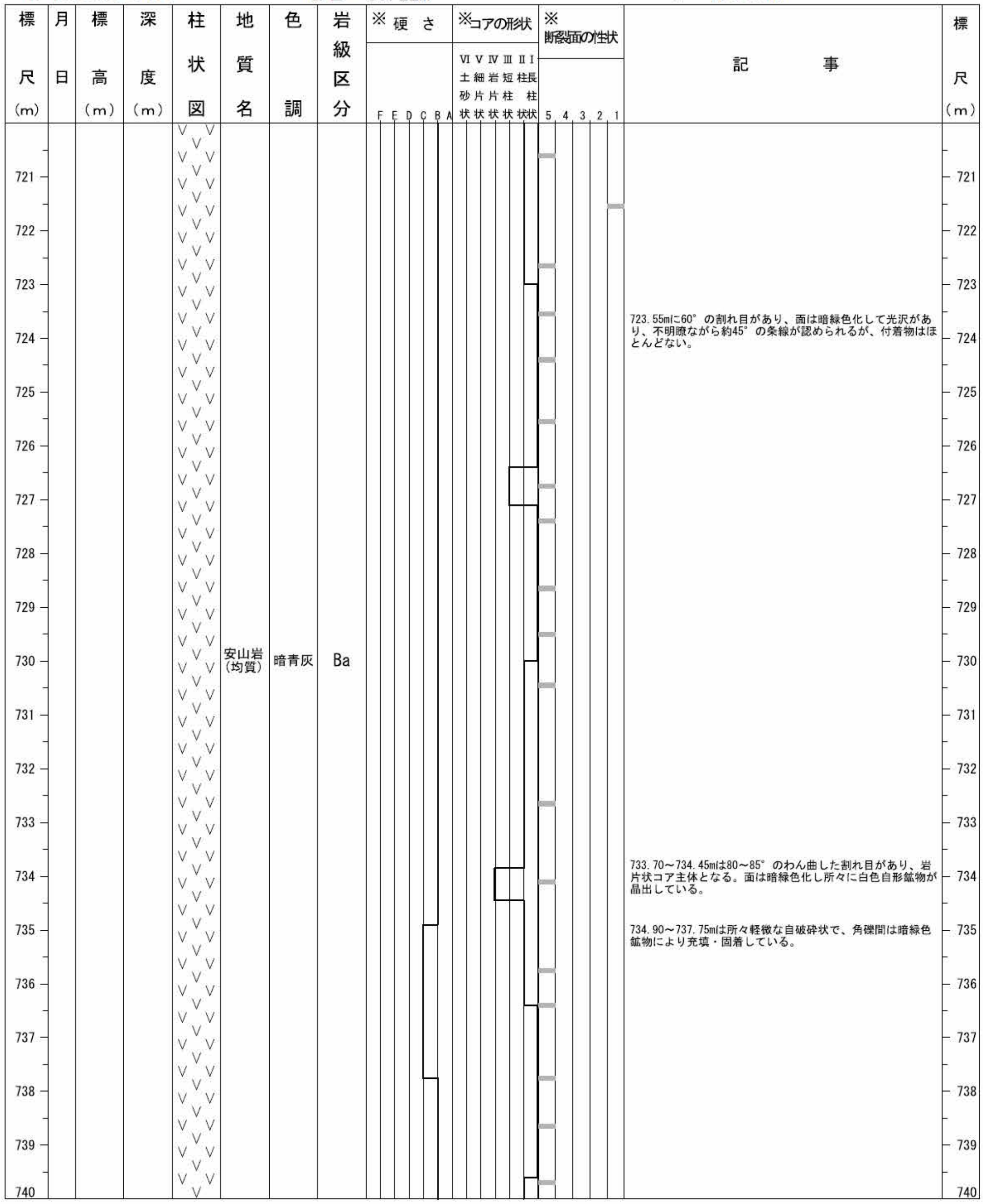
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(37/63)

K-13.6(63の37)　GL＝35.22m　L＝1253.0m



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(38/63)

K-13.6(63の38)　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

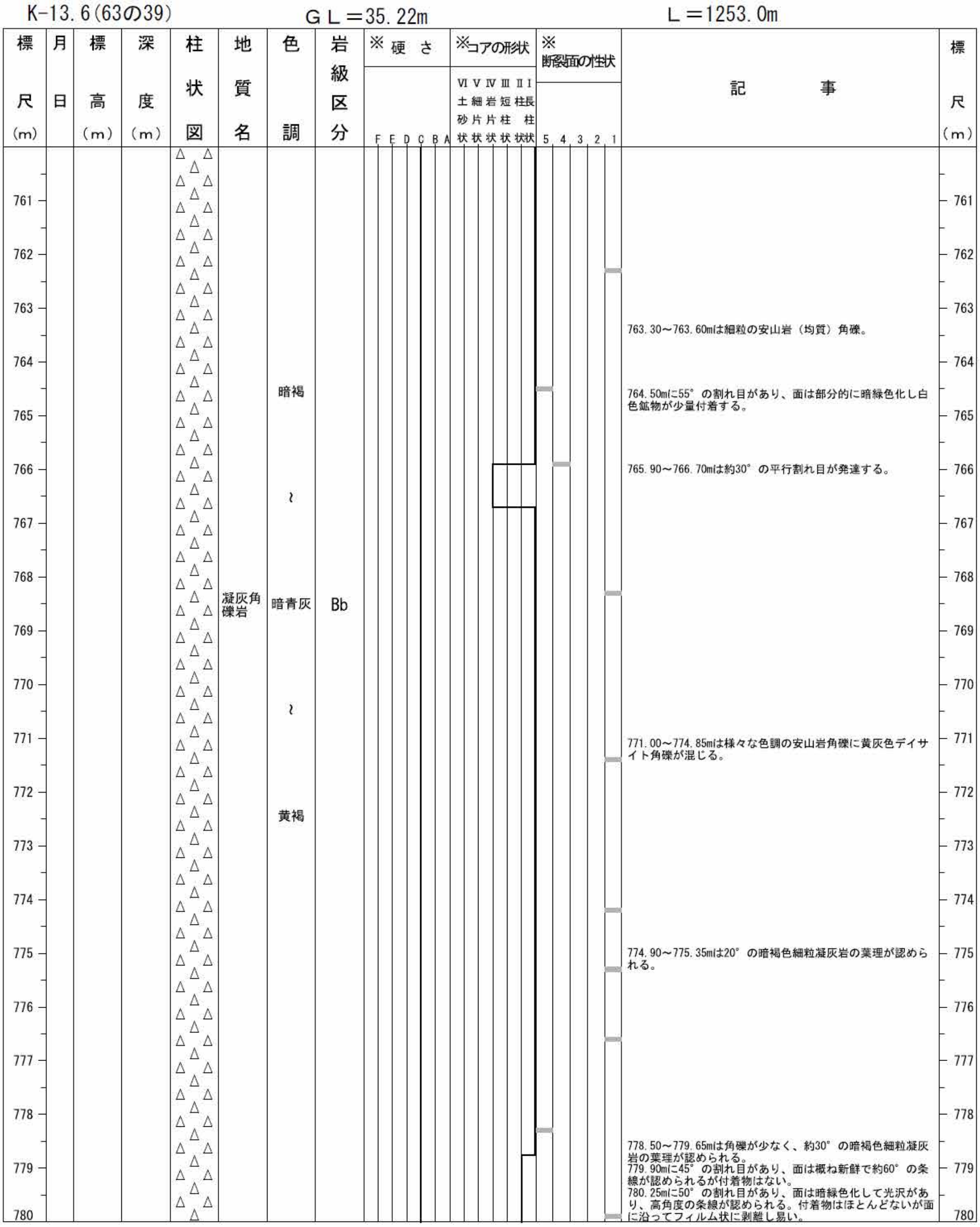
標尺(m)	月日	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
741				安山岩(均質)	暗青灰	Ba	741.10～741.55mは軽微な自破砕状で、角礫間は暗緑色鉱物により充填・固着している。
747							747.35mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して白色鉱物が少量付着する。
755		-720.58	755.80				755.40～755.80mは下位に向って斑晶の量が減少する。
756				凝灰角礫岩	暗褐～暗青灰～黄褐	Bb	755.80～867.80m：凝灰角礫岩。暗褐色のシルトサイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約7cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。割れ目は少ない。 756.65mに70°の割れ目があり、面は新鮮だが白色自形鉱物が少量付着する。
759–760							759.90mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化し幅1mmの白色鉱物を挟む。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（39/63）

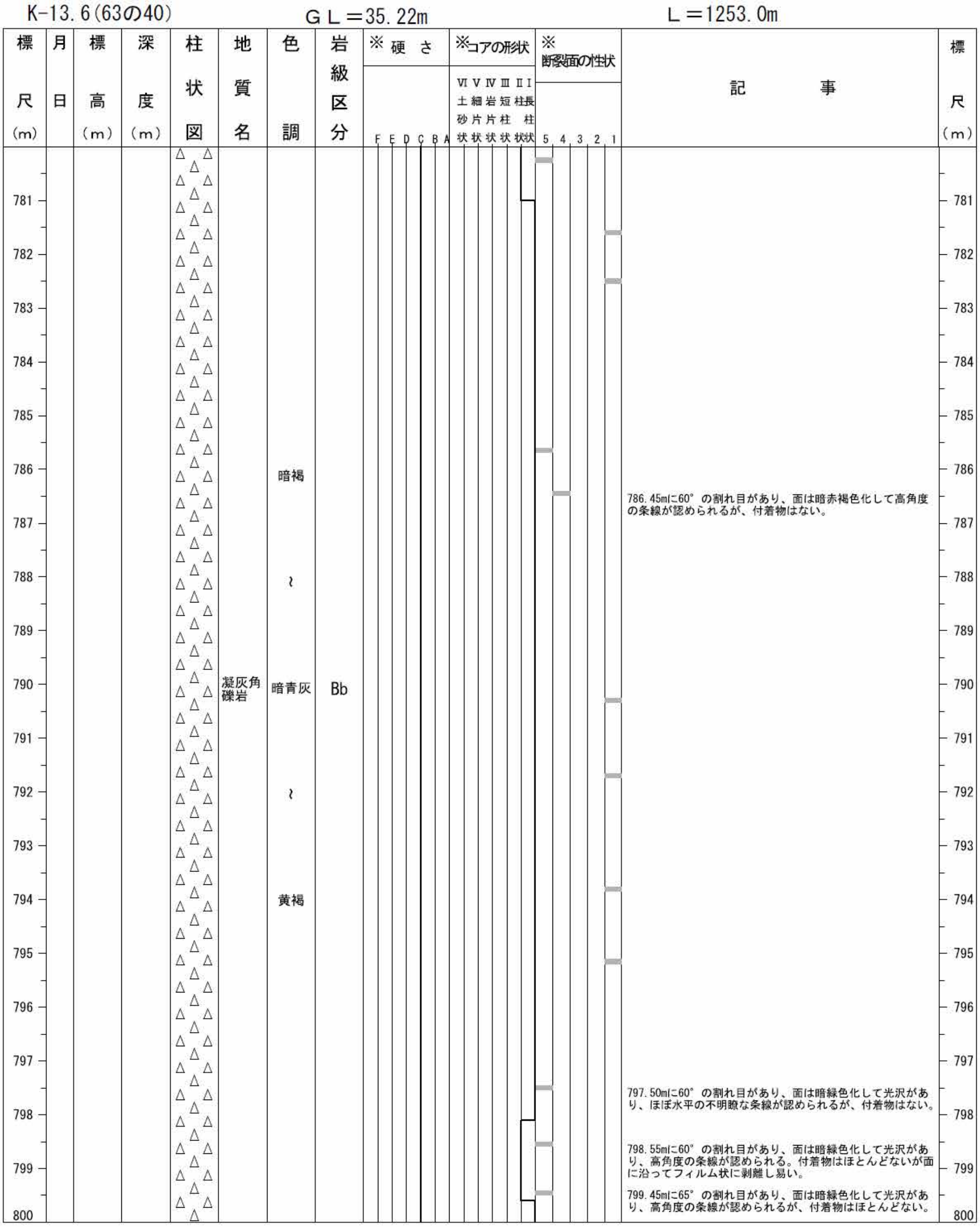


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（40/63）



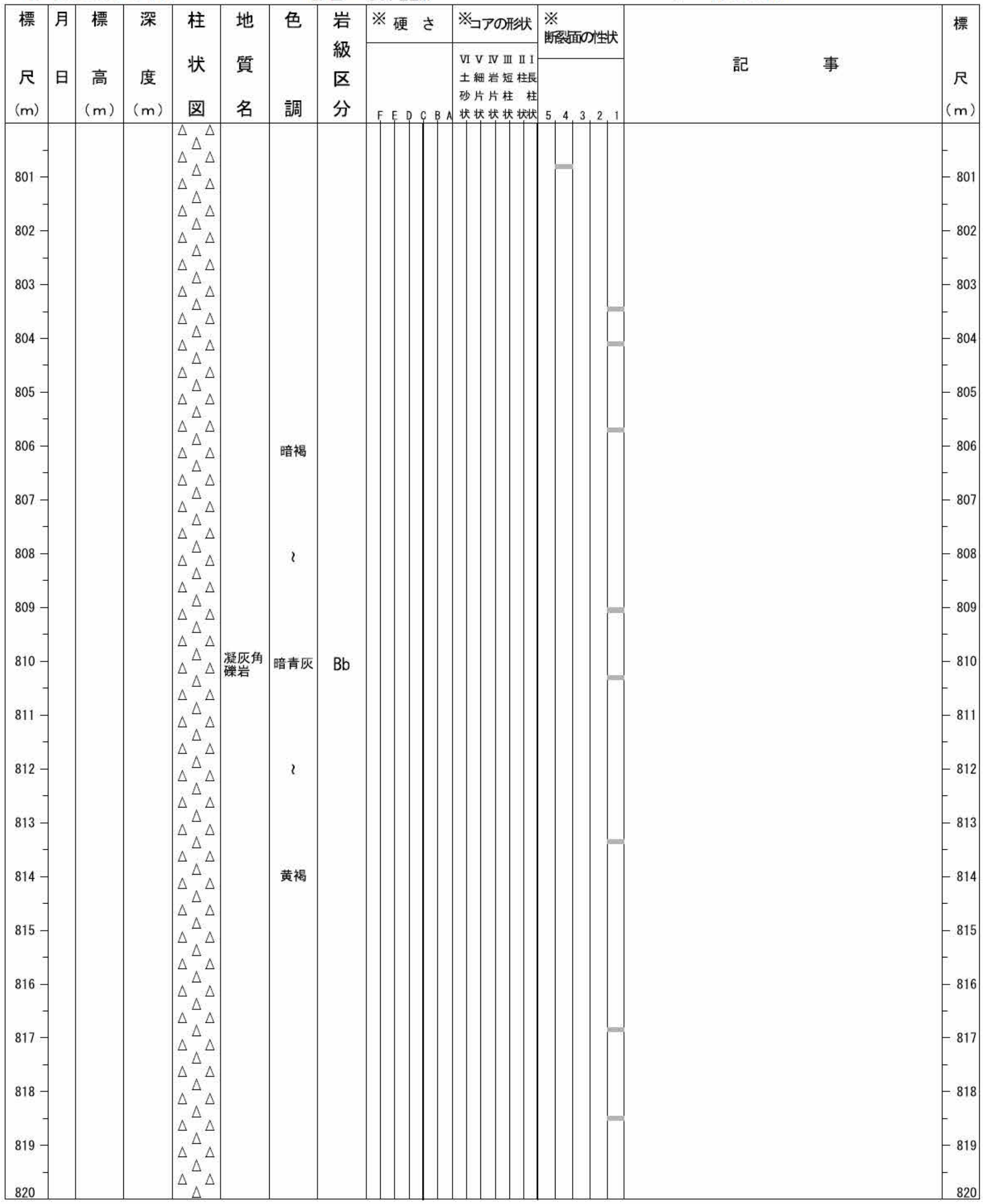
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(41/63)

K-13.6(63の41)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

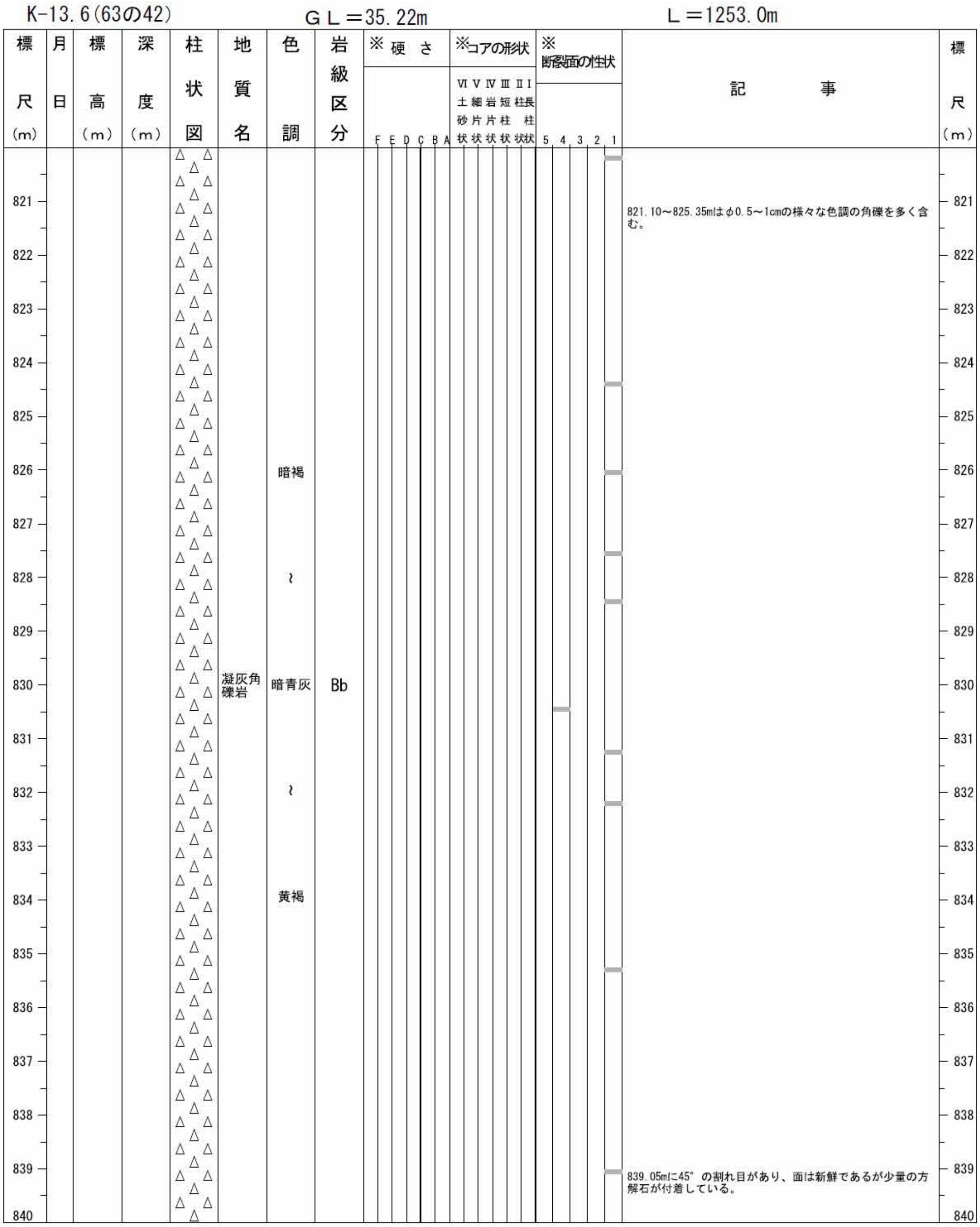


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(42/63)



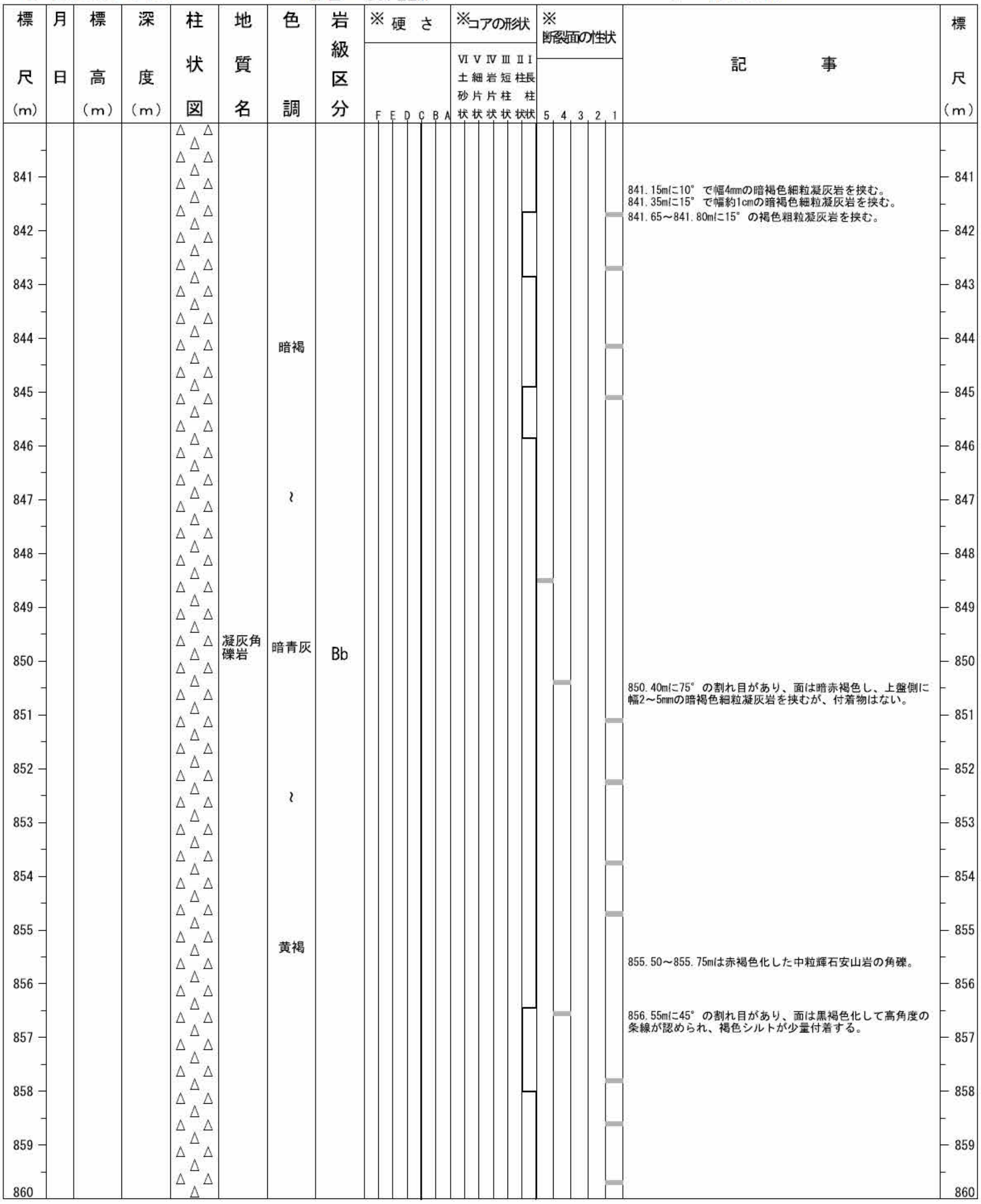
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（43/63）

K-13.6（63の43）　GL＝35.22m　L＝1253.0m



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(44/63)

K-13.6(63の44)　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
860～867.80	-832.58	867.80	凝灰角礫岩	暗褐 ～ 暗青灰 ～ 黄褐	Bb	861.20～861.50mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。 865.35～865.65mは暗赤褐色化した細粒輝石安山岩の角礫。
867.80～869.75	-834.53	869.75	安山岩(角礫質)	暗青灰 ～ 褐灰	Bb	867.80～869.75m：安山岩（角礫質）。 角礫化のごく弱い細粒輝石安山岩。 40～50°の割れ目が卓越するが面は概ね新鮮。
869.75～876.70	-841.48	876.70	凝灰角礫岩	暗褐 ～ 暗青灰 ～ 暗赤褐	Bb	869.75～926.75m：凝灰角礫岩。 869.75～874.75mは暗褐色のシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約6cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 873.80～873.95mは暗赤色化した細粒輝石安山岩の角礫。 874.75～875.30mはφ2～5cmの角礫が密集する。 875.20mにほぼ水平な割れ目があり、幅3～4mmの剥離性のある黒色泥岩を挟む。
876.70～880			凝灰角礫岩	暗褐 ～ オリーブ灰	Bb	876.70～880.70mは礫径・礫量ともに減少する。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(45/63)

K-13.6(63の45)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分	記事
880–881	-845.48	880.70	△	凝灰角礫岩	暗褐～オリーブ灰	Bb	
881–890.75			△	凝灰角礫岩	オリーブ灰～暗灰～暗青灰	Bb	880.70～890.75mはオリーブ灰色の細粒砂～中粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約6cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。また、少数ではあるが暗灰色泥岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 883.05～883.20mは灰色多孔質な中粒輝石安山岩の角礫。 883.85～889.40mは所々にほぼ水平な幅2～4mmの暗灰色細粒凝灰岩の葉理を挟む。
890.75–891.70	-855.53	890.75	△	凝灰角礫岩	暗褐～黄褐	Bb	890.75～891.70mは礫をほとんど含まない。
891.70–900	-856.48	891.70	△	凝灰角礫岩	暗褐～暗青灰～暗赤褐	Bb	891.70～901.65mは暗褐色の細粒砂～中粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約9cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 892.60～892.90mは暗紫灰色の粗粒輝石安山岩の角礫。 893.65～896.20mは礫の量が少ない。

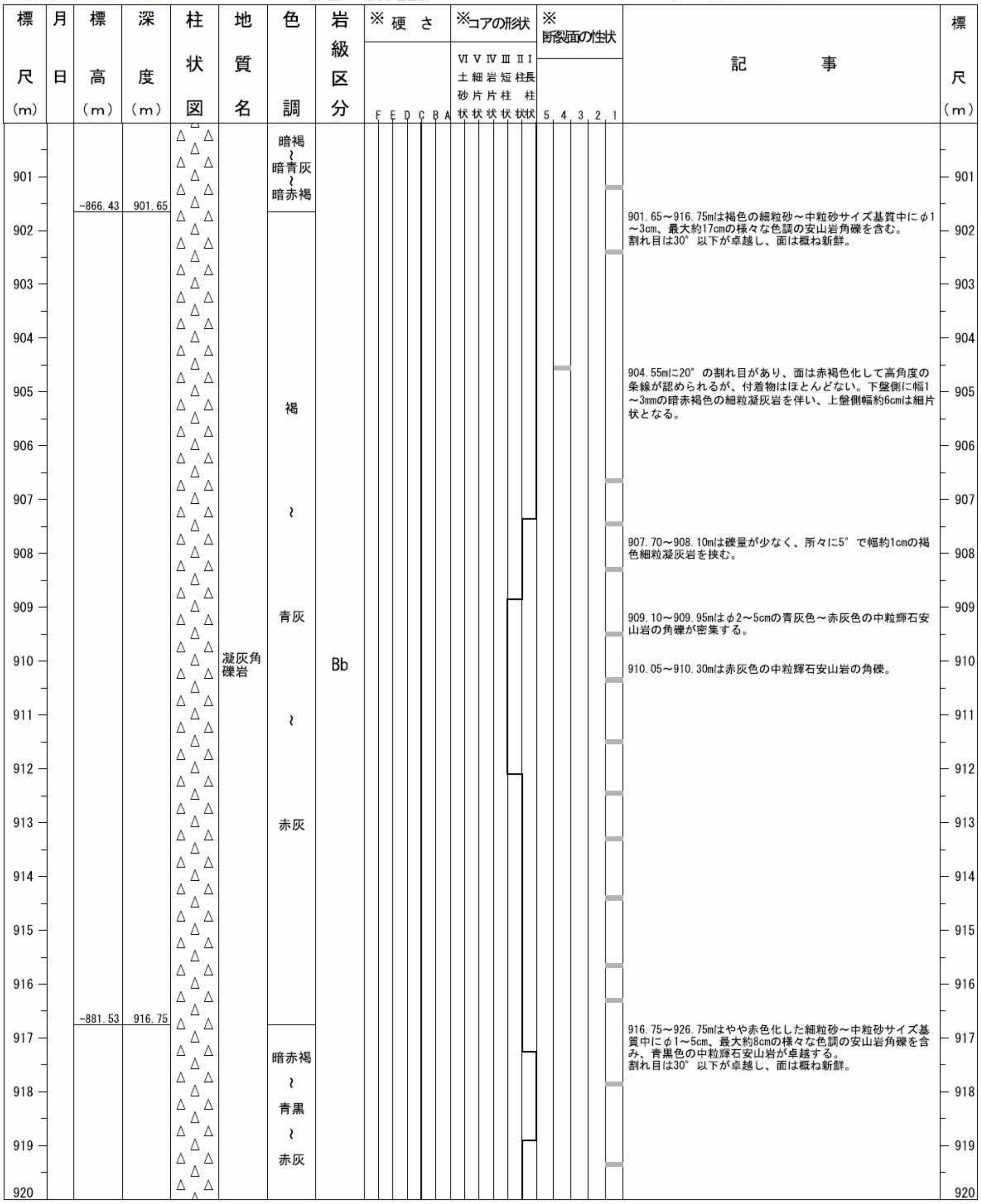
※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（46/63）

K-13.6（63の46）　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

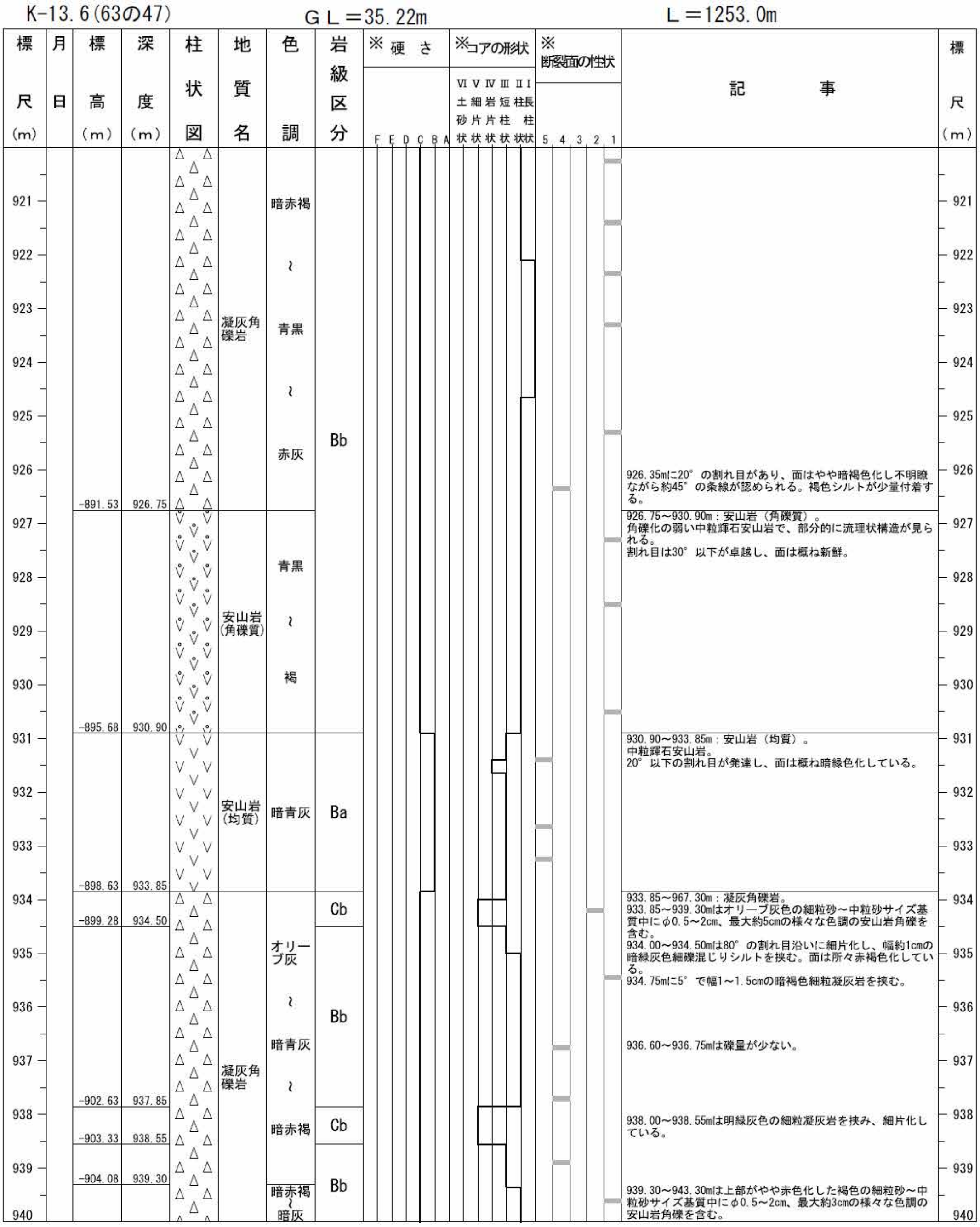


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（47/63）



※硬さ

- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(48/63)

K-13.6(63の48)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
940～941.30	-906.08	941.30	凝灰角礫岩	暗赤褐～暗灰	Bb	940.15～940.35mは緑灰色の細粒凝灰岩を挟み、細片化している。
941.30～943.30	-908.08	943.30	凝灰角礫岩	暗褐～暗灰	Bb	942.90mに45° の割れ目があり、面は暗緑色化して不明瞭ながら高角度の条線が認められ、暗緑色シルトが少量付着する。 943.25mに70° の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、低角度の条線が認められ、暗緑色シルトが少量付着する。
943.30～954.85	-919.63	954.85	凝灰角礫岩	褐～青灰～暗灰	Bb	943.30～954.85mは褐色の細粒砂サイズ基質中にφ1～4cm、最大約19cmの様々な色調の安山岩角礫を含み、青灰色の細粒輝石安山岩が卓越する。 944.45～944.55mに10° の暗黄褐色中粒凝灰岩を挟む。 946.80mに50° の割れ目があり、面は暗緑色化して暗緑褐色シルトが少量付着する。 947.55mに60° の割れ目があり、面は暗緑色化して暗緑褐色シルトが少量付着する。 949.15～949.85mは30～50° の割れ目が発達し、面は概ね暗緑色化している。 951.45mに60° の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、褐色シルトが少量付着する。
954.85～960			凝灰角礫岩	暗褐～暗灰	Bb	954.85～967.30mは暗褐色の細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約6cmの暗灰色の安山岩角礫を含む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 955.25mに40° の割れ目があり、面は暗緑色化して高角度の条線が認められ、暗褐色シルトが少量付着する。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（49/63）

K-13.6（63の49）　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標高 (m)	深度 (m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-932.08	967.30	凝灰角礫岩	暗褐～暗灰	Bb	962.60～962.70mに20°の暗褐色細粒凝灰岩を挟む。 963.50mに10°で幅3cmの黄褐色細粒凝灰岩を挟む。 964.10～964.20mに暗褐色中粒凝灰岩を挟み、10°の細粒凝灰岩の葉理が認められる。
-937.13	972.35	安山岩（角礫質）	暗青灰	Bb	967.30～972.35m：安山岩（角礫質）。 角礫化がごく弱く均質に近い中粒輝石安山岩。 30°以下の割れ目が卓越し、面は概ね黒色化している。 971.30mに50°の割れ目があり、面は暗赤褐色化し60°の条線が認められ、下盤側幅1～1.5cmは細角礫化し暗緑色軟質鉱物が充填している。 971.30～972.25mは自破砕状でφ2～4cmの角礫が密集する。
		安山岩（均質）	青灰	Ba	972.35～982.80m：安山岩（均質）。 中粒輝石安山岩。 40～60°の割れ目が卓越し、面は概ね黒色～暗赤褐色化している。また、暗緑色鉱物で充填された潜在割れ目も同程度に認められる。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(50/63)

K-13.6(63の50)　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
		安山岩(均質)	青灰	Ba	981.20mに75° の割れ目があり、面は黒色～暗赤褐色化して約30° の条線が認められ、一部幅4mmの方解石を挟む。 982.10～982.65mは45～60° で幅2mm以下の暗緑色鉱物を挟む潜在割れ目が発達する。
-947.58	982.80				
		安山岩(角礫質)	暗緑灰	Bb	982.80～996.60m：安山岩（角礫質）。 角礫化がごく弱く均質に近い細粒輝石安山岩。 割れ目は少ないが、面は黒色化したものがやや多い。
-947.98	983.20				
				Ab	
-953.38	988.60				
				Bb	989.20mに80° の割れ目があり、面はほぼ新鮮で付着物もほとんどないが、上盤側に幅4～5mmの方解石を伴う。 989.55～989.85mは角礫化がやや進み、φ0.5～2cmの角礫を含む。 991.25mに75° の割れ目があり、面は暗赤褐色で幅2～5mmの暗赤褐色細粒凝灰岩に沿い、高角度の条線が認められるが付着物はほとんどない。類似の性状の潜在割れ目が上盤側に1条、下盤側に2条認められる。 991.65～992.10mは角礫化がやや進んでいる。
-956.33	991.55				
				Ab	
-961.38	996.60				
		凝灰角礫岩	暗緑灰～赤褐～青灰		996.60～1002.10m：凝灰角礫岩。 暗緑灰色のシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2.5cm、最大約5cmの様々な色調の安山岩角礫を含み、赤褐色の細粒輝石安山岩角礫が卓越する。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。
-963.03	998.25				
				Bb	

標尺(m)：981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000

※硬さ
A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（51/63）

K-13.6（63の51）　　ＧＬ＝35.22m　　Ｌ＝1253.0m

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
1000～1002.10	-966.88	1002.10	凝灰角礫岩	暗緑灰～赤褐～青灰	Bb	
1002.10～1005.40	-970.18	1005.40	安山岩（角礫質）	青灰	Bb	1002.10～1005.40m：安山岩（角礫質）。 角礫化がごく弱く均質に近い中粒輝石安山岩。 40～60°の割れ目が発達し、面は概ね暗緑色化している。
1005.40～1014.75	-979.53	1014.75	凝灰角礫岩	暗緑灰～赤褐～青灰	Bb	1005.40～1014.75m：凝灰角礫岩。 暗緑灰色のシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約10cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 1006.15mに70°の割れ目があり、面は黒色～暗赤褐色化し、ほぼ水平な条線が認められるが、付着物はほとんどない。
1014.75～1020			安山岩（均質）	青灰	Ba	1014.75～1020.75m：安山岩（均質）。 中粒輝石安山岩。 幅1mm以下の暗緑灰色鉱物を挟む20°以下の割れ目や潜在割れ目が発達し、面は概ね暗緑色。 1018.35～1018.60mはごく弱く角礫化している。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（52/63）

K-13.6（63の52）　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

標高（m）	深度（m）	地質名	色調	岩級区分	記事
-984.83～-985.53	1020.05～1020.75	安山岩（均質）	青灰	Ba / Ca	1020.05～1020.60mはほぼ水平な割れ目と50～70°の割れ目が交差して細片状となる。低角度の面は概ね暗緑色だが、高角度の面は概ね新鮮。
-985.53～-996.43	1020.75～1031.65	凝灰角礫岩	暗緑灰～赤褐～青灰	Bb	1020.75～1038.50m：凝灰角礫岩。 1020.75～1031.65mは暗緑灰色のシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約7cmの角礫を含む。礫種は様々な色調の安山岩を主体とし、様々な色調の凝灰岩や泥岩、赤色化した石英閃緑岩が混じる。また、所々に幅20～35cmの細粒凝灰岩を挟む。 割れ目は比較的少なく、面は概ね新鮮。 1022.20～1022.40mは赤色化した石英閃緑岩の角礫。 1023.95～1024.30mは細粒凝灰岩を挟む。 1028.05～1028.20mは約30°の葉理を有する細粒凝灰岩を挟む。 1030.05～1030.40mは暗灰色の中粒輝石安山岩角礫。 下層との境界に20°の暗褐色の墨流し状葉理をもつ幅1.5cmの細粒凝灰岩を挟む。
-996.43～-1003.28	1031.65～1038.50	凝灰角礫岩	緑灰～暗緑灰	Bb	1031.65～1038.50mは緑灰色のシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約6cmの暗緑灰色細粒～中粒安山岩角礫を含む。 割れ目は比較的少なく、面は概ね新鮮。 1034.45mに40°の割れ目があり、幅2～4mmの灰色細粒凝灰岩を挟み、約45°の条線が認められる。
-1003.28～	1038.50～	安山岩（角礫質）	暗緑灰	Bb	1038.50～1040.35m：安山岩（角礫質）。 角礫化の弱い中粒輝石安山岩。 割れ目は少なく、面は新鮮。

標尺（m）：1021～1040

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(53/63)

K-13.6(63の53)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-1005.13	1040.35	安山岩(角礫質)	暗緑灰	Bb	
-1009.18	1044.40	凝灰角礫岩	緑灰〜暗緑灰	Bb	1040.35〜1046.50m：凝灰角礫岩。 1040.35〜1044.40mは緑灰色のシルト〜細粒砂サイズ基質中にφ0.5〜2cm、最大約4cmの暗緑灰色細粒安山岩角礫を含む。礫径・礫量ともに下位に向って減少し、所々に細粒凝灰岩の葉理が認められる。 1042.20mに50°の割れ目があり、幅1〜2mmの灰色細粒凝灰岩を挟み、高角度の条線が認められる。
-1011.28	1046.50	凝灰角礫岩	褐灰〜緑灰〜青灰	Bb	1044.40〜1046.50mは褐灰色のシルト〜細粒砂サイズ基質中にφ0.5〜2cm、最大約7cmの様々な色調の安山岩、デイサイト、泥岩の角礫を含む。礫径・礫量ともに下位に向って増加する。 1045.50〜1046.50mは緑灰色のデイサイト角礫が密集する。
-1014.48	1049.70	凝灰岩	青黒〜暗赤褐〜暗緑灰	Bb	1046.50〜1049.70m：凝灰岩。 青黒色〜暗赤褐色の細粒凝灰岩が卓越し、所々に様々な粒度・色調の凝灰岩を挟む。堆積時の擾乱を示す墨流し状構造が認められる。 1046.50〜1047.10mは細片化している。
-1018.18	1053.40	デイサイト(角礫質)	黒褐〜緑灰	Bb	1049.70〜1053.40m：デイサイト(角礫質)。 角礫化がやや進んだ無斑晶質デイサイトで、境界が明瞭な角礫が密集する。 割れ目は比較的少なく、面は概ね新鮮。
-1019.08	1054.30	凝灰岩	緑灰	Bb	1053.40〜1054.65m：凝灰岩。 1053.40〜1053.75mは粗粒凝灰岩〜火山礫凝灰岩。 1053.75〜1054.30mは細粒凝灰岩。いずれも水平〜15°の葉理が認められる。
-1019.43	1054.65	凝灰岩	暗赤褐	Bb	1054.30〜1054.65mは赤色化した細粒凝灰岩が主体で、堆積時の擾乱構造が認められる。
-1020.43	1055.65	デイサイト(角礫質)	緑灰〜暗褐	Bb	1054.65〜1055.65m：デイサイト(角礫質)。 角礫化がやや進んだ無斑晶質デイサイトで緑灰色〜暗褐色の角礫が混じる。
-1021.33	1056.55	凝灰岩	赤褐	Bb	1055.65〜1056.55m：凝灰岩。 赤色化した細粒凝灰岩が主体で、10〜20°の葉理や堆積時の擾乱構造が認められる。
		デイサイト(角礫質)	暗緑灰〜黒褐	Bb	1056.55〜1066.25m：デイサイト(角礫質)。 1056.55〜1061.75mは角礫化の弱い無斑晶質デイサイト。 幅1mm以下の赤褐色鉱物を挟む割れ目や潜在割れ目が卓越し、面は概ね赤色化しているが付着物はほとんどない。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ：柱　状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ：短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ：岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ：細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(54/63)

K-13.6(63の54)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-1031.03	1066.25	デイサイト(角礫質)	暗緑灰～黒褐	Bb	1061.75～1066.25mは角礫化のやや進んだ無斑晶質デイサイト。所々に幅3～4cmで30～45°の細粒凝灰岩を挟む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。
-1034.53	1069.75	凝灰角礫岩	黒褐～暗緑灰	Bb	1066.25～1073.35m：凝灰角礫岩。 暗色のシルトサイズ基質中にφ1～3cm、最大約8cmの暗褐色～暗緑灰色無斑晶質デイサイト角礫を含む。 所々に25～35°の葉理が認められる。 1066.25～1069.75mは、割れ目は少ないが、面は暗緑色化し暗緑色～赤褐色軟質鉱物が少量付着する。
-1035.28	1070.50	凝灰角礫岩	暗緑灰	Bb	1070.40mに30°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、45°の条線が認められ、暗緑色軟質鉱物が少量付着する。
-1038.13	1073.35	凝灰角礫岩	暗緑灰～黒褐	Bb	1071.70mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、30°の条線が認められる。 1073.05～1073.30mは30～45°の平行割れ目が発達し、岩片状となる。面は暗緑色化して光沢があり、様々な角度の条線が認められ、暗緑色軟質鉱物が少量付着する。
-1042.63	1077.85	安山岩(均質)	暗青灰	Ba	1073.35～1077.85m：安山岩(均質)。 細粒輝石安山岩。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。
		凝灰角礫岩	黒褐～暗緑灰	Bb	1077.85～1105.85m：凝灰角礫岩。 1077.85～1081.35mは暗色のシルトサイズ基質中にφ1～3cm、最大約10mmの無斑晶質デイサイトや安山岩の角礫を含む。 割れ目は少なく、面は概ね新鮮。 1078.80mに50°の割れ目があり、面は暗緑色化して、幅1mmの暗緑色軟質鉱物と方解石が付着する。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない(金属音)。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難(亜金属音)。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく(亜金属音)。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる(だく音)。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下(だく音)。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状(30cm以上の円柱状コア)
- Ⅱ：柱　状(10cm以上30cm未満の円柱状コア)
- Ⅲ：短柱状(全周を有し10cm未満)
- Ⅳ：岩片状(全周のない4cm以上の岩片)
- Ⅴ：細片状(長さ4cm未満の岩片)
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する(厚さ0.5mm以上について記載)。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(55/63)

K-13.6(63の55)　GL＝35.22m　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	柱状図	地質名	色調	岩級区分
-1046.13	1081.35		凝灰角礫岩	黒褐～暗緑灰	Bb
-1046.98	1082.20		凝灰角礫岩	褐灰	Bb
-1047.38	1082.60		凝灰角礫岩	緑灰	Bb
-1051.08	1086.30		凝灰角礫岩	暗緑灰～黒褐	Bb
			凝灰角礫岩	暗赤褐～緑灰～青灰	Bb

標尺(m): 1081 – 1100

記事

1082.25mに30°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、45°の条線が認められる。
1082.60～1086.30mは暗色のシルトサイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約5cmの角礫を含む。礫種は暗緑灰色無斑晶質デイサイトが卓越し、葉理を有する暗褐色泥岩が混じる。

1084.90～1085.35mは高角度の割れ目が発達し岩片状となる。面は暗緑色化して光沢があり、所々条線が認められる。

1085.80～1086.20mは50～70°の割れ目に沿って脆弱化し、岩片状となる。面は暗褐色化して光沢があり、面に沿ってフィルム状に剥離する。
1086.30～1104.50mは赤色化したシルト～細粒砂サイズ基質中にφ0.5～2cm、最大約7cmの様々な色調の安山岩角礫を含む。
20～40°の割れ目が卓越し、面は概ね新鮮であるが、所々光沢や条線を有する。

1087.85mに35°の割れ目があり、面は赤褐色で光沢があり暗赤褐色シルトが少量付着する。

1089.10mに75°の割れ目があり、面は赤褐色でやや光沢があり60°の条線が認められ、暗褐色シルトが少量付着する。

1090.65～1091.25mは割れ目沿いに脆弱化し、岩片状となる。

1091.30mに50°で幅2～5mmの暗赤褐色細粒凝灰岩に沿った割れ目がある。面は緑色化し、低角度の条線が認められる。

1094.45mに70°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、約40°の条線が認められ、幅1mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。

1095.25mに80°で幅0.5～1cmの緑灰色粗粒凝灰岩に沿った割れ目がある。面はわん曲し、30～40°の不明瞭な条線が認められ、褐色シルトが少量付着する。

1096.70～1097.35mは基質も緑灰色となる。

※硬さ
A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1．割目が新鮮。
2．付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3．付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4．付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5．付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(56/63)

K-13.6(63の56)　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	岩級区分	記事
-1067.18	1102.40	凝灰角礫岩	暗赤褐～緑灰～青灰	Bb	
-1069.28	1104.50	凝灰角礫岩	赤褐	Bb	1102.40～1104.50mは基質・角礫ともに赤褐色化。 1103.15mに60°の割れ目があり、面は暗緑色化して光沢があり、幅1mmの暗緑色軟質鉱物を挟む。
-1070.63	1105.85	凝灰角礫岩	緑灰	Bb	1104.50～1105.85mは緑灰色の粗粒砂サイズ基質が主体で、角礫はわずかである。
-1073.68	1108.90	安山岩(均質)	暗青灰	Ba	1105.85～1108.90m：安山岩（均質）。 細粒輝石安山岩。 割れ目は30～50°が卓越し、面は概ね黒色化している。
-1073.93	1109.15	凝灰角礫岩	黒褐～緑灰	Bb	1108.90～1109.15m：凝灰角礫岩。 黒褐色のシルトサイズ基質中にφ6cmの安山岩角礫を含む。
-1074.38	1109.60	頁岩	暗赤褐		1109.15～1109.60m：頁岩。 細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。
-1078.23	1113.45	砂岩	灰白		1109.60～1113.80m：砂岩。 中粒～粗粒砂岩。下位に向って粗粒化傾向。 所々に堆積時の擾乱構造が認められる。 割れ目はほとんどない。 1113.15～1113.45mは極粗粒で細礫混じり。
-1078.58	1113.80	砂岩	緑灰		1113.45～1113.80mは細粒で凝灰質。
-1083.78	1119.00	頁岩	暗赤褐		1113.80～1119.00m：頁岩。 全体的に細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。 1115.40～1115.55mは凝灰質な細粒砂岩を挟む。 1118.30～1118.60mは細粒砂岩を挟む。
-1084.58	1119.80	砂岩	灰白		1119.00～1119.80m：砂岩。 やや凝灰質な細粒砂岩。20～30°の葉理が認められる。
		頁岩	黒褐		1119.80～1120.20m：頁岩。

※硬さ

- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状

- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状

1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(57/63)

K-13.6(63の57)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	記事
-1084.98	1120.20	頁岩	黒褐	細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。
-1086.63	1121.85	砂岩	灰白	1120.20～1121.85m：砂岩。 細粒～中粒砂岩。所々に20～30° の葉理や堆積時の擾乱構造が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。 1121.55～1121.80mは極粗粒。
-1088.28	1123.50	頁岩	黒褐	1121.85～1123.50m：頁岩。 1121.85～1123.20mは岩片状で、割れ目面は光沢を有するものが多い。所々に細粒砂岩を挟む。
-1088.93	1124.15	砂岩	緑灰	1123.50～1124.15m：砂岩。 やや凝灰質な細粒砂岩。割れ目面は概ね新鮮。
-1090.08	1125.30	頁岩	黒褐	1124.15～1125.30m：頁岩。 全体的に細片化しており、表面に光沢を有するものが多い。
-1091.03	1126.25	安山岩(均質)	暗青灰	1125.30～1126.25m：安山岩（均質）。 細粒輝石安山岩。割れ目面は概ね暗緑色化している。
-1092.38	1127.60	礫岩	灰白	1126.25～1127.60m：礫岩。 粗粒砂基質中にφ0.5～2cmの角礫を含む。
-1096.33	1131.55	砂岩	灰白	1127.60～1131.55m：砂岩。 粗粒～中粒砂岩。下位に向って細粒化傾向。 所々に20～30° の葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。 1128.40～1129.30mは所々に細礫が混じる。 1130.75～1131.55mは所々に細礫が混じる。
-1098.63	1133.85	頁岩	暗赤褐	1131.55～1133.85m：頁岩。 20～40° の割れ目が発達し岩片状となる。割れ目面は概ね新鮮。
-1098.98	1134.20	砂岩	赤褐	1133.85～1135.25m：砂岩。 粗粒～中粒砂岩。約40° の葉理が認められる。割れ目は少ない。
-1100.03	1135.25	砂岩	灰白	
-1104.03	1139.25	頁岩	暗赤褐	1135.25～1139.25m：頁岩。 25～45° の割れ目が発達し、岩片状～細片状となる。割れ目面は概ね新鮮。 1135.55mに35° の割れ目があり、面は光沢があり、幅約5cmが細片化している。細片の表面も光沢を有する。 1135.65～1136.25mはやや凝灰質。
-1104.43	1139.65	砂岩	灰白	1139.25～1141.75m：砂岩。 1139.25～1139.45mはやや凝灰質な細粒砂岩。 1139.45～1139.65mは極粗粒砂岩。
-1104.78	1140.00	砂岩	暗赤褐	1139.65～1140.00mは泥質～凝灰質な細粒砂岩。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（58/63）

K-13.6（63の58）　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高（m）	深度（m）	地質名	色調	記事
-1105.48	1140.70	砂岩	灰白	1140.00～1140.70mは中粒～極粗粒砂岩。約20° の葉理が認められる。
-1106.53	1141.75	砂岩	暗赤褐～緑灰	1140.70～1141.75mは細粒～極細粒砂岩。凝灰質部と泥質部とが互層し、約30° の葉理が認められる。割れ目面は新鮮。
-1107.53	1142.75	頁岩	暗赤褐	1141.75～1142.75m：頁岩。割れ目が発達し岩片状だが、割れ目面は概ね新鮮。
-1108.13	1143.35	砂岩	灰白	1142.75～1143.35m：砂岩。中粒～極粗粒砂岩。
-1109.63	1144.85	頁岩	暗赤褐	1143.35～1144.85m：頁岩。10～20° の割れ目が2～4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
-1110.48	1145.70	砂岩	緑灰～暗褐	1144.85～1149.15m：砂岩。1144.85～1145.70mは細粒～極細粒砂岩。凝灰質部と泥質部とが互層し、20～30° の葉理が認められる。20～30° の割れ目が卓越し、面は概ね新鮮。
-1113.93	1149.15	砂岩	灰白	1145.70～1149.15mは中粒～粗粒砂岩。割れ目は少なく、面は新鮮。1147.90mに幅3cmで30° の泥岩を挟む。
-1114.78	1150.00	頁岩	暗赤褐	1149.15～1152.90m：頁岩。5～15° の割れ目が2～4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
-1115.33	1150.55	頁岩	緑灰～暗褐	1150.00～1150.55mはやや凝灰質で、約15° の葉理が認められる。
-1117.68	1152.90	頁岩	暗褐	
-1119.28	1154.50	砂岩	灰白	1152.90～1154.50m：砂岩。細粒～中粒砂岩。下位に向って粗粒化傾向。割れ目は少なく、面は新鮮。
-1121.98	1157.20	頁岩	暗褐	1154.50～1157.20m：頁岩。10～20° の割れ目が2～4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
-1123.43	1158.65	砂岩	灰白	1157.20～1158.65m：砂岩。細粒～中粒砂岩。下位に向って粗粒化傾向。10～20° の泥質葉理が認められる。10～20° の割れ目が卓越し、面は新鮮。
-1124.13	1159.35	頁岩	暗褐	1158.65～1159.35m：頁岩。割れ目は少なく、面は新鮮。
-1124.78	1160.00	砂岩	灰白	1159.35～1160.00m：砂岩。細粒～中粒砂岩。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（59/63）

K-13.6（63の59）　ＧＬ＝35.22m　Ｌ＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	柱状図	地質名	色調
-1127.88	1163.10	頁岩	頁岩	暗褐～暗赤褐
-1128.23	1163.45	砂岩	砂岩	暗褐
-1130.23	1165.45	砂岩	砂岩	緑灰～灰白
-1131.23	1166.45	頁岩	頁岩	暗褐
-1131.48	1166.70	頁岩	頁岩	緑灰
-1134.78	1170.00	頁岩	頁岩	暗褐～緑灰
-1139.68	1174.90	頁岩	頁岩	暗褐～黒褐
-1140.58	1175.80	頁岩	頁岩	暗褐～緑灰
-1141.43	1176.65	砂岩	砂岩	灰白
-1142.53	1177.75	砂岩	砂岩	緑灰～褐灰
-1144.18	1179.40	砂岩	砂岩	灰白
		頁岩	頁岩	褐灰

標尺(m)：1161, 1162, 1163, 1164, 1165, 1166, 1167, 1168, 1169, 1170, 1171, 1172, 1173, 1174, 1175, 1176, 1177, 1178, 1179, 1180

記事

1160.00～1163.10m：頁岩。
10～20°の割れ目が2～4cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。所々に40°の凝灰質な葉理が認められる。

1163.10～1165.45m：砂岩。
1163.10～1164.75mは細粒～中粒砂岩、最上部はやや泥質。割れ目面は概ね新鮮。
1164.75～1165.45mは中粒～極粗粒砂岩。所々に約30°の凝灰質な葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。

1165.45～1175.80m：頁岩。
1165.45～1170.65mは5～15°の割れ目が4～8cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。
1166.45～1166.70mは細粒～粗粒砂岩を挟む。
1168.80～1169.10mは細片化し、細片の表面は光沢がある。
1170.65～1175.80mは5～15°の割れ目が2～4cmで発達し、岩片状～細片状コア主体となるが、面は概ね新鮮。
1175.55～1175.60mは約10°の砂質葉理を挟む。

1175.80～1179.40m：砂岩。
1175.80～1176.65mは細粒～中粒砂岩。下位に向って粗粒化傾向。約10°の泥質葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。
1176.65～1177.75mはやや泥質な細粒砂岩。割れ目は少なく、面は新鮮。
1177.75～1179.40mは細粒～中粒砂岩。所々に約10°の葉理が認められる。割れ目はほとんどない。

1179.40～1182.45m：頁岩。
10～20°の割れ目が2～5cm間隔で発達するが、面は概ね新鮮。所々に砂岩を挟む。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(60/63)

K-13.6(63の60)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

標高(m)	深度(m)	地質名	色調	記事
-1145.28	1180.50	頁岩	褐灰	
-1147.23	1182.45	頁岩	暗褐	1181.05～1081.25mは中粒砂岩を挟む。 1181.55～1181.70mは凝灰質な細粒～中粒砂岩を挟み、20°の葉理が認められる。
-1147.68	1182.90	砂岩	緑灰	1182.45～1188.40m：砂岩。 1182.45～1182.90mは凝灰質な細粒砂岩。割れ目面は新鮮。 1182.90～1188.40mは中粒～粗粒砂岩で、所々に10～20°の凝灰質な葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。
-1149.48	1184.70	砂岩	灰白～緑灰	
-1153.18	1188.40	砂岩	灰白	
-1154.73	1189.95	頁岩	暗褐～褐灰	1188.40～1189.95m：頁岩。 全体的にやや砂質で、10～20°の割れ目が3～7cm間隔で発達するが、面は新鮮。
-1155.73	1190.95	砂岩	緑灰～暗褐	1189.95～1190.95m：砂岩。 凝灰質な細粒砂岩。10～20°の泥質な葉理が発達する。10～20°の割れ目が卓越するが、面は新鮮。
-1156.73	1191.95	頁岩	黒褐～緑灰	1190.95～1191.95m：頁岩。 所々に凝灰質部を挟む。10～20°の割れ目が発達するが、面は新鮮。
-1157.58	1192.80	砂岩	暗緑灰～暗褐	1191.95～1197.85m：砂岩。 1191.95～1192.80mは凝灰質な細粒～極細粒砂岩。割れ目面は新鮮。
-1162.63	1197.85	砂岩	灰白	1192.80～1196.65mは中粒～粗粒砂岩で、所々に15～25°の葉理が認められる。割れ目は非常に少なく、面は新鮮。 1196.65～1197.85mは極粗粒砂岩で、φ0.5～2cmの頁岩角礫を少量含む。割れ目は非常に少なく、面は新鮮。
-1164.28	1199.50	頁岩	暗褐～暗緑灰	1197.85～1200.20m：頁岩。 1197.85～1199.50mは10～20°の凝灰質な葉理がしばしば認められる。10～20°の割れ目が3～10cm間隔で発達するが、面は新鮮。
-1164.98	1200.20	頁岩	暗褐	1199.50～1200.20mは2～4cm間隔で発達する10～20°の割れ目に、60～70°の割れ目が交差して岩片状となる。面は概ね新鮮だが所々光沢がある。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(61/63)

K-13.6(63の61)　　GL＝35.22m　　L＝1253.0m

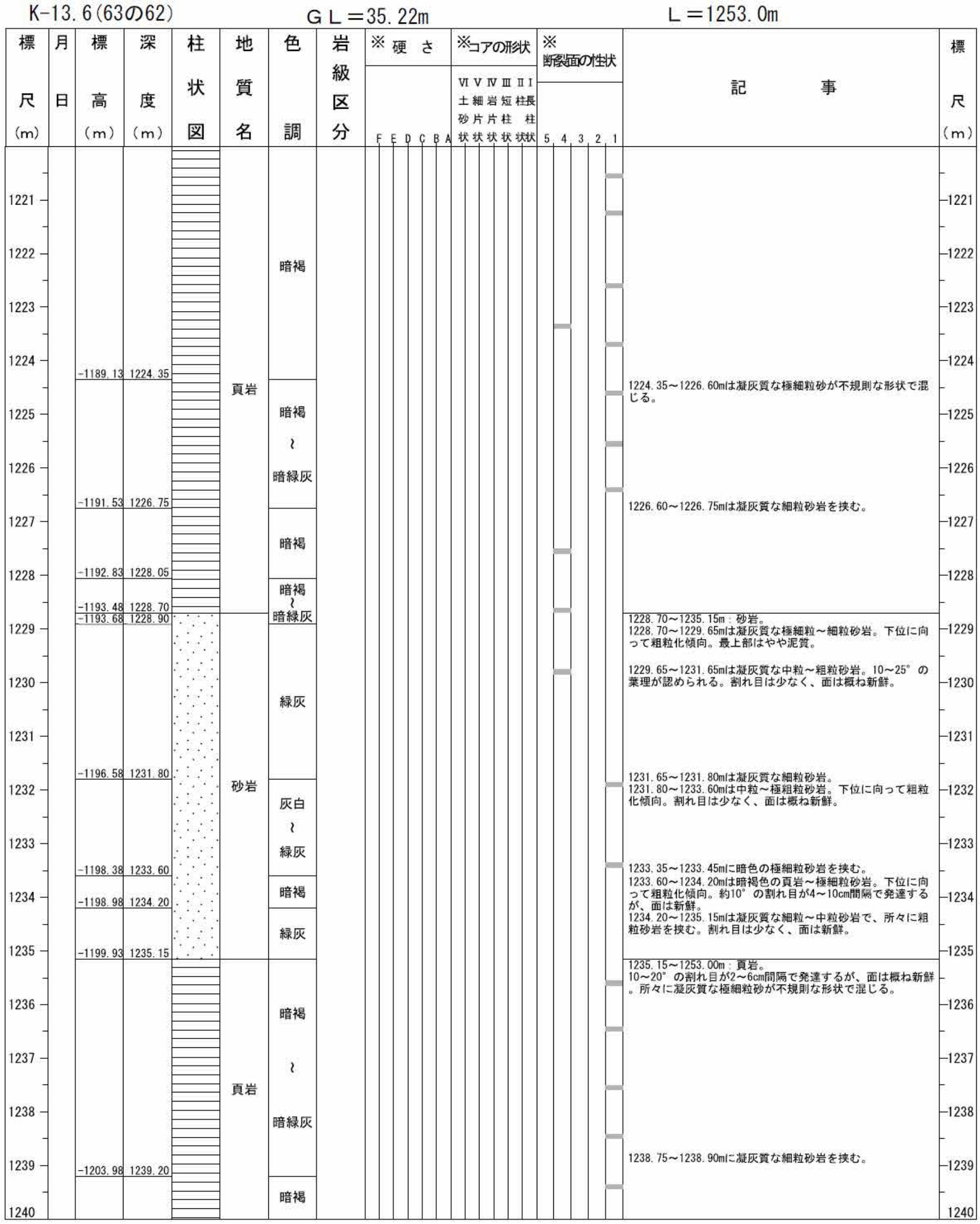
標高(m)	深度(m)	地質名	色調	記事
-1164.98	1200.20	頁岩	暗褐	
-1165.53	1200.75	砂岩	緑灰	1200.20～1200.75m：砂岩。 凝灰質な細粒砂岩。10～20° の葉理が発達。割れ目面は新鮮。
-1166.83	1202.05	頁岩	暗褐～暗緑灰	1200.75～1203.70m：頁岩。 1200.75～1203.45mは10～20° の割れ目が卓越し、60～80° の割れ目が交差する。面は所々光沢がある。10～20° の凝灰質な葉理が認められる。
-1168.48	1203.70	頁岩	暗褐	1203.45～1203.70mは70° の割れ目に沿って幅4～5cmが細片化～粘土化しており、細片の表面には光沢がある。
-1168.83	1204.05	礫岩	緑灰	1203.70～1204.05m：凝灰質な礫岩。
-1170.03	1205.25	頁岩	暗褐～暗緑灰	1204.05～1205.25m：頁岩。 所々10～20° の凝灰質な葉理が認められる。 1204.05～1204.35mは60° の割れ目に沿って幅約4cmが細片化～粘土化しており、細片の表面には光沢がある。
-1171.28	1206.50	砂岩	緑灰	1205.25～1206.50m：砂岩。 凝灰質な細粒砂岩。所々に10～20° の泥質な葉理が認められる。 割れ目は少なく、面は新鮮。
-1172.08	1207.30	頁岩	暗褐	1206.50～1207.30m：頁岩。 1206.60mに60° の割れ目があり、面には光沢があり、幅3～4mmの赤褐色細片混じり粘土を挟む。
-1173.73	1208.95	砂岩	暗褐～緑灰	1207.30～1210.85m：砂岩。 1207.30～1208.95mは凝灰質な細粒砂岩。10～20° の泥質な葉理があり、所々泥岩を挟む。10～20° の割れ目が発達するが、面は概ね新鮮。
-1175.63	1210.85	砂岩	緑灰	1208.95～1210.85mは凝灰質な細粒～中粒砂岩。所々10～20° の葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。
-1177.78	1213.00	頁岩	暗褐～暗緑灰	1210.85～1213.00m：頁岩。 1210.85～1212.45mは低角度の割れ目と高角度の割れ目が交差し、岩片状コアが卓越する。割れ目面は概ね新鮮だが、所々割れ目沿いに劣化し面に光沢がある。 1212.45～1213.00mは凝灰質で、45～60° の割れ目に沿って劣化し、全体的に脆弱。
-1179.48	1214.70	砂岩	緑灰	1213.00～1218.75m：砂岩。 1213.00～1214.70mはやや凝灰質な細粒～中粒砂岩。所々約15° の葉理が認められる。割れ目は少なく、面は新鮮。
-1183.53	1218.75	砂岩	緑灰～灰白	1214.70～1218.75mは中粒～粗粒砂岩。所々幅5～10cmの極粗粒砂岩～礫岩を挟む。
		頁岩	暗褐	1218.75～1228.70m：頁岩。 5～15° の割れ目が3～5cm間隔で発達し、所々35～45° の割れ目が交差する。低角度の面は概ね新鮮であるが、中角度の面は光沢や条線が認められることもある。

※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図（K-13.6孔）（62/63）

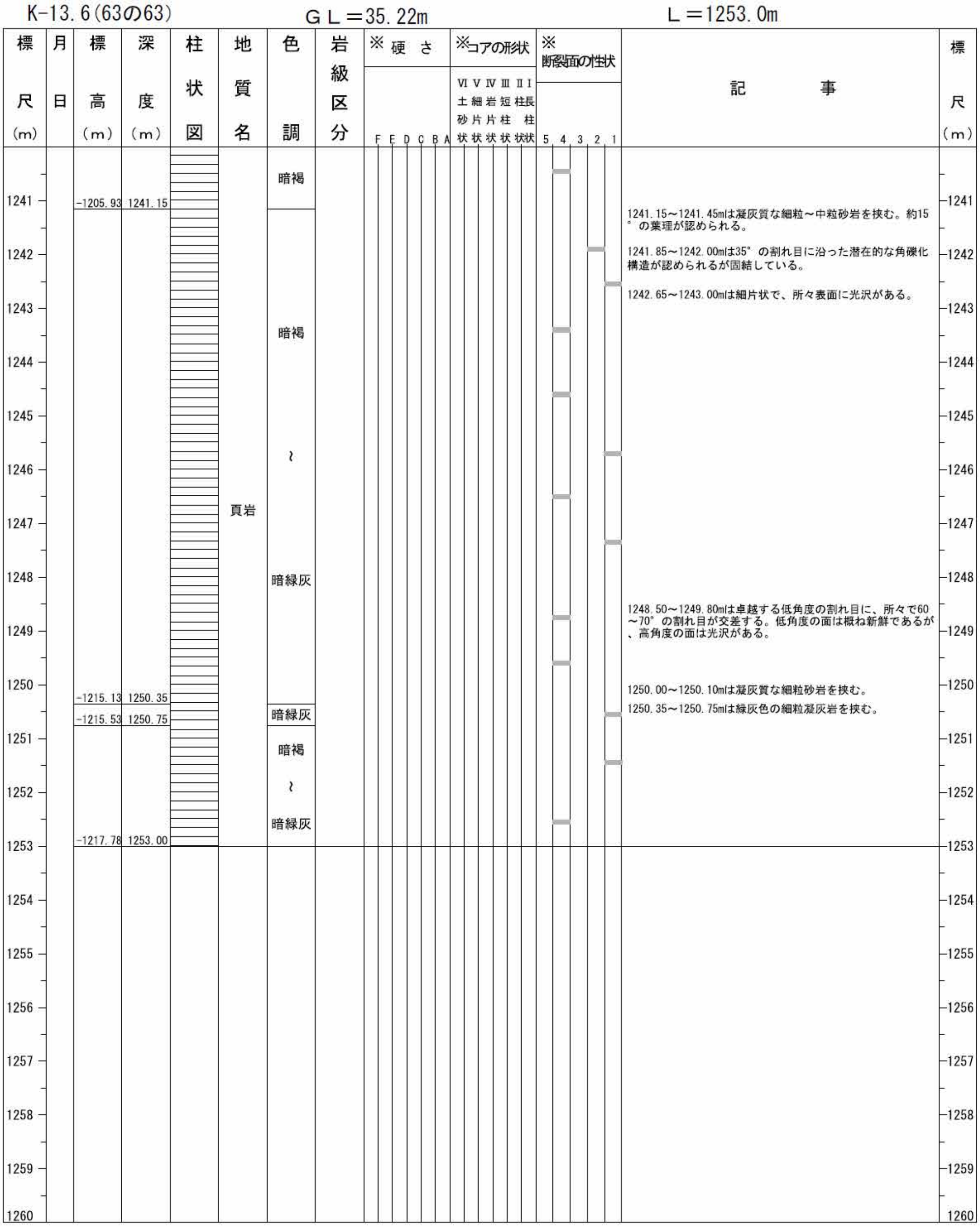


※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

柱状図(K-13.6孔)(63/63)



※硬さ
- A：ハンマーによる強打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- B：中打で割れ、ナイフで傷がつかない（金属音）。
- C：中打で割れ、ナイフで傷をつけるのが困難（亜金属音）。
- D：軽打で割れ、ナイフで傷がつく（亜金属音）。
- E：軽打で割れ、ナイフでけずれる（だく音）。
- F：手で割れ、ナイフがつきささる程度以下（だく音）。

※コアの形状
- Ⅰ：長柱状（30cm以上の円柱状コア）
- Ⅱ：柱　状（10cm以上30cm未満の円柱状コア）
- Ⅲ：短柱状（全周を有し10cm未満）
- Ⅳ：岩片状（全周のない4cm以上の岩片）
- Ⅴ：細片状（長さ4cm未満の岩片）
- Ⅵ：土砂状

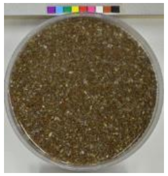
※断裂面の性状
1. 割目が新鮮。
2. 付着物があり、褐色や黒褐色を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
3. 付着物があり、青色・緑色・黄色・白色等を呈する（厚さ0.5mm以上について記載）。
4. 付着物がなく、褐色や黒褐色を呈する。
5. 付着物がなく、青色・緑色・黄色・白色等を呈する。

余白

カッティングス写真（K-13.6孔）

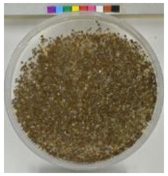
K-13.6(カッティングス写真)

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）



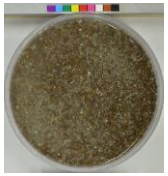
-1265m
（EL-1230m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）



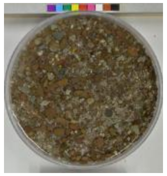
-1285m
（EL-1250m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）



-1305m
（EL-1270m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）

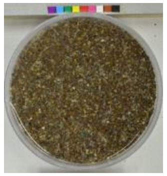


-1325m
（EL-1290m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）

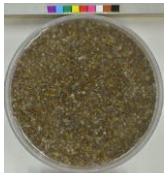
-1345m
（EL-1310m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）



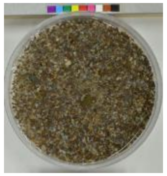
-1365m
（EL-1330m）

砂岩・泥岩互層（泥岩優勢）



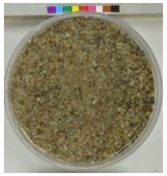
-1385m
（EL-1350m）

砂岩・泥岩・花崗岩



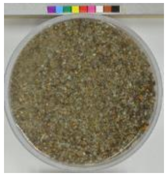
-1405m
（EL-1370m）

花崗岩



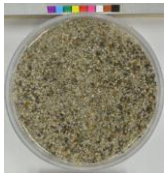
-1425m
（EL-1390m）

花崗岩



-1445m
（EL-1410m）

花崗岩



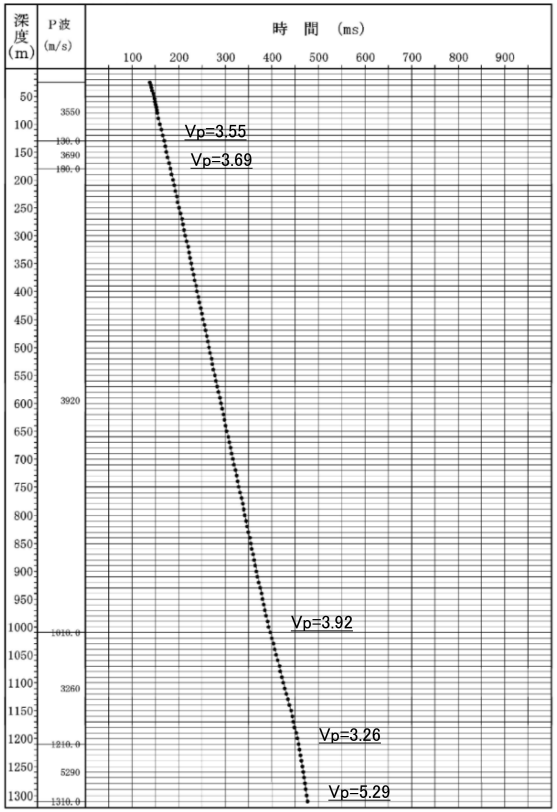
-1465m
（EL-1430m）

余白

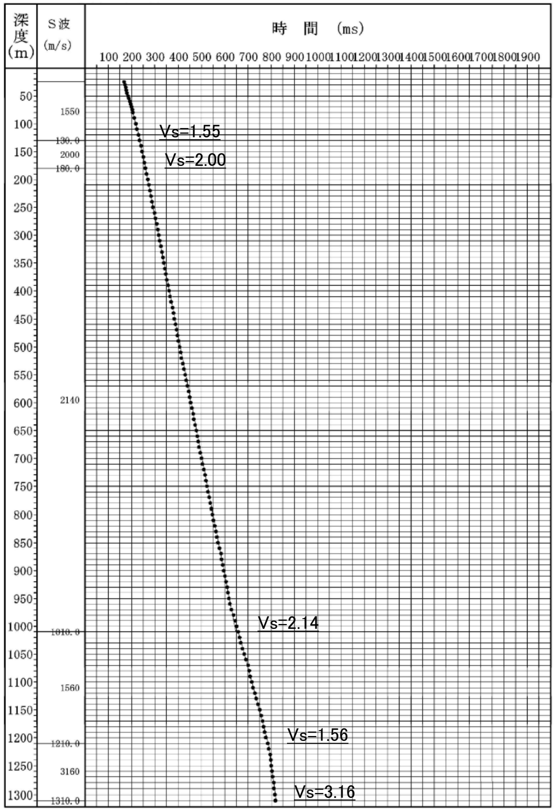
1.3 大深度ボーリング孔(D-8.6孔)を用いた調査結果

PS検層の走時曲線(D-8.6孔)

■走時曲線



P波



S波

層区分ごとの速度値

	層区分	深度 (m)	Vs (km/s)	Vp (km/s)
EL-4m				
	1	25～130	1.55	3.55
EL-110m				
	2	130～180	2.00	3.69
EL-160m				
	3	180～1,010	2.14	3.92
EL-990m				
	4	1,010～1,210	1.56	3.26
EL-1190m				
	5	1,210～1,310	3.16	5.29